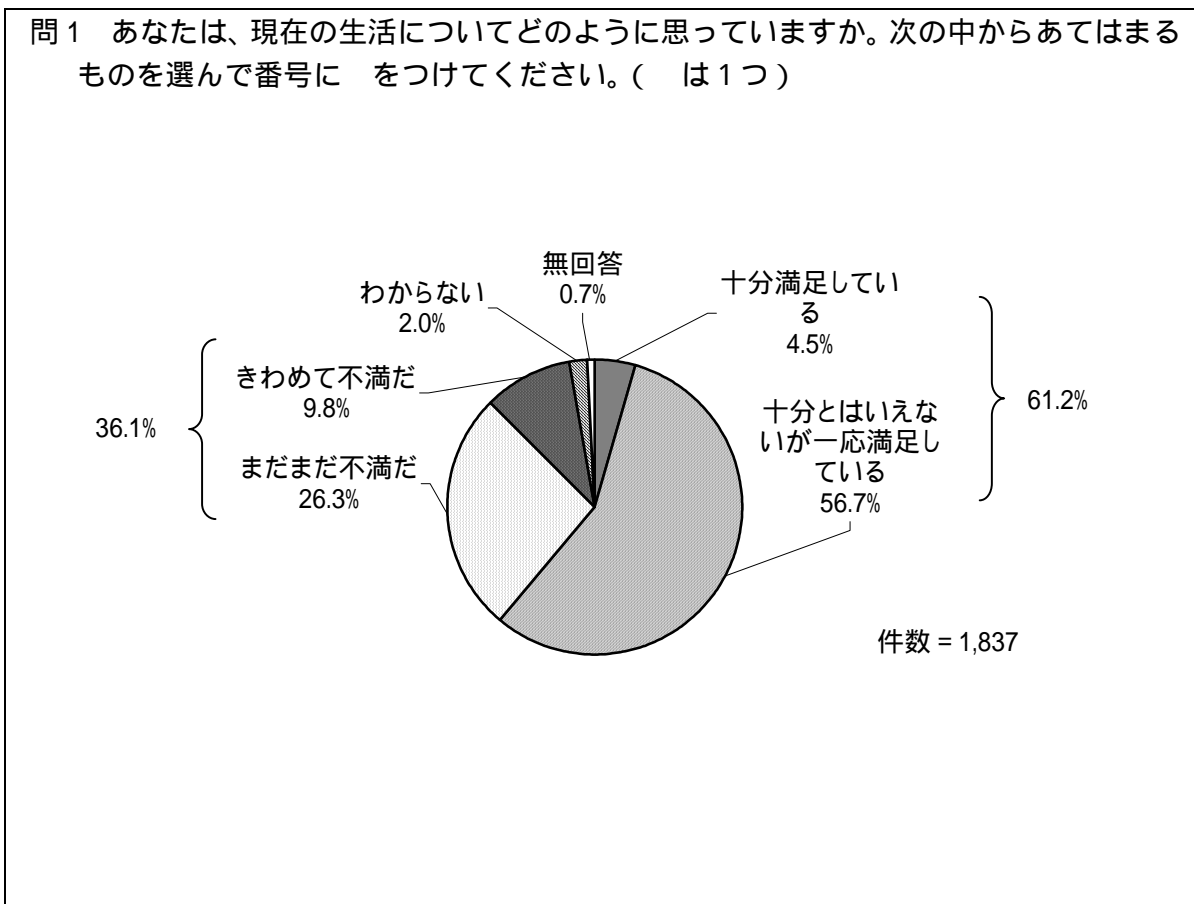


# 調查結果

# 1 県民の生活意識

## (1) 現在の生活に対する満足度

現在の生活に“満足している”が61%

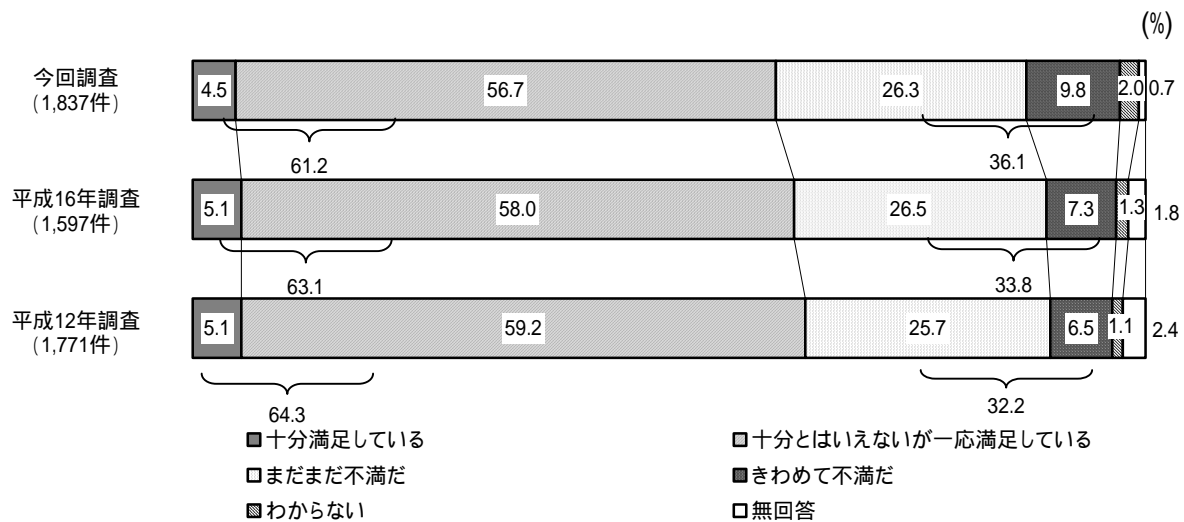


現在の生活に“満足している”（「十分満足している」4.5% + 「十分とはいえないが一応満足している」56.7%）と答えた人の割合は61.2%となっている。

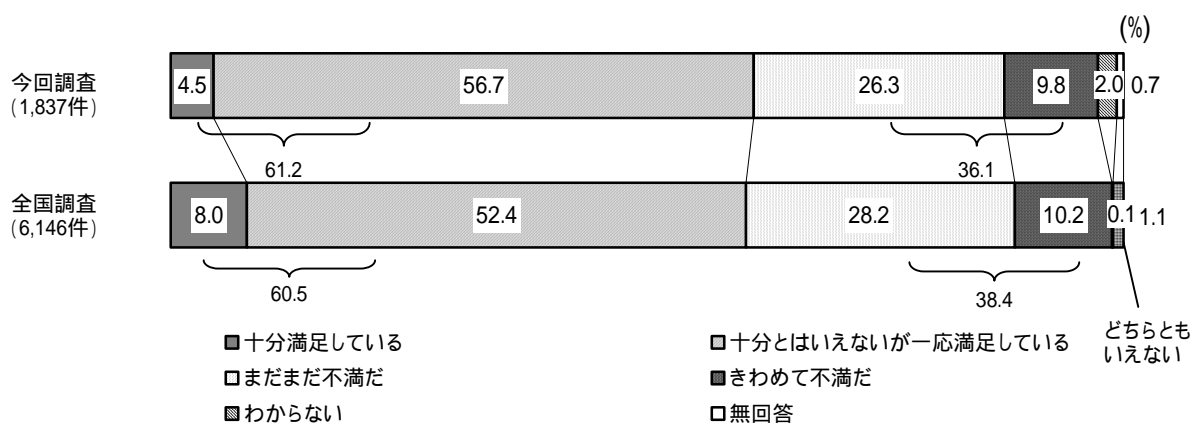
時系列比較すると、“満足している”と答えた人の割合は、減少傾向を示しており、平成16年調査（63.1%）と比べると1.9ポイント低くなっている。

また、内閣府が平成20年6月に実施した「国民生活に関する世論調査」では、調査手法が個別面接聴取法（本県は郵送法）であること及び回答選択肢にやや違いがあり、そのままの比較はし難いものの、“満足している”人の割合は全国調査が60.5%に対し、本県が61.2%と、本県が0.7ポイント高くなっている。

### 現在の生活に対する満足度（時系列比較）



### 現在の生活に対する満足度（全国調査との比較）



(注)全国調査では「満足している」「まあ満足している」「やや不満だ」「不満だ」「どちらともいえない」「わからない」という項目でたずねている。

全国調査：内閣府政府広報室「国民生活に関する世論調査」平成20年6月実施  
調査手法は個別面接聴取法

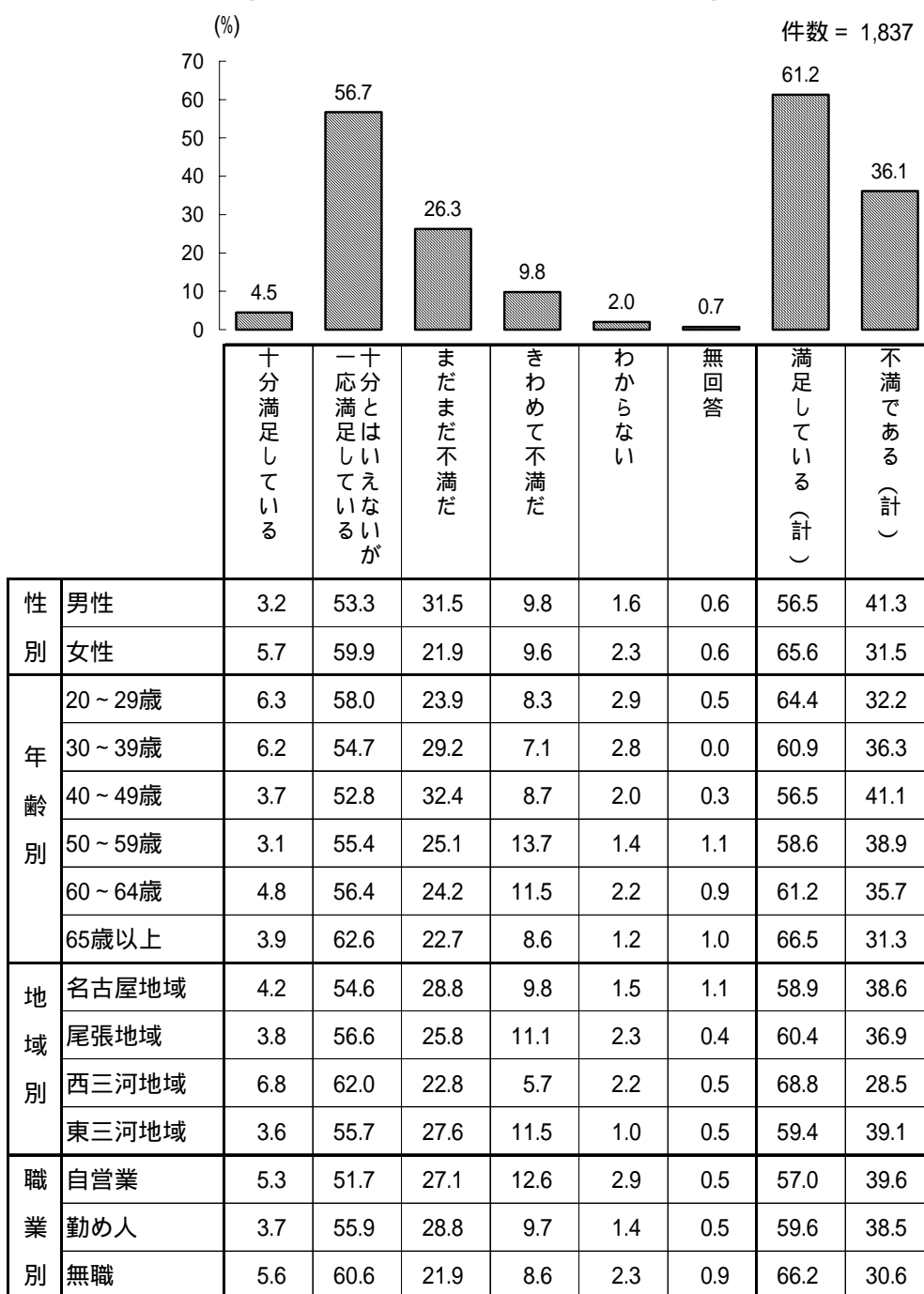
性別でみると、“満足している”(「十分満足している」+「十分とはいえないが一応満足している」と答えた人の割合は、男性(56.5%)より女性(65.6%)で9.1ポイント高くなっている。

年齢別でみると、“満足している”と答えた人の割合は、65歳以上(66.5%)と20歳代(64.4%)で高くなっている。

居住地域別でみると、“満足している”と答えた人の割合は、西三河地域(68.8%)で高くなっている。

職業別でみると、“満足している”と答えた人の割合は無職(66.2%)で高くなっている。

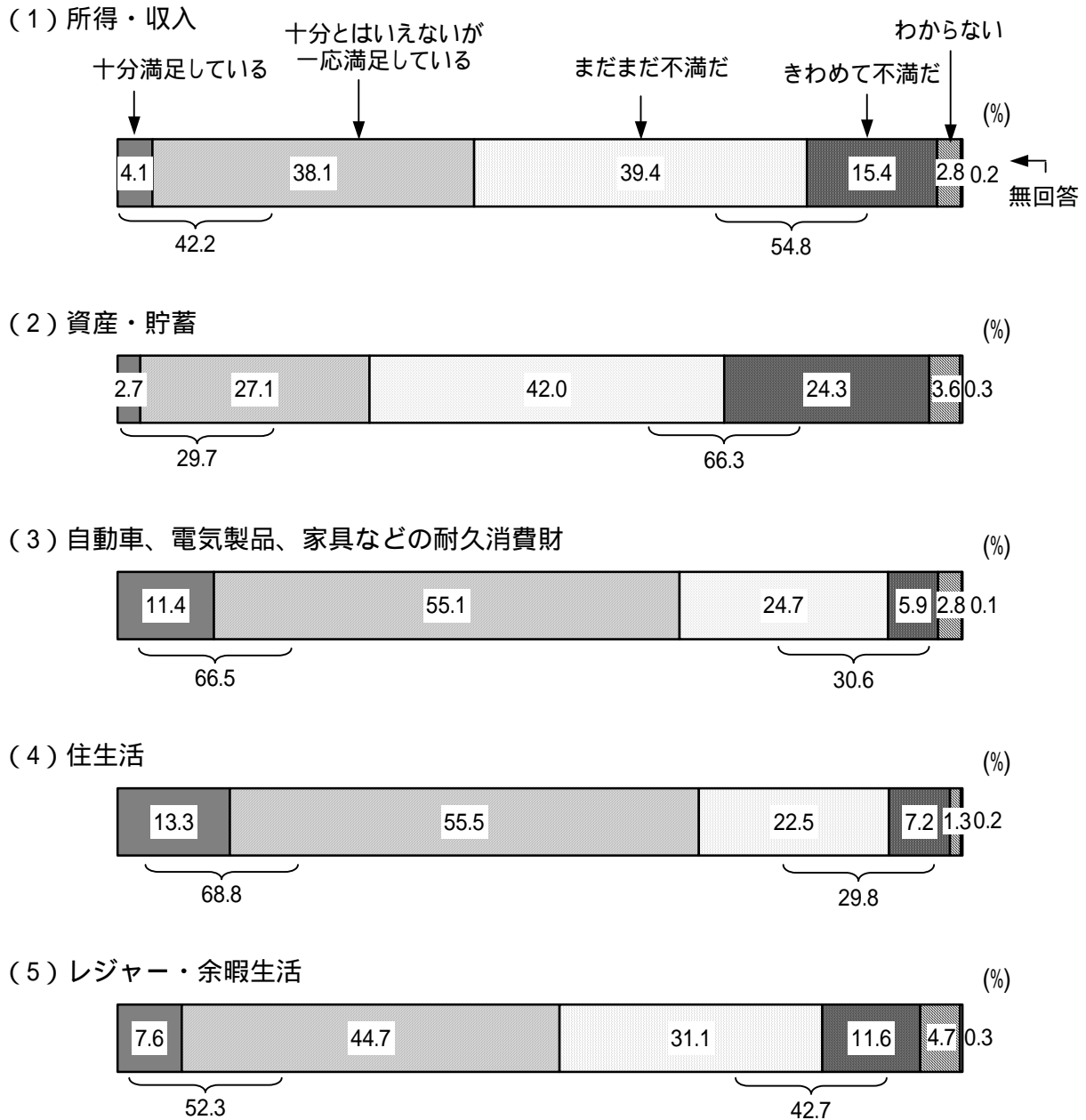
### 現在の生活に対する満足度(性別、年齢別、居住地域別、職業別)



(2) 現在の生活の領域別満足度

“満足している”人の割合は、「住生活」、「耐久消費財」で60%超

問2 あなたは(1)所得・収入(2)資産・貯蓄(3)自動車、電気製品、家具などの耐久消費財(4)住生活(5)レジャー・余暇生活の面ではどの程度満足していますか。次の中からあてはまるものを選んで番号に をつけてください。( はそれぞれ1つ)



「十分満足している」と「十分とはいえないが一応満足している」を合わせた“満足している”と答えた人の割合は、「住生活」(68.8%)、「耐久消費財」(66.5%)では6割を超え、「レジャー・余暇生活」で52.3%、「所得・収入」で42.2%、「資産・貯蓄」で29.7%となっている。

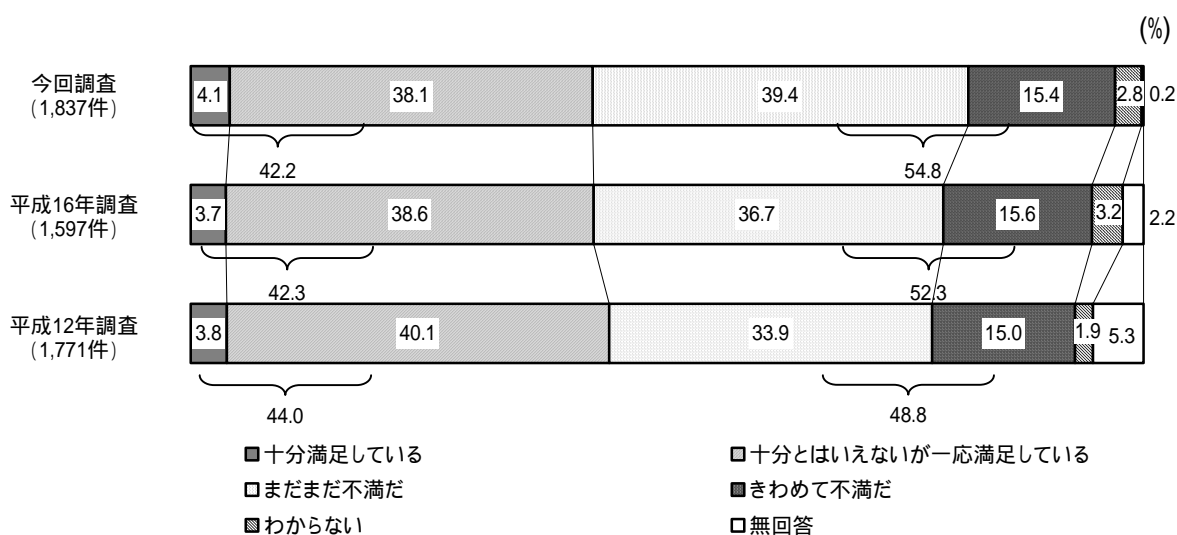
時系列比較すると、“満足している”と答えた人の割合は、「所得・収入」以外の領域では、平成16年調査と比べ、今回調査の方が2~5ポイント高くなっている。

一方、“不満である”と答えた人の割合は、平成16年調査と比べ「所得・収入」、「資産・貯蓄」ではそれぞれ2ポイント前後高くなっているが、「住生活」、「レジャー・余暇生活」ではそれぞれ2ポイント前後低くなっている。

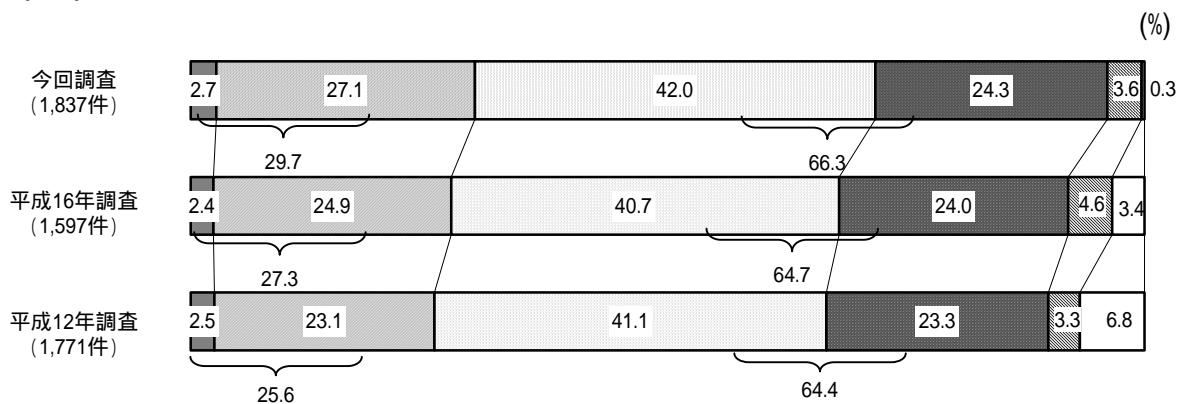
内閣府が平成20年6月に実施した「国民生活に関する世論調査」と比較すると、“満足している”人の割合は「所得・収入」、「耐久消費財」では本県の今回調査の方が高いものの、「住生活」、「資産・貯蓄」、「レジャー・余暇生活」では本県調査の方が低くなっている。

### 現在の生活の領域別満足度（時系列比較）

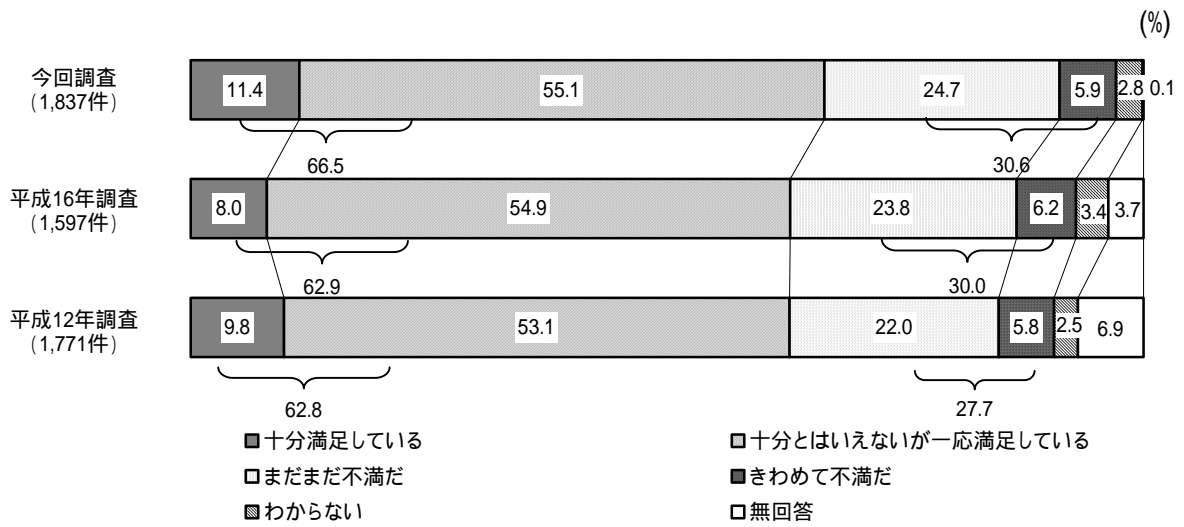
#### （1）所得・収入



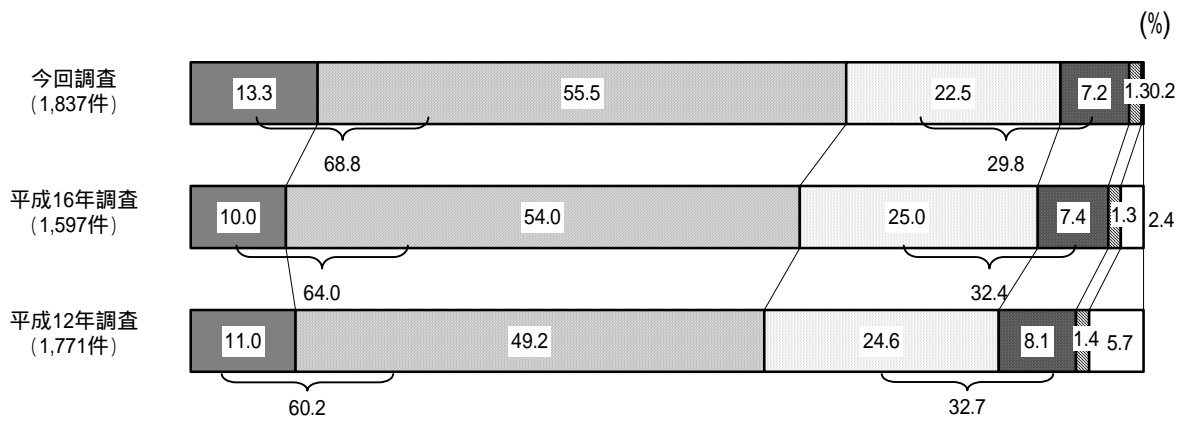
#### （2）資産・貯蓄



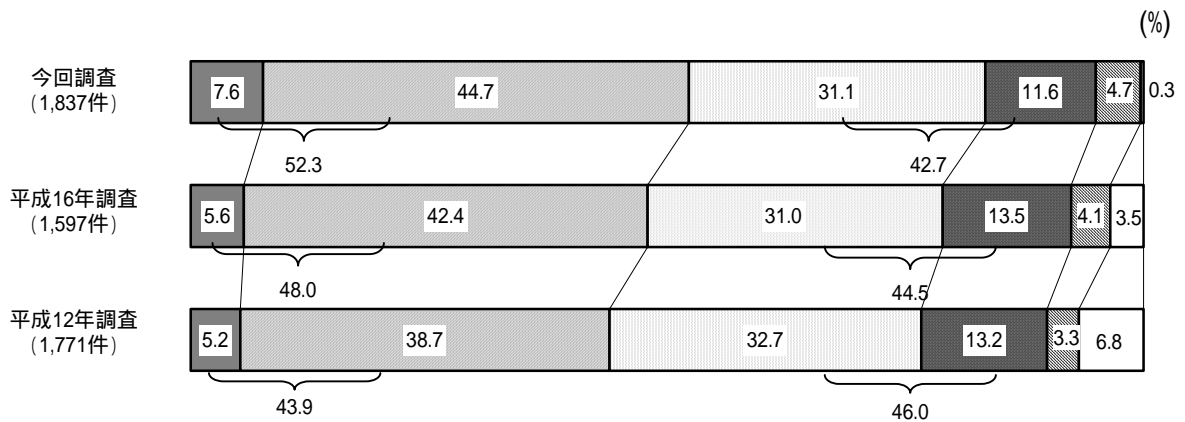
( 3 ) 自動車、電気製品、家具などの耐久消費財



( 4 ) 住生活

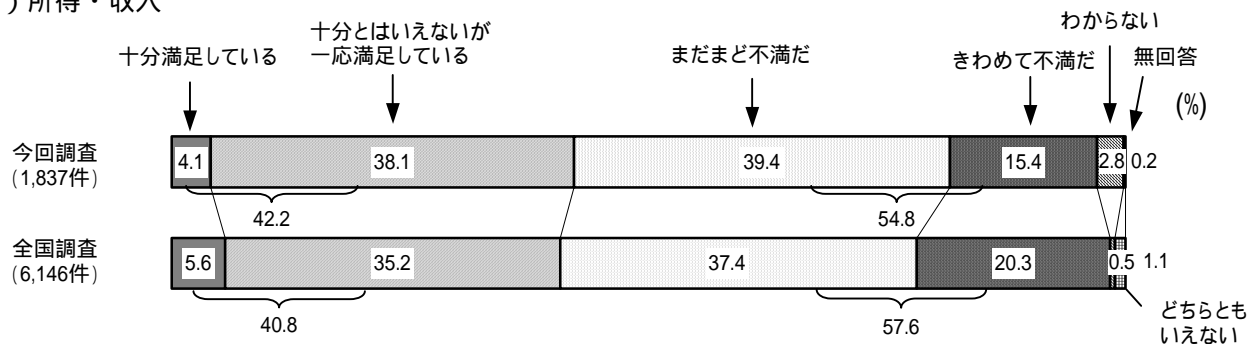


( 5 ) レジャー・余暇生活

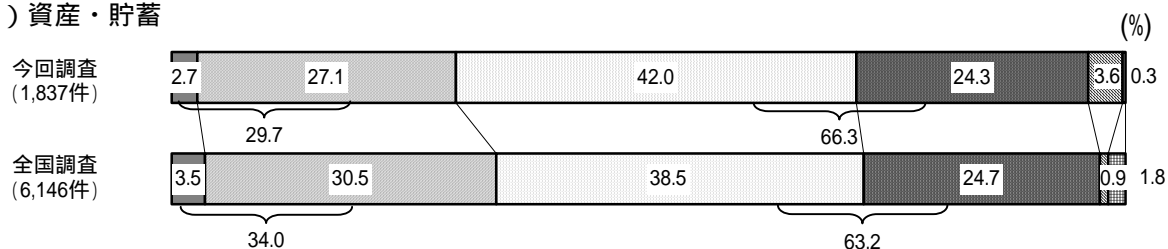


## 現在の生活の領域別満足度（全国調査との比較）

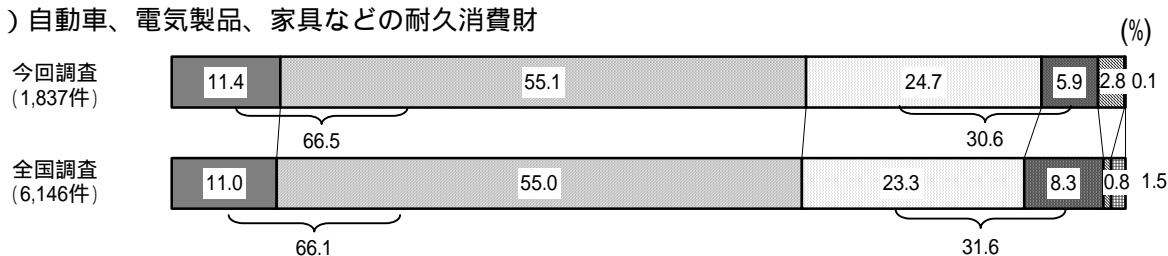
### (1) 所得・収入



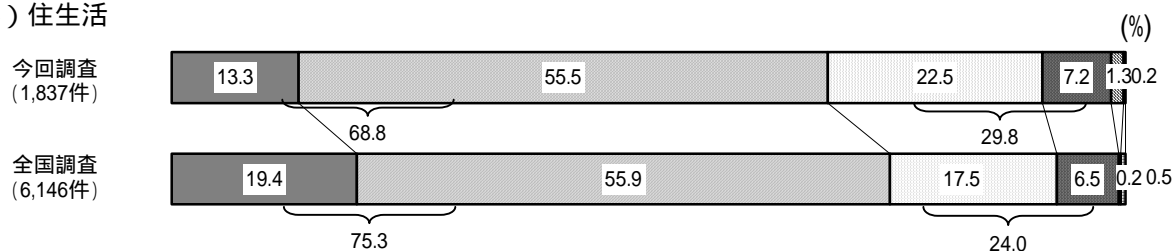
### (2) 資産・貯蓄



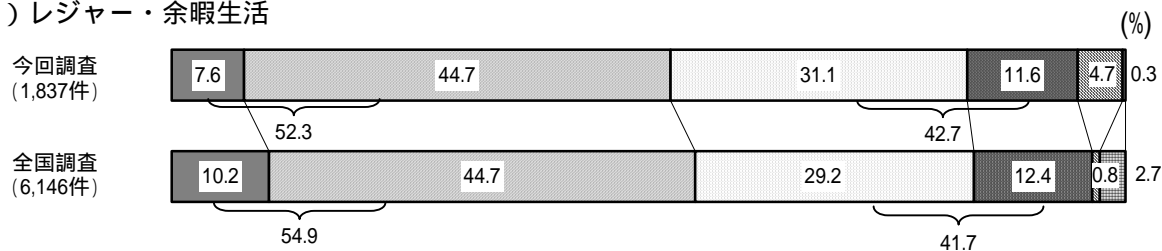
### (3) 自動車、電気製品、家具などの耐久消費財



### (4) 住生活



### (5) レジャー・余暇生活



(注) 全国調査では「満足している」「まあ満足している」「やや不満だ」「不満だ」「どちらともいえない」「わからない」という項目でたずねている。  
 全国調査: 内閣府政府広報室「国民生活に関する世論調査」平成20年6月実施  
 調査手法は個別面接聴取法

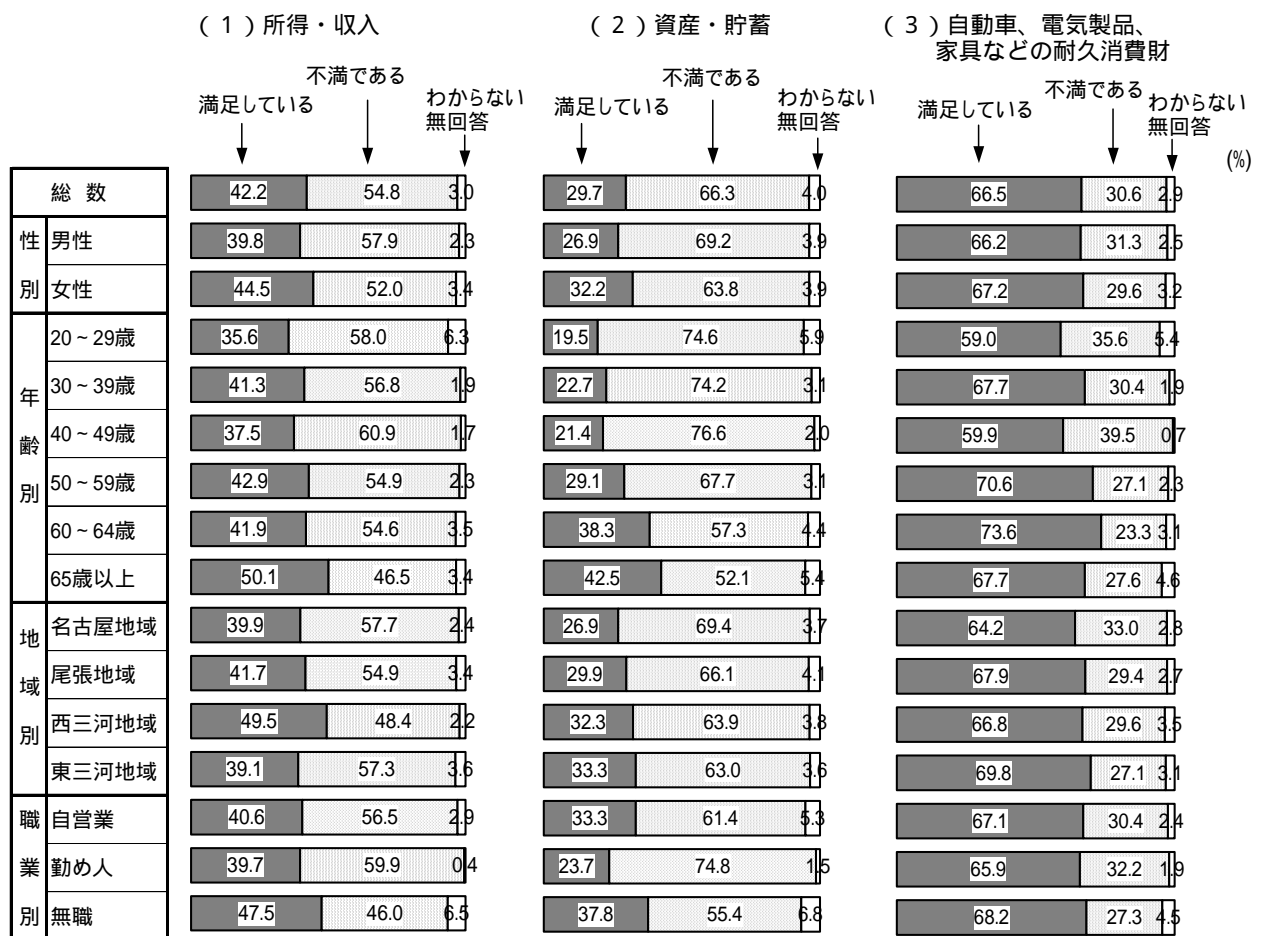
性別でみると、“満足している”人の割合は、すべての領域において男性より女性で高くなっている。

年齢別でみると、“満足している”人の割合は、「所得・収入」、「資産・貯蓄」、「住生活」では65歳以上で最も高い。

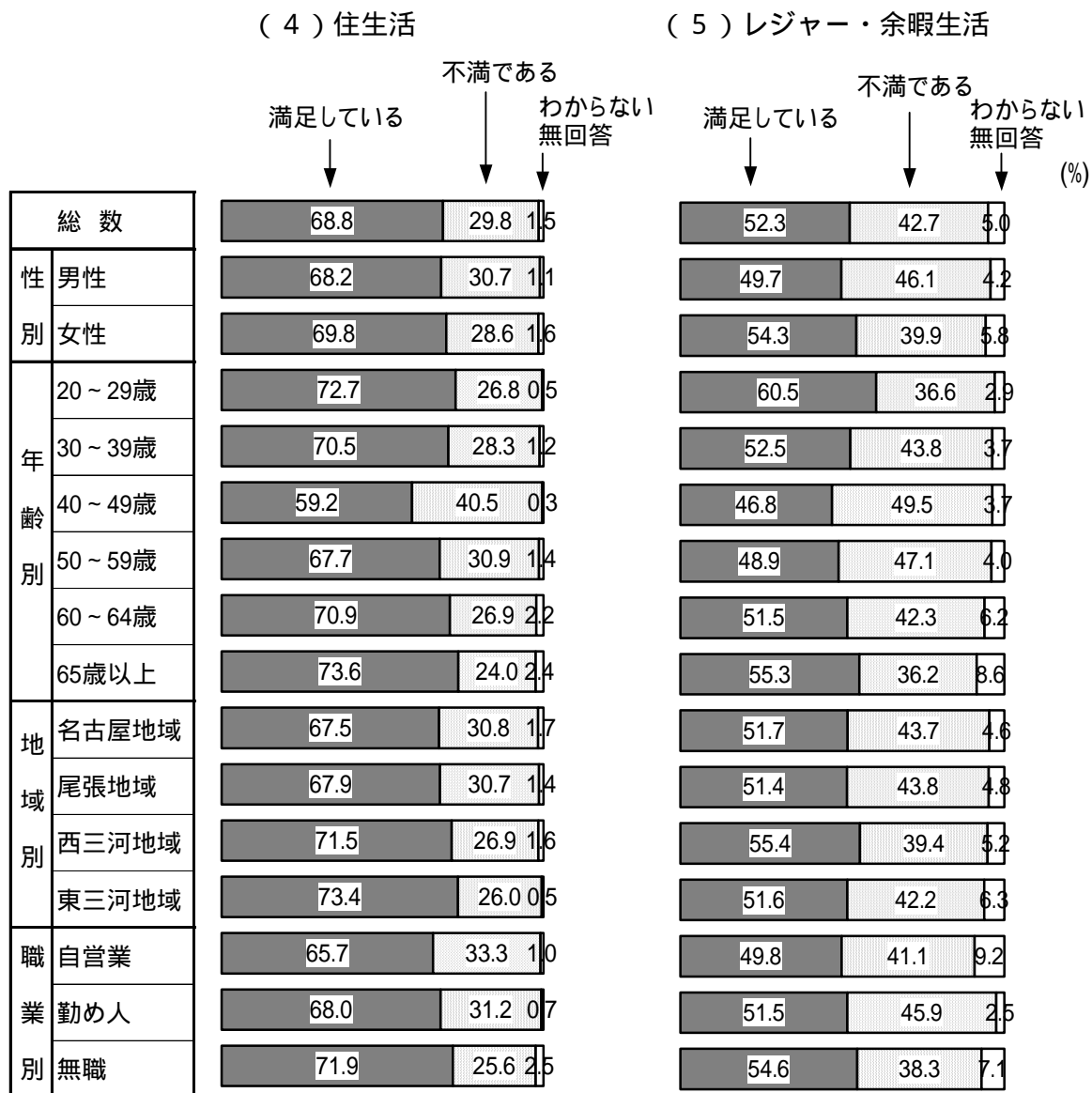
居住地域別でみると、“満足している”人の割合は、「所得・収入」、「レジャー・余暇生活」では西三河地域で高く、「資産・貯蓄」、「住生活」では東三河地域で高くなっている。一方、“不満である”人の割合は、総じて名古屋地域で高くなっている。

職業別でみると、“満足している”人の割合は、すべての領域で無職が高く、“不満である”人の割合は、総じて勤め人で高くなっている。

### 現在の生活の領域別満足度（性別、年齢別、居住地域別、職業別）

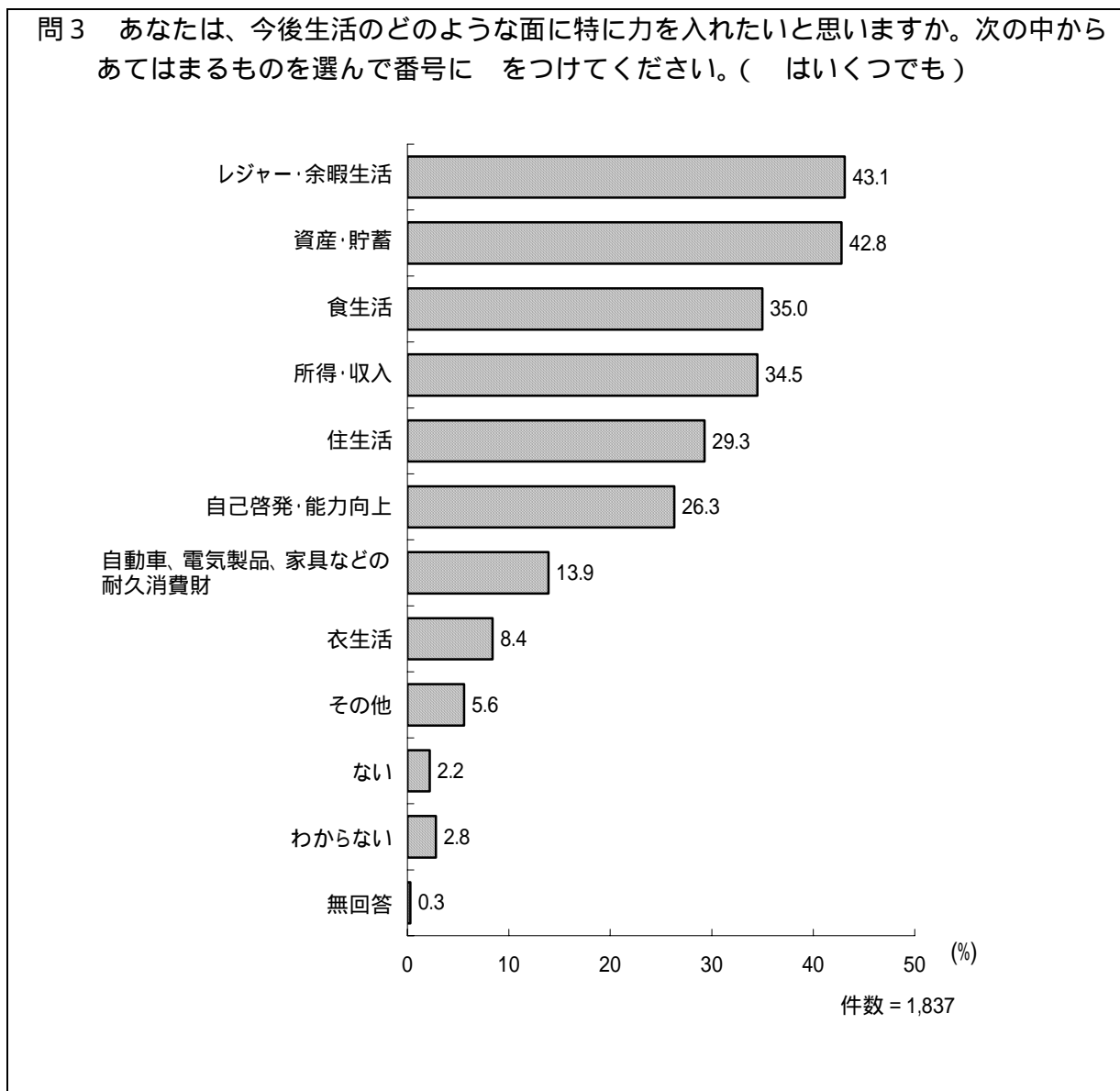


現在の生活の領域別満足度（性別、年齢別、居住地域別、職業別）



(3) 今後の生活の力点

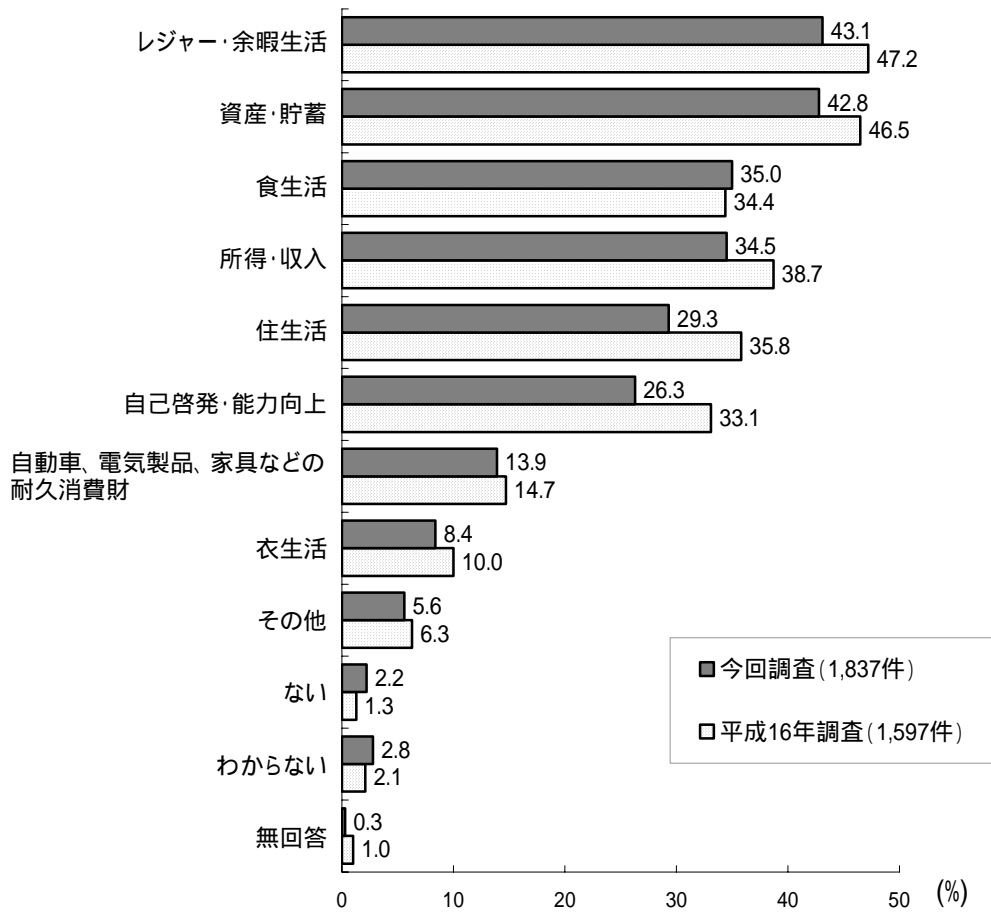
今後の生活で力を入れたいのは「レジャー・余暇生活」と「資産・貯蓄」が43%



今後の生活で特に力を入れたい面は、「レジャー・余暇生活」(43.1%)、「資産・貯蓄」(42.8%)と答えた人の割合が高く、以下「食生活」(35.0%)、「所得・収入」(34.5%)、「住生活」(29.3%)、「自己啓発・能力向上」(26.3%)の順になっている。

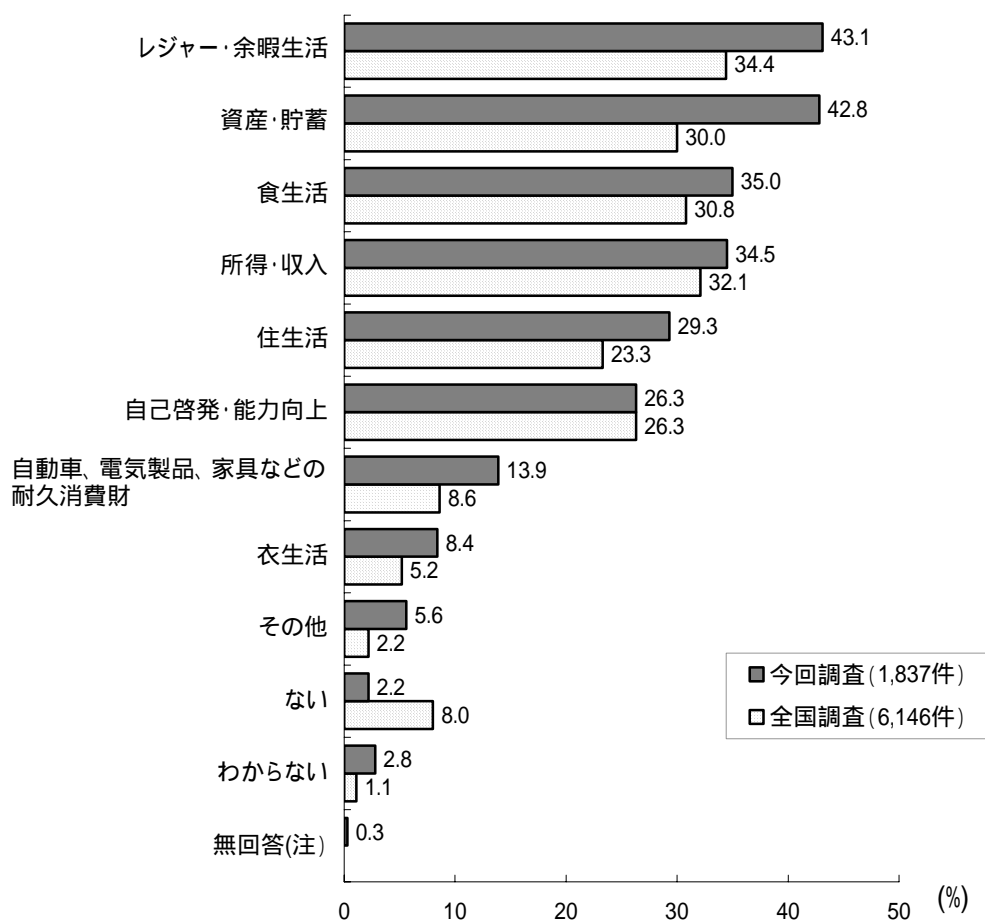
平成 16 年の県政世論調査と比較すると、多くの項目で平成 16 年調査より割合が減っている中で、「食生活」と答えた人の割合は 34.4%（平成 16 年調査）から 35.0%（今回調査）と 0.6 ポイント高くなっている。

### 今後の生活の力点（時系列比較）



内閣府が平成20年6月に実施した「国民生活に関する世論調査」と比較すると、「資産・貯蓄」と答えた割合は、全国調査（30.0%）より本県調査（42.8%）が12.8ポイント高いなど、総じて本県調査の方が答えた人の割合は高くなっているが、「自己啓発・能力向上」と答えた割合は同じとなっている。

### 今後の生活の力点（全国調査との比較）



(注) 全国調査では「無回答」の項目は入っていない。

全国調査：内閣府政府広報室「国民生活に関する世論調査」平成20年6月実施  
調査手法は個別面接聴取法

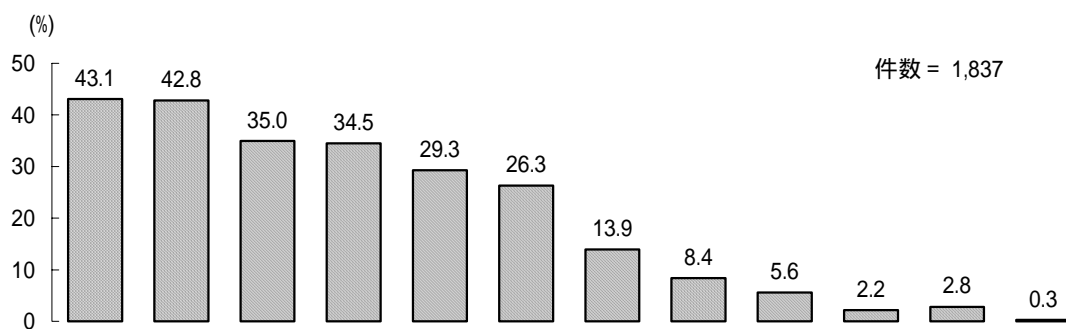
性別でみると、男性では「レジャー・余暇生活」(46.3%)、女性では「資産・貯蓄」(44.5%)と答えた割合が最も高くなっている。

年齢別でみると、50歳代以下では「資産・貯蓄」の割合が最も高く、60～64歳では「レジャー・余暇生活」、65歳以上では「食生活」が最も高くなっている。また、「所得・収入」では年齢が若いほど高くなっている。

居住地域別でみると、大きな差異はみられない。

職業別でみると、自営業では「レジャー・余暇生活」(43.0%)、勤め人では「資産・貯蓄」(52.3%)、無職では「食生活」(42.6%)が最も高くなっている。

### 今後の生活の力点（性別、年齢別、居住地域別、職業別）

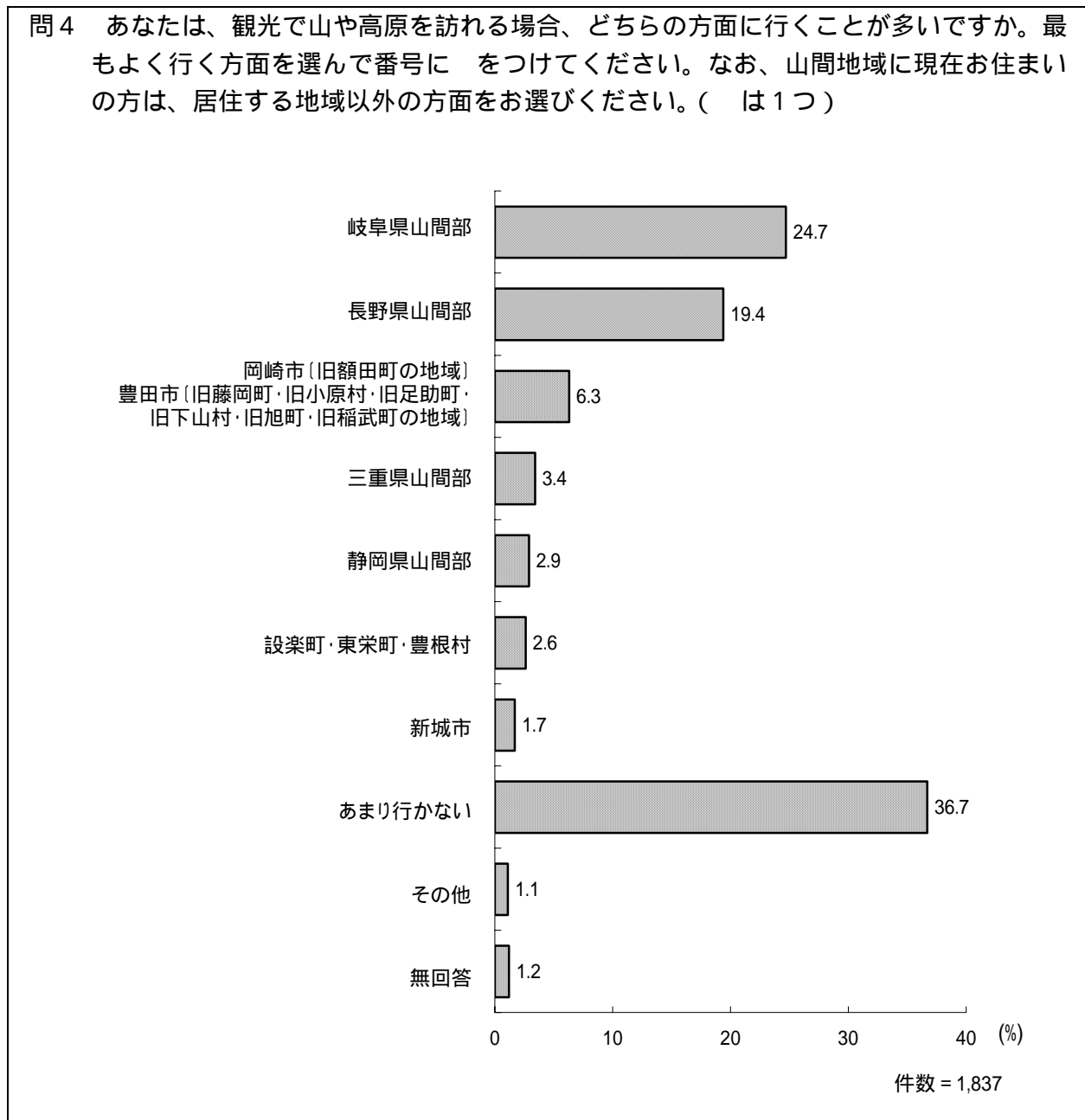


		レジャー・余暇生活	資産・貯蓄	食生活	所得・収入	住生活	自己啓発・能力向上	自動車、電気製品、家具などの耐久消費財	衣生活	その他	ない	わからない	無回答
性別	男性	46.3	41.1	30.3	38.4	31.0	27.5	16.4	7.2	3.9	1.9	2.7	0.1
	女性	40.9	44.5	38.8	31.2	28.2	25.6	11.8	9.5	7.0	2.4	3.0	0.3
年齢別	20～29歳	46.8	57.1	30.2	52.2	25.9	37.6	18.5	17.1	2.0	1.0	1.5	0.5
	30～39歳	46.6	56.8	31.1	44.7	36.3	25.5	18.6	9.9	6.2	1.2	2.5	0.0
	40～49歳	44.5	60.2	28.4	38.1	27.4	29.8	18.1	7.4	5.7	0.3	3.0	0.0
	50～59歳	47.1	47.7	30.3	31.7	30.6	31.4	12.9	6.9	5.7	2.0	1.4	0.0
	60～64歳	49.8	28.2	44.9	29.1	31.7	19.8	10.6	7.5	7.0	1.8	2.2	0.0
	65歳以上	31.8	16.6	43.0	20.3	25.2	18.8	7.6	5.4	5.9	5.4	5.1	1.0
地域別	名古屋地域	43.2	44.5	32.7	37.5	28.6	25.8	11.3	9.4	5.5	2.0	2.0	0.2
	尾張地域	41.8	40.4	36.5	33.5	31.0	26.3	13.9	7.7	5.8	2.4	3.4	0.3
	西三河地域	46.7	45.4	34.8	30.2	30.7	28.8	15.8	8.2	5.7	1.9	3.0	0.5
	東三河地域	43.8	43.2	35.4	37.5	24.5	24.5	17.7	8.9	4.7	2.6	2.6	0.0
職業別	自営業	43.0	39.6	33.8	40.6	29.5	21.7	15.0	8.2	6.3	1.9	1.9	0.5
	勤め人	49.1	52.3	30.2	39.8	32.1	29.3	16.5	9.2	3.6	1.1	2.1	0.1
	無職	35.8	30.7	42.6	24.4	26.1	23.8	9.7	7.6	8.3	4.0	3.9	0.5

## 2 山村過疎対策

(1) よく訪れる山や高原の方面

「岐阜県山間部」が25%



観光で訪れる山や高原の方面としては、「岐阜県山間部」と答えた人の割合が24.7%と最も高く、次いで「長野県山間部」(19.4%)となっている。

また、愛知県内は、「岡崎市・豊田市」、「設楽町・東栄町・豊根村」、「新城市」を合計すると10.6%となっている。

一方、「あまり行かない」と答えた人の割合は36.7%となっている。

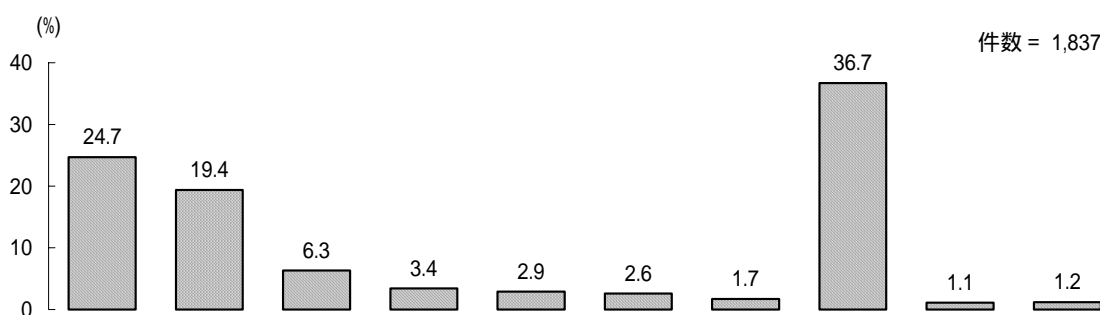
性別でみると、「岐阜県山間部」、「長野県山間部」に大きな差異はみられない。一方、愛知県内はいずれも女性が低くなっている。

年齢別でみると、40歳代以下では「岐阜県山間部」、50歳代以上では「長野県山間部」の割合が高くなっている。また、「あまり行かない」と答えた割合は20歳代(41.5%)と65歳以上(39.9%)で高くなっている。

居住地域別でみると、名古屋地域、尾張地域では「岐阜県山間部」、「長野県山間部」の割合が高くなっている。一方、西三河地域では「岡崎市・豊田市」、東三河地域では「設楽町・東栄町・豊根村」、「新城市」と答えた人の割合が他の地域に比べて高く、居住地域に近い方面を訪れる傾向がみられる。

職業別でみると、大きな差異はみられない。

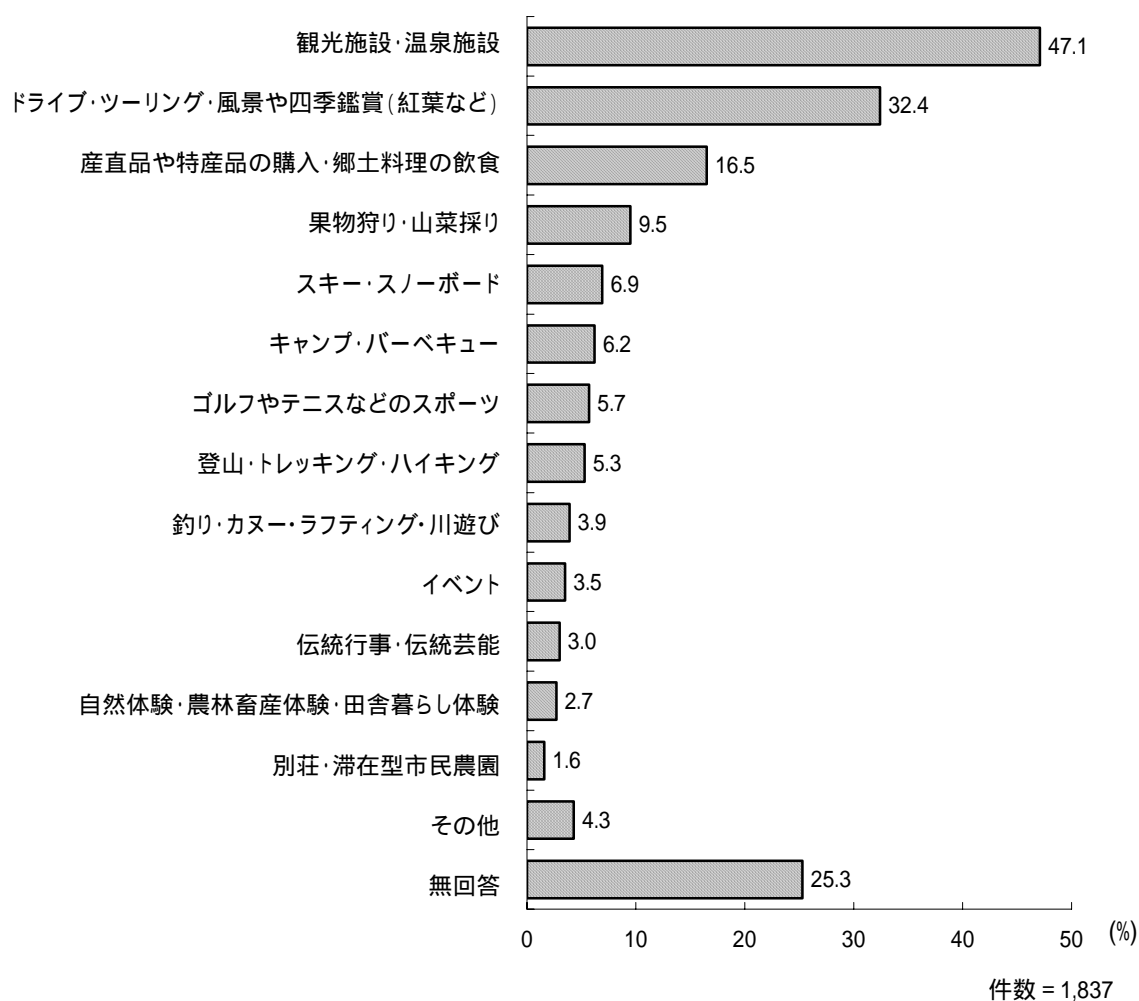
### よく訪れる山や高原の方面(性別、年齢別、居住地域別、職業別)



		岐阜県山間部	長野県山間部	旧村岡(旧額田町・旧藤田町・旧小原町)	三重県山間部	静岡県山間部	設楽町・東栄町・豊根村	新城市	あまり行かない	その他	無回答
性別	男性	24.6	18.7	7.6	4.2	2.4	3.8	2.1	34.1	1.2	1.3
	女性	24.8	20.1	5.4	2.7	3.3	1.7	1.4	38.8	0.9	0.8
年齢別	20～29歳	27.3	12.7	3.4	4.4	5.4	2.0	2.0	41.5	0.5	1.0
	30～39歳	32.9	14.9	6.2	2.8	3.4	1.9	1.9	35.4	0.6	0.0
	40～49歳	30.4	16.4	6.4	4.0	2.3	2.0	1.3	35.5	1.0	0.7
	50～59歳	19.4	24.3	7.4	3.7	1.7	3.7	2.0	35.7	0.9	1.1
	60～64歳	22.0	25.6	9.3	4.0	1.8	2.2	1.3	30.8	1.8	1.3
	65歳以上	19.1	20.8	5.6	2.4	3.4	3.4	1.7	39.9	1.5	2.2
地域別	名古屋地域	25.5	17.9	3.9	4.1	2.2	0.9	0.2	42.4	1.1	1.8
	尾張地域	32.1	19.6	4.4	4.6	1.4	0.7	0.6	34.9	1.3	0.4
	西三河地域	18.8	22.3	16.0	1.4	4.3	3.3	2.2	30.2	0.5	1.1
	東三河地域	7.3	17.2	2.6	1.0	7.8	13.5	9.4	38.5	1.0	1.6
職業別	自営業	21.7	22.2	6.3	2.9	2.4	5.3	2.4	32.9	2.9	1.0
	勤め人	27.9	18.8	6.0	4.2	2.5	2.3	2.0	34.8	0.6	0.6
	無職	21.5	19.1	7.1	2.5	3.5	2.3	1.1	40.0	1.1	1.9

(2) 山や高原を訪れる目的  
**「観光施設・温泉施設」が47%**

問5 問4で選んだ方面を訪れる目的は何ですか。主な目的を選んで番号に をつけてください。( は3つまで)



観光で山や高原を訪れる目的は、「観光施設・温泉施設」と答えた人の割合が 47.1%と最も高く、次いで「ドライブ・ツーリング・風景や四季鑑賞(紅葉など)」(32.4%)、「産直品や特産品の購入・郷土料理の飲食」(16.5%)となっている。

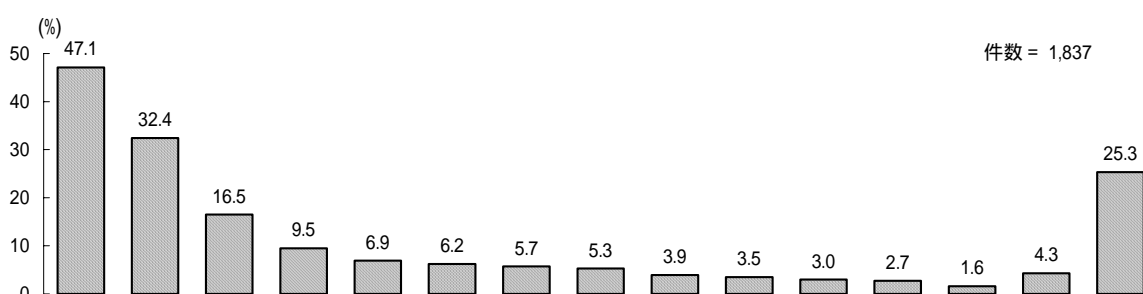
性別でみると、「ドライブ・ツーリング・風景や四季鑑賞」と答えた人の割合は、女性(28.9%)より男性(36.7%)で高くなっている。

年齢別でみると、「観光施設・温泉施設」、「果物狩り・山菜採り」の割合は、高年齢層で高い傾向がみられ、一方で、「スキー・スノーボード」「キャンプ・バーベキュー」は若年齢層で高い傾向がみられる。

居住地域別でみると、西三河地域では「ドライブ・ツーリング・風景や四季鑑賞」(38.9%)の割合が、他の地域より高くなっている。

職業別でみると、大きな差異はみられない。

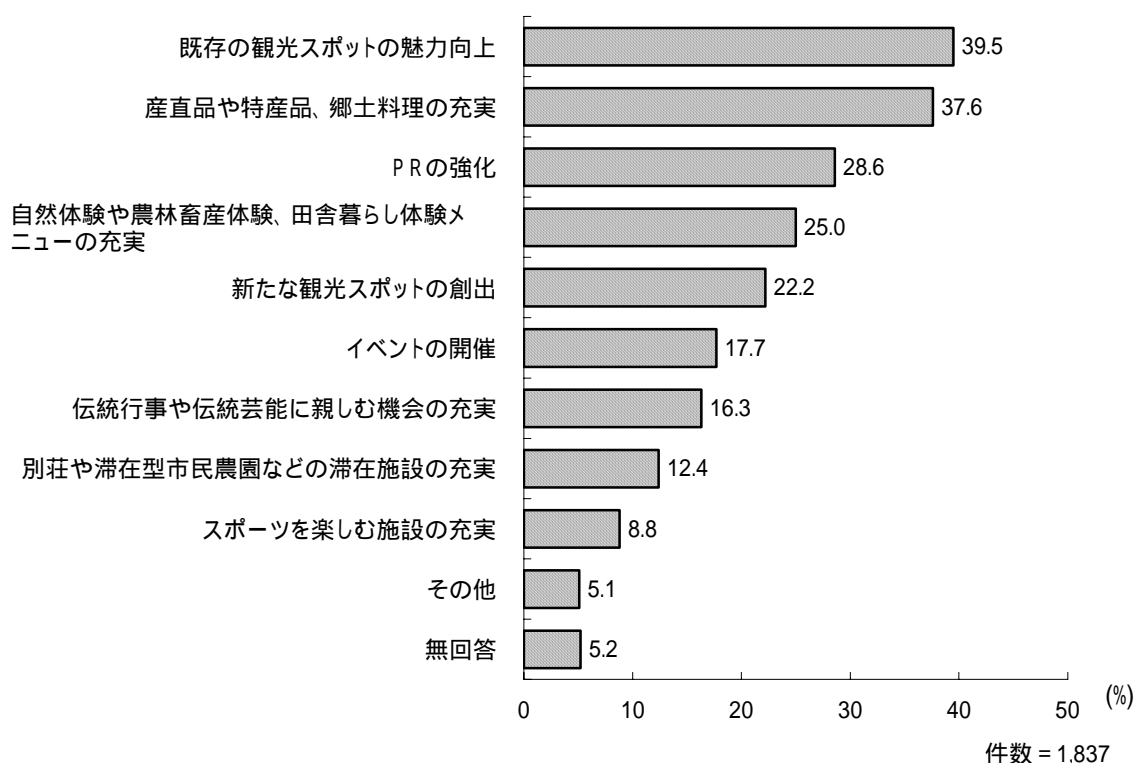
### 山や高原を訪れる目的(性別、年齢別、居住地域別、職業別)



	観光施設・温泉施設	ドライブ・ツーリング・風景や四季鑑賞(紅葉など)	産直品や特産品の購入・郷土料理の飲食	果物狩り・山菜採り	スキー・スノーボード	キャンプ・バーベキュー	ゴルフやテニスなどのスポーツ	登山・トレッキング・ハイキング	釣り・カヌー・ラフティン	イベント	伝統行事・伝統芸能	自然体験・農林畜産体験・田舎暮らし体験	別荘・滞在型市民農園	その他	無回答	
性別	男性	44.5	36.7	15.2	8.1	7.9	7.3	9.8	6.9	5.8	3.5	2.8	3.3	1.6	4.6	23.4
	女性	49.5	28.9	17.5	10.8	6.2	5.5	2.3	4.0	2.4	3.5	3.1	2.3	1.7	3.9	26.7
年齢別	20～29歳	39.0	33.7	8.8	6.3	15.1	12.7	2.4	3.4	3.4	2.9	3.4	1.0	1.0	2.0	32.2
	30～39歳	41.0	30.7	12.4	5.9	14.3	14.0	4.3	2.2	5.3	6.2	0.9	2.8	0.9	2.8	26.4
	40～49歳	44.5	32.8	9.4	6.7	10.4	11.7	4.3	6.0	3.0	3.0	0.7	2.7	3.3	6.4	26.4
	50～59歳	50.3	36.6	18.9	8.9	3.4	1.1	6.9	6.0	6.0	3.7	4.9	2.3	1.7	5.4	23.4
	60～64歳	52.9	36.6	26.9	13.7	1.3	1.3	11.0	10.1	3.5	2.2	1.3	2.6	2.2	2.2	21.1
	65歳以上	52.1	27.4	20.8	13.9	0.7	0.2	5.6	4.9	2.4	2.4	5.4	4.2	1.0	5.1	24.0
地域別	名古屋地域	44.6	28.4	13.8	8.3	5.2	6.8	5.2	3.9	3.7	3.3	2.0	3.3	1.8	5.4	28.4
	尾張地域	50.4	32.5	17.0	10.7	7.3	7.2	7.2	5.9	4.9	2.7	3.2	3.4	1.3	3.9	22.8
	西三河地域	44.6	38.9	19.6	9.8	8.7	5.7	5.4	6.0	3.5	5.7	2.7	1.6	2.4	3.3	22.3
	東三河地域	46.9	31.8	15.6	8.9	7.3	2.6	2.6	6.3	2.1	3.1	5.2	1.0	1.0	4.2	30.7
職業別	自営業	48.8	31.9	18.8	7.7	6.3	5.8	7.2	7.2	4.3	3.9	3.9	3.9	1.9	4.3	24.2
	勤め人	45.9	33.3	14.3	7.9	9.3	8.3	7.2	4.6	4.2	3.4	2.3	2.3	1.4	4.6	25.7
	無職	48.8	31.8	18.8	12.2	3.7	3.7	3.1	5.9	3.4	3.7	3.7	3.1	2.0	3.9	24.5

(3) 三河山間地域への訪問者を増やす取組  
**「既存の観光スポットの魅力向上」が40%**

問6 あなたは、三河山間地域を訪れる人を増やすためには、どのようなことに取り組むべきだと思いますか。次の中からあてはまるものを選んで番号に をつけてください。  
 ( は3つまで)



三河山間地域への訪問者を増やすための取り組みは、「既存の観光スポットの魅力向上」と答えた人の割合が39.5%と最も高く、次いで「産直品や特産品、郷土料理の充実」(37.6%)、「PRの強化」(28.6%)の順となっている。また、「自然体験や農林畜産体験、田舎暮らし体験メニューの充実」(25.0%)は、観光で山や高原を訪れる目的を尋ねた問5での割合(2.7%)に比べて非常に大きくなっている。

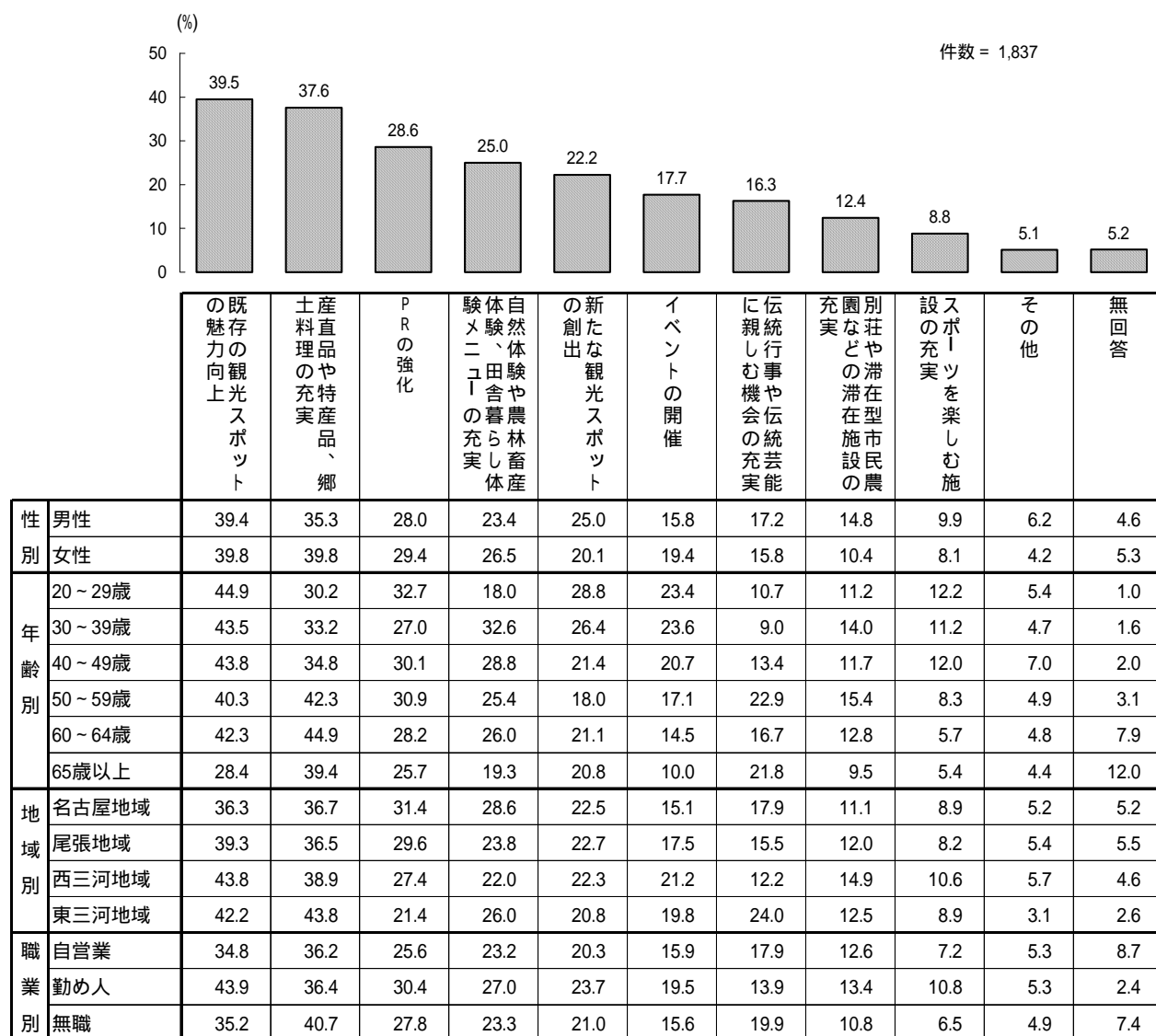
性別でみると、大きな差異はみられない。

年齢別でみると、40歳代以下では「既存の観光スポットの魅力向上」と答えた人の割合が、50歳代以上では「産直品や特産品、郷土料理の充実」と答えた人の割合が最も高くなっている。20歳代では「PRの強化」(32.7%)と「新たな観光スポットの創出」(28.8%)、30歳代では「自然体験や農林畜産体験、田舎暮らし体験メニューの充実」(32.6%)の割合が他の年代より高く、また、30歳代以下では「イベントの開催」の割合も相対的に高くなっている。

居住地域別でみると、名古屋地域では「自然体験や農林畜産体験、田舎暮らし体験メニューの充実」(28.6%)、東三河地域では「産直品や特産品、郷土料理の充実」(43.8%)と「伝統行事や伝統芸能に親しむ機会の充実」(24.0%)の割合が他の地域より高くなっている。また、名古屋地域、尾張地域、西三河地域では「PRの強化」が東三河地域より高くなっている。

職業別でみると、勤め人では「既存の観光スポットの魅力充実」(43.9%)が、無職では「産直品や特産品、郷土料理の充実」(40.7%)が最も高くなっている。

### 三河山間地域への訪問者を増やす取組(性別、年齢別、居住地域別、職業別)

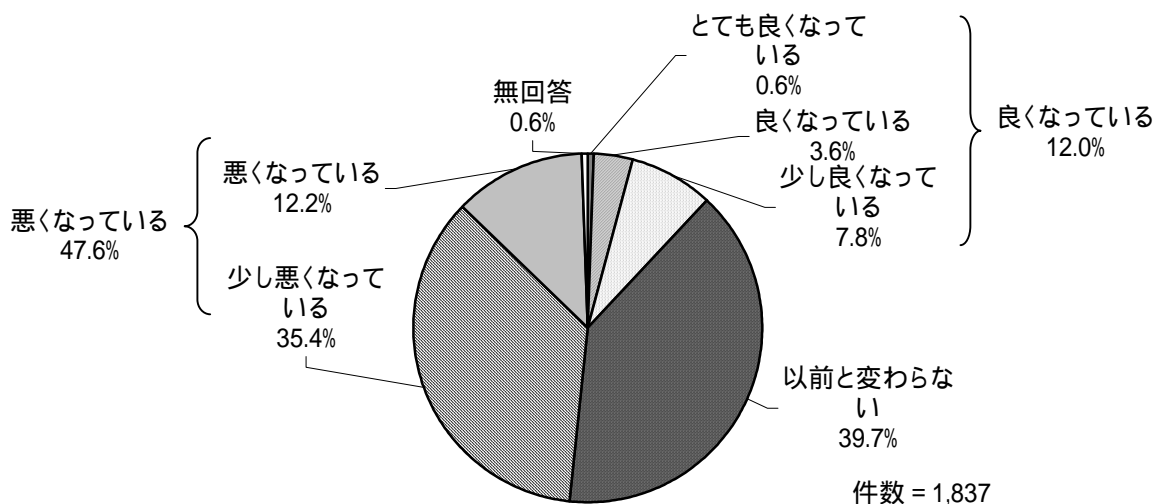


### 3 治安回復

#### (1) 地域の治安変化

“良くなっている”が12%、“悪くなっている”が48%

問7 あなたがお住まいの地域の治安は以前(2年程前)と比べてどうなっていると思いますか。次の中からあてはまるものを選んで番号に○をつけてください。(○は1つ)

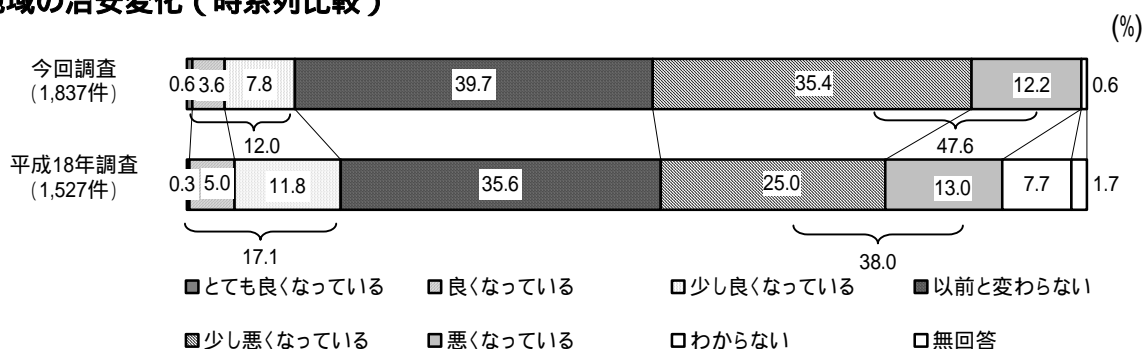


地域の治安が以前(2年程前)と比べて、“良くなっている”(「とても良くなっている」0.6% + 「良くなっている」3.6% + 「少し良くなっている」7.8%)と答えた人の割合は12.0%となっている。一方で、“悪くなっている”(「少し悪くなっている」35.4% + 「悪くなっている」12.2%)と答えた人の割合は47.6%となっている。

平成18年の県政世論調査と比較すると、“良くなっている”と答えた人の割合は17.1%(平成18年調査)から12.0%(今回調査)と5.1ポイント低くなっている。

一方、“悪くなっている”と答えた人の割合は38.0%(平成18年調査)から47.6%(今回調査)と9.6ポイント高くなっている。

#### 地域の治安変化(時系列比較)



(注) 平成18年調査では「わからない」の項目が入っている。

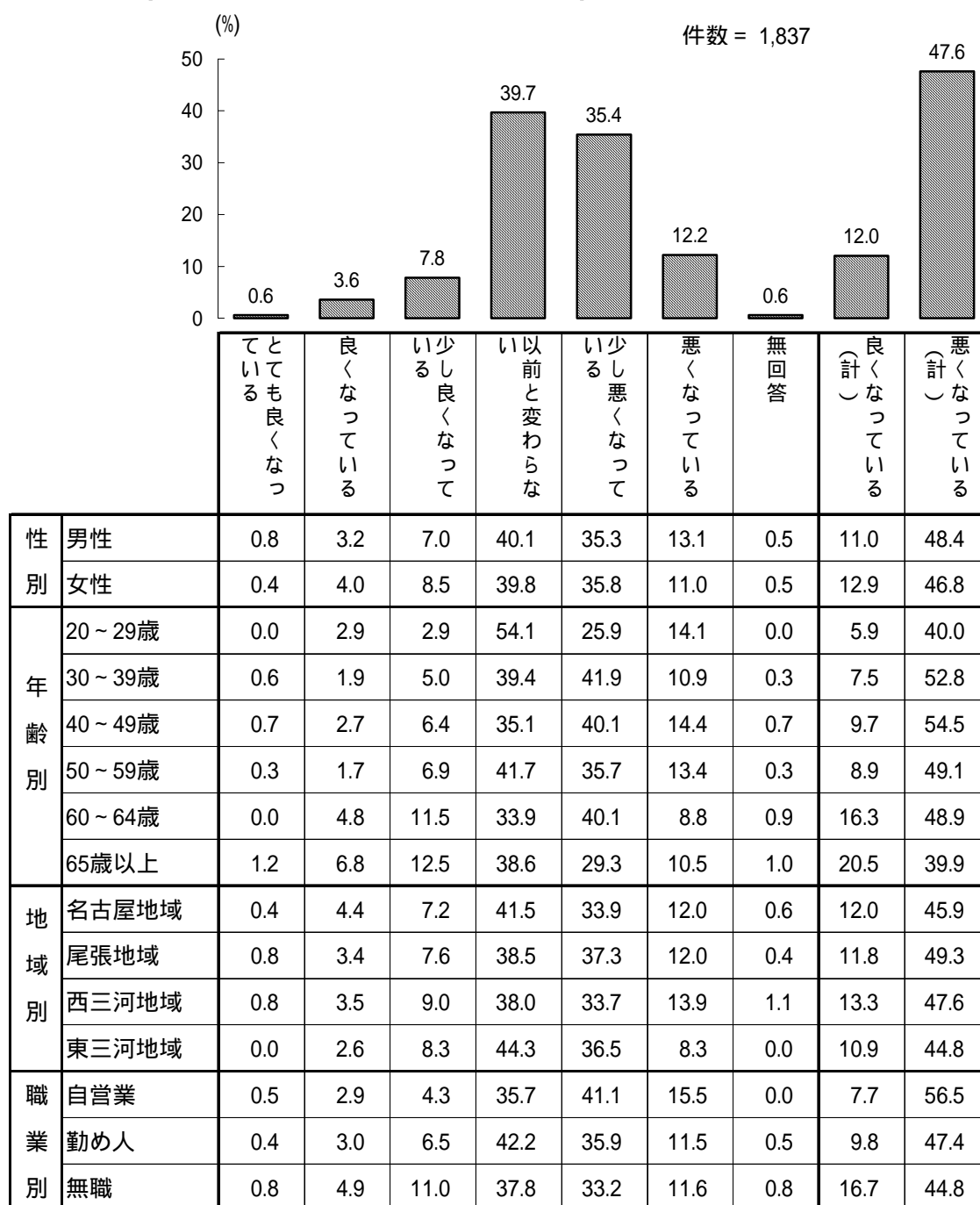
性別でみると、大きな差異はみられない。

年齢別でみると、“良くなっている”と答えた人の割合は、高年齢で高い傾向がみられる。一方、“悪くなっている”と答えた人の割合は40歳代（56.5%）で最も高くなっている。

また、「以前と変わらない」と答えた人の割合は、20歳代（54.1）%で高くなっている。居住地域別でみると、大きな差異はみられない。

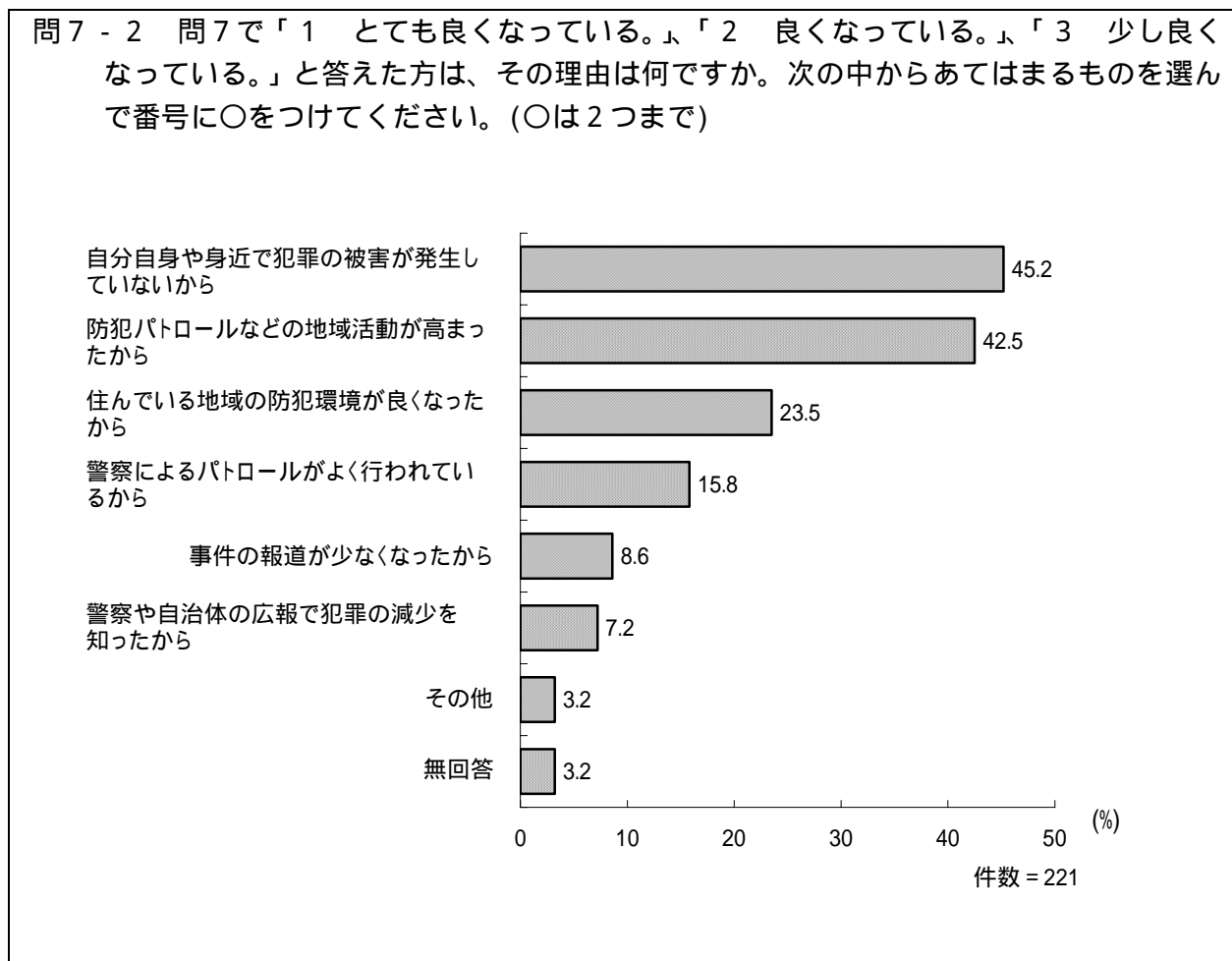
職業別でみると、“良くなっている”と答えた人の割合は、無職（16.7%）で、一方、“悪くなっている”と答えた人の割合は自営業（56.5%）で他の職業より高くなっている。

### 地域の治安変化（性別、年齢別、居住地域別、職業別）



(2) 良くなっている理由

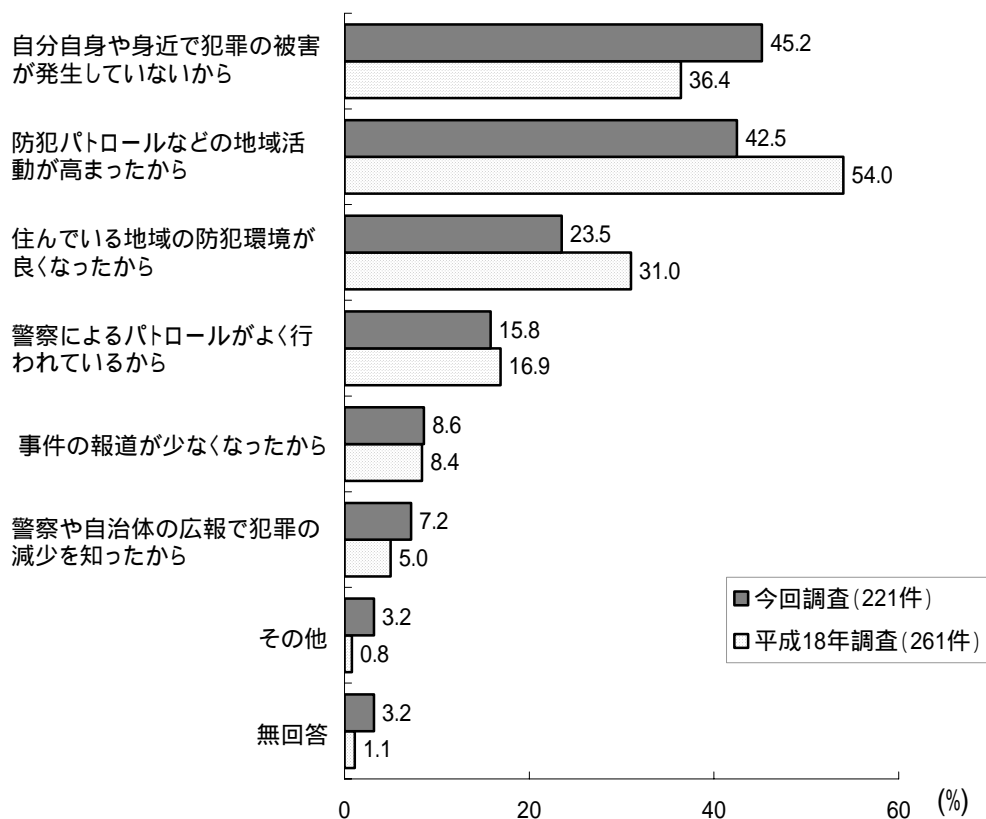
「自分自身や身近で犯罪の被害が発生していないから」が45%



“良くなっている”理由としては、「自分自身や身近で犯罪の被害が発生していないから」(45.2%)、「防犯パトロールなどの地域活動が高まったから」(42.5%)と答えた人の割合が高い。以下「住んでいる地域の防犯環境が良くなったから」(23.5%)、「警察によるパトロールがよく行われているから」(15.8%)と続いている。

平成 18 年の県政世論調査と比較すると、“良くなっている”理由として平成 18 年調査では「防犯パトロールなどの地域活動が高まったから」(54.0%)の割合が最も高かったが、今回調査では 42.5%と 11.5 ポイント低くなっており、「自分自身や身近で犯罪の被害が発生していないから」の割合が、平成 18 年調査(36.4%)に比べ今回調査(45.2%)では 8.8 ポイント高くなり、最大の理由となっている。

### 良くなっている理由（時系列比較）



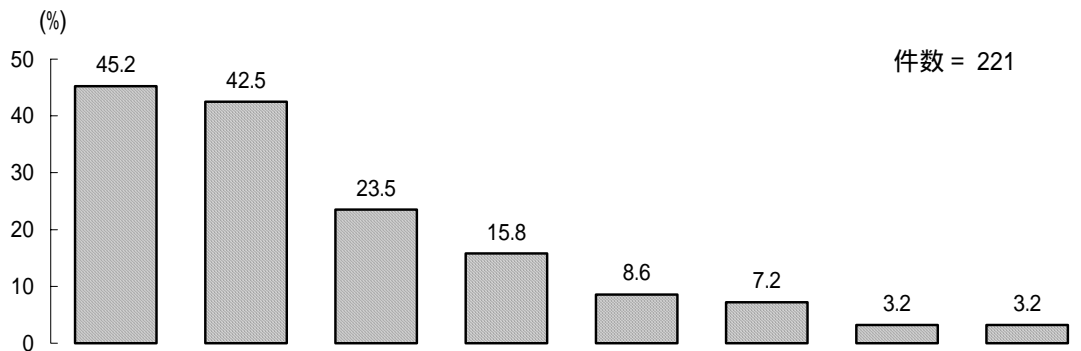
性別でみると、「警察によるパトロールがよく行われているから」と答えた人の割合は、女性（11.7%）より男性（22.0%）で、10.3ポイント高くなっている。

年齢別でみると、「防犯パトロールなどの地域活動が高まったから」と答えた人の割合は20歳代（58.3%）で高く、65歳以上（36.9%）で低くなっている。

居住地域別でみると、西三河地域（53.1%）、東三河地域（47.6%）では「防犯パトロールなどの地域活動が高まったから」と答えた人の割合が最も高くなっている。

職業別でみると、自営業では「防犯パトロールなどの地域活動が高まったから」（62.5%）と答えた人の割合が6割を超え、「住んでいる地域の防犯環境が良くなったから」（37.5%）の割合も相対的に高く、第2位の理由となっている。

**良くなっている理由（性別、年齢別、居住地域別、職業別）**

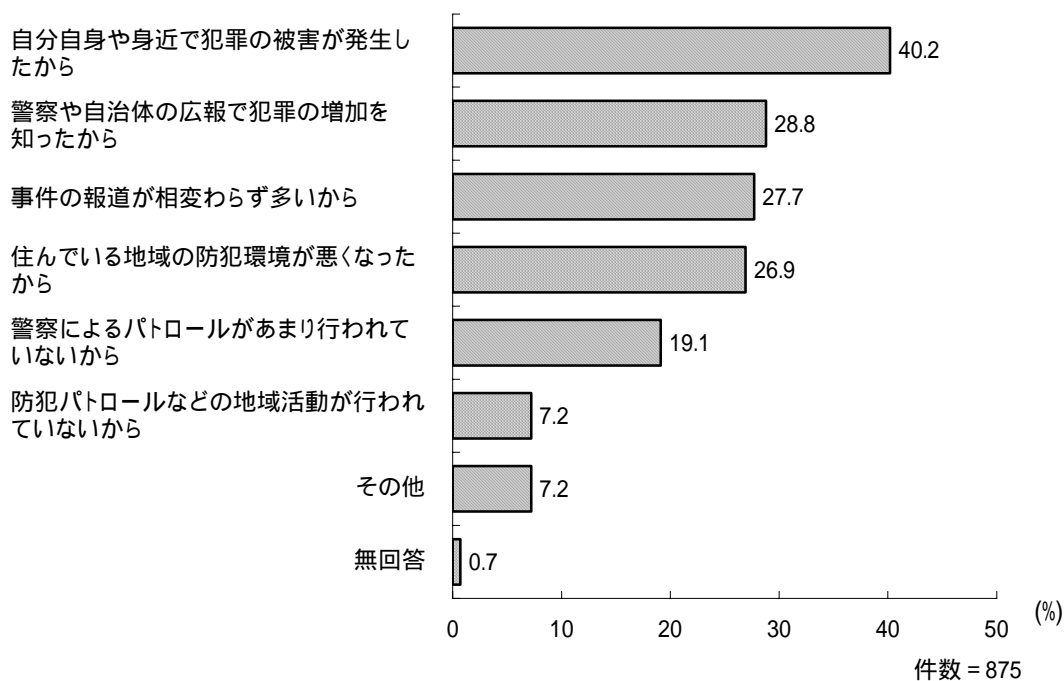


		自らの被害や身近な犯罪の発生	防犯パトロールなどの地域活動が高まった	住んでいる地域の防犯環境が良くなった	警察によるパトロールがよくなった	事件の発生が少なかった	警察の対応がよくなった	その他	無回答
性別	男性	44.0	40.7	18.7	22.0	11.0	7.7	3.3	3.3
	女性	46.1	43.8	27.3	11.7	7.0	6.3	3.1	3.1
年齢別	20～29歳	58.3	58.3	16.7	8.3	8.3	0.0	0.0	0.0
	30～39歳	50.0	41.7	20.8	12.5	12.5	0.0	4.2	0.0
	40～49歳	31.0	48.3	24.1	13.8	13.8	13.8	3.4	0.0
	50～59歳	45.2	45.2	29.0	22.6	9.7	3.2	6.5	3.2
	60～64歳	51.4	45.9	18.9	13.5	2.7	5.4	0.0	5.4
	65歳以上	44.0	36.9	26.2	15.5	8.3	8.3	3.6	4.8
地域別	名古屋地域	41.5	40.0	20.0	20.0	9.2	7.7	4.6	1.5
	尾張地域	48.8	36.9	26.2	15.5	10.7	6.0	3.6	4.8
	西三河地域	49.0	53.1	26.5	12.2	4.1	6.1	2.0	2.0
	東三河地域	33.3	47.6	19.0	14.3	9.5	9.5	0.0	4.8
職業別	自営業	31.3	62.5	37.5	25.0	0.0	0.0	0.0	6.3
	勤め人	46.2	45.2	23.7	17.2	9.7	5.4	4.3	1.1
	無職	46.3	37.0	22.2	13.0	9.3	9.3	2.8	4.6

(3) 悪くなっている理由

「自分自身や身近で犯罪の被害が発生したから」が40%

問7 - 3 問7で「5 少し悪くなっている。」「6 悪くなっている。」と答えた方は、その理由は何ですか。次の中からあてはまるものを選んで番号に○をつけてください。(○は2つまで)

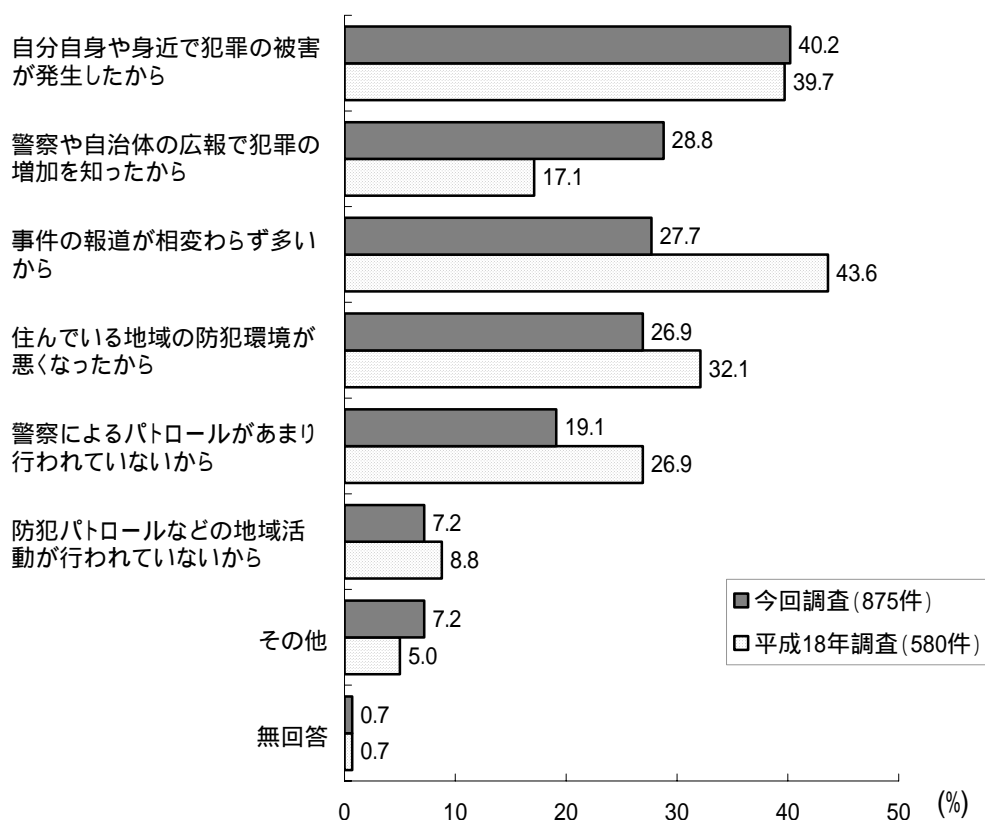


“悪くなっている”理由としては、「自分自身や身近で犯罪の被害が発生したから」と答えた人の割合が40.2%で最も高く、次いで「警察や自治体の広報で犯罪の増加を知ったから」(28.8%)、「事件の報道が相変わらず多いから」(27.7%)、「住んでいる地域の防犯環境が悪くなったから」(26.9%)、「警察によるパトロールがあまり行われていないから」(19.1%)の順になっている。

平成 18 年の県政世論調査と“悪くなっている”理由を比較すると、「自分自身や身近で犯罪の被害が発生したから」と答えた人の割合はほぼ同じであるが、平成 18 年調査に比べ「事件の報道が相変わらず多いから」(15.9 ポイント減)、「警察によるパトロールがあまり行われていないから」(7.8 ポイント減)、「住んでいる地域の防犯環境が悪くなったから」(5.2 ポイント減)の割合は、今回調査の方が低くなっている。

一方で、「警察や自治体の広報で犯罪の増加を知ったから」の割合は、平成 18 年調査より今回調査が 11.7 ポイント高くなっている。

### 悪くなっている理由（時系列比較）



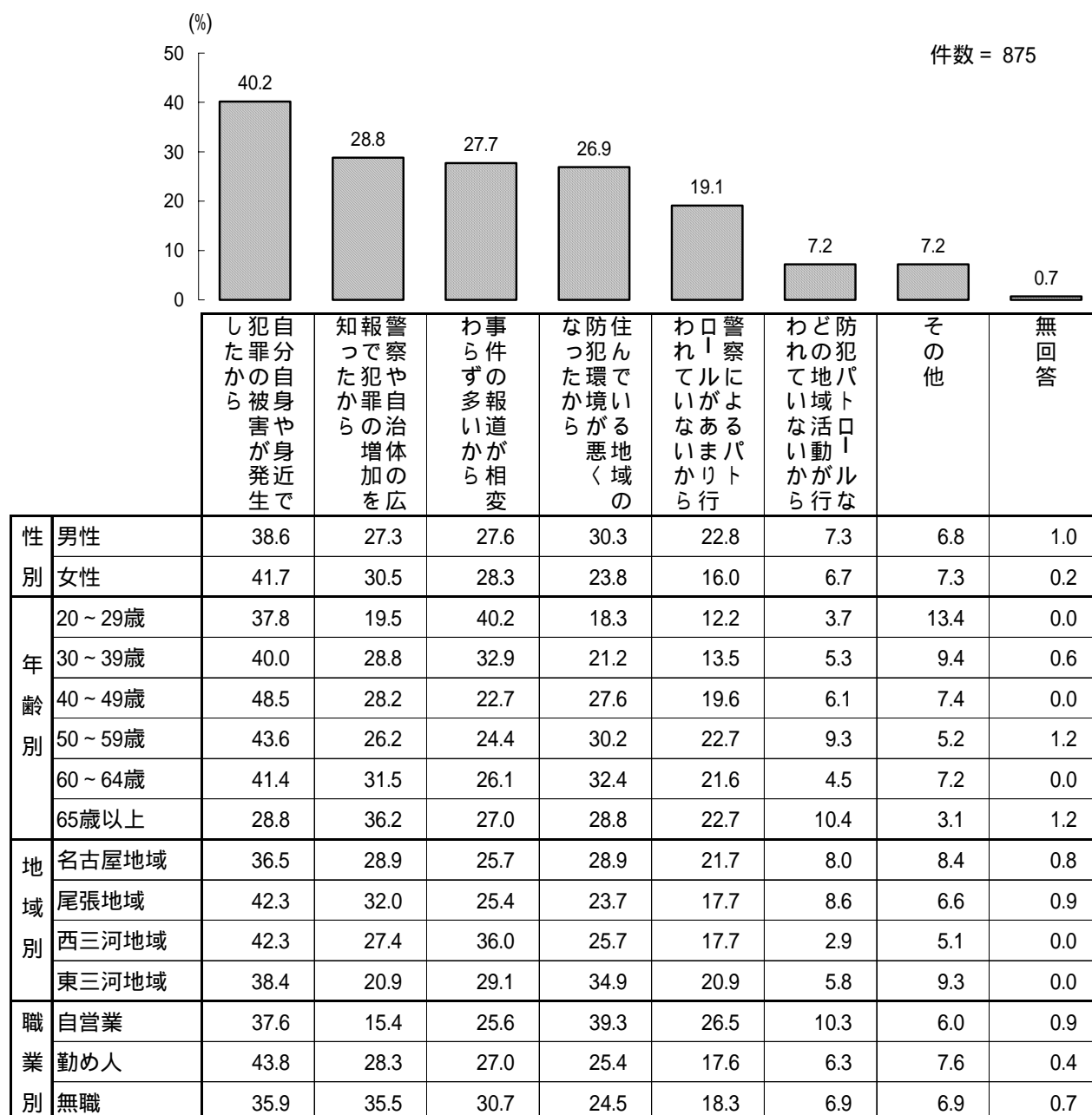
性別でみると、「自分自身や身近で犯罪の被害が発生したから」と答えた人の割合が男性（38.6%）女性（41.7%）共に最も高くなっている。

年齢別でみると、「自分自身や身近で犯罪の被害が発生したから」と答えた人の割合は40歳代（48.5%）で高く、65歳以上（28.8%）で低くなっている。

居住地域別でみると、西三河地域では「事件の報道が相変わらず多いから」（36.0%）、東三河地域では「住んでいる地域の防犯環境が悪くなったから」（34.9%）と答えた人の割合が、他の地域より高くなっている。

職業別でみると、勤め人で「自分自身や身近で犯罪の被害が発生したから」（43.8%）と答えた人の割合が高く、「防犯パトロールなどの地域活動が行われていないから」（6.3%）と答えた人の割合が低くなっている。

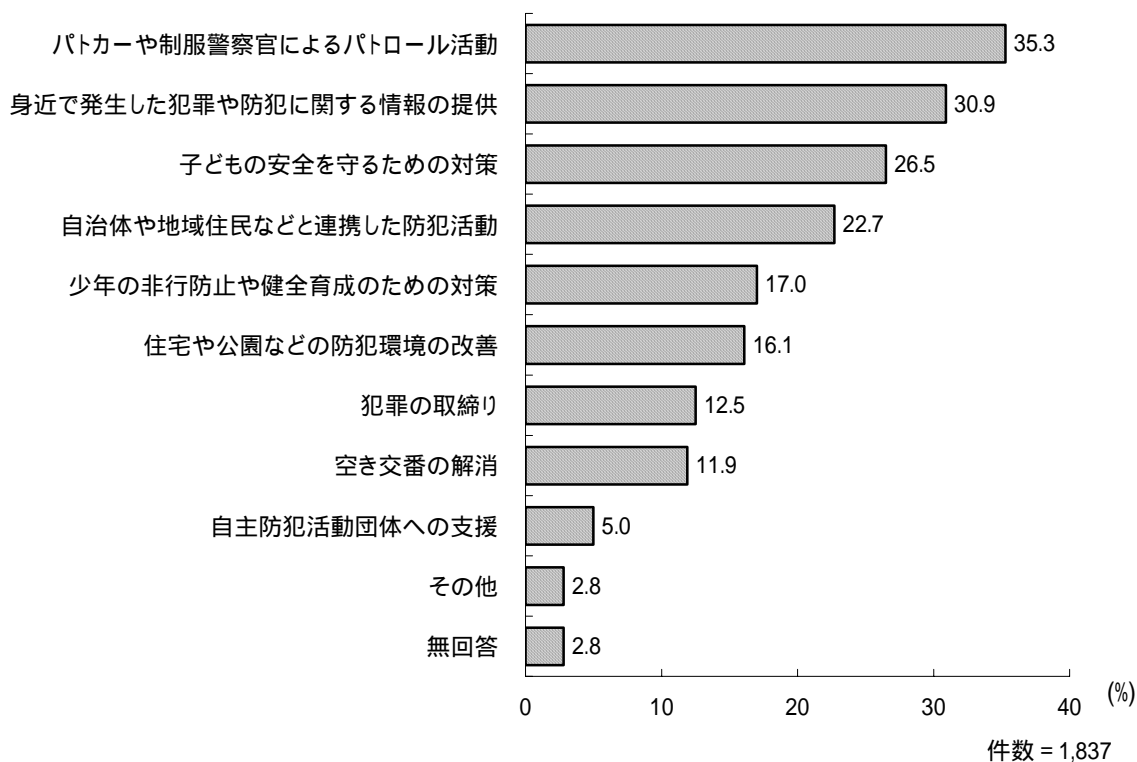
### 悪くなっている理由（性別、年齢別、居住地域別、職業別）



(4) 治安回復で力を入れてほしいこと

「パトカーや制服警官によるパトロール活動」が35%

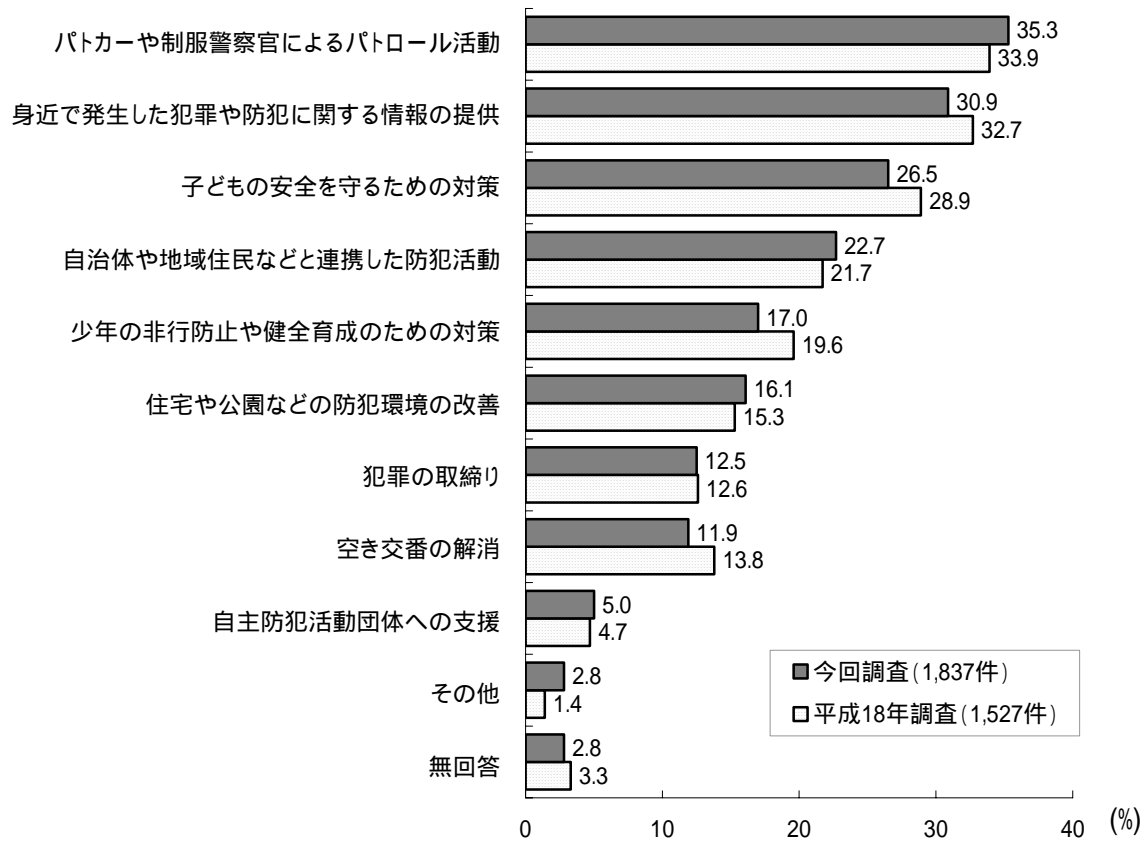
問8 あなたが治安回復に向けた施策の中で特に力を入れて欲しいと思う分野は何ですか。次の中からあてはまるものを選んで番号に○をつけてください。(○は2つまで)



治安回復で力を入れてほしいことについては、「パトカーや制服警官によるパトロール活動」と答えた人の割合が35.3%で最も高く、次いで「身近で発生した犯罪や防犯に関する情報の提供」(30.9%)、「子供の安全を守るための対策」(26.5%)、「自治体や地域住民などと連携した防犯活動」(22.7%)の順になっている。

平成 18 年の県政世論調査と比較すると、割合の数値に若干の差はあるものの、上位 6 項目の順位は、今回調査も同順位となっている。

### 治安回復で力を入れてほしいこと（時系列比較）



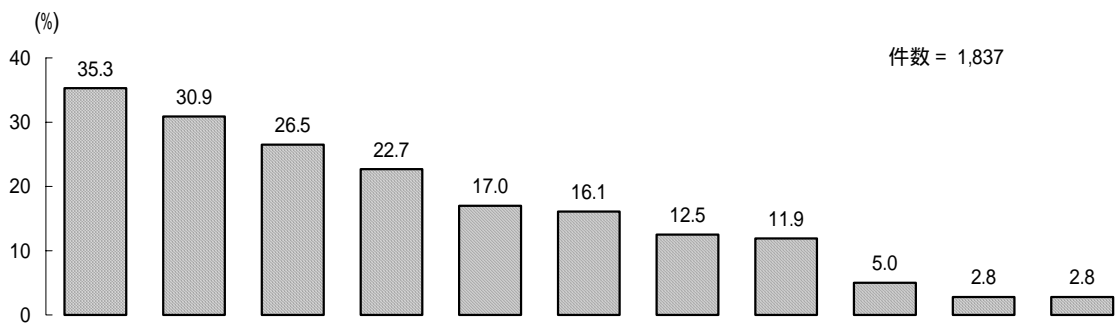
性別でみると、「身近で発生した犯罪や防犯に関する情報の提供」と答えた人の割合は、男性（25.7%）より女性（35.3%）で9.6ポイント高くなっている。

年齢別でみると、「犯罪の取締り」と答えた人の割合は、年齢が若いほど高くなっている。

居住地域別でみると、「パトカーや制服警察官によるパトロール活動」と答えた人の割合は名古屋地域（38.4%）で高く、「身近で発生した犯罪や防犯に関する情報の提供」と答えた人の割合は東三河地域（35.9%）で高くなっている。

職業別でみると、「身近で発生した犯罪や防犯に関する情報の提供」と答えた人の割合は勤め人（32.4%）で高く、「空き交番の解消」と答えた人の割合は自営業（17.9%）で高くなっている。

### 治安回復で力を入れてほしいこと（性別、年齢別、居住地域別、職業別）

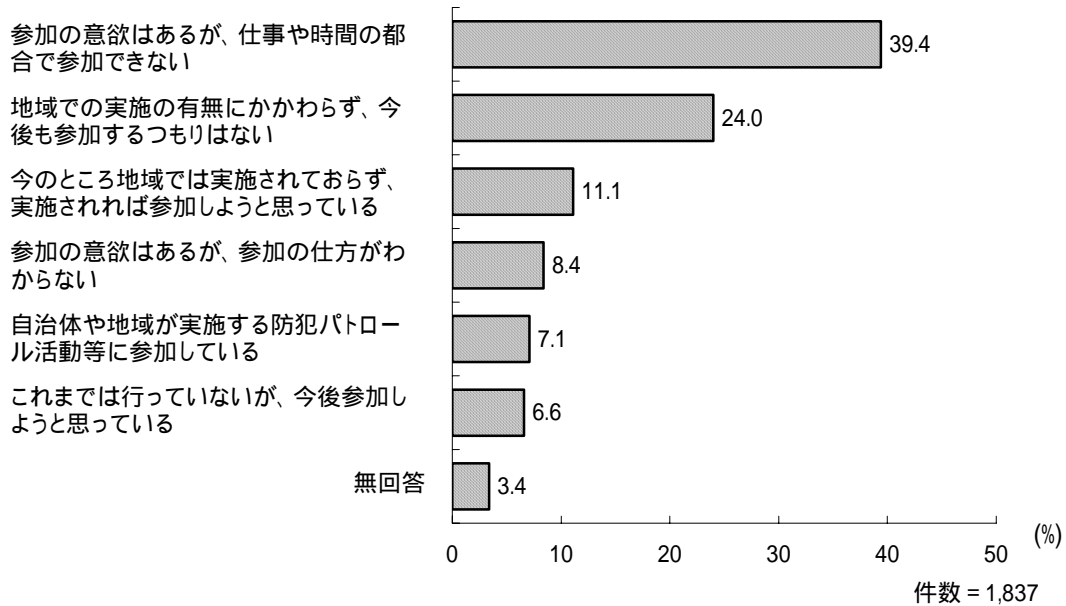


		よるパトカーや制服警察官によるパトロール活動	犯身近で発生した犯罪や防	対策子どもの安全を守るための	連自治体や地域住民などと	成少年の非行防止や健全育	境住宅や公園などの防犯環	犯罪の取締り	空き交番の解消	援自主防犯活動団体への支	そ	無
性別	男性	35.5	25.7	24.4	25.7	17.3	16.4	13.7	12.6	5.9	3.8	2.9
	女性	35.5	35.3	28.3	20.3	17.0	15.7	11.6	11.4	4.3	1.9	2.4
年齢別	20～29歳	23.4	33.2	32.2	22.0	16.6	21.5	20.0	11.7	3.9	2.9	1.0
	30～39歳	36.3	29.5	41.9	17.4	13.0	22.4	16.1	7.1	2.5	1.2	0.9
	40～49歳	39.1	35.1	31.4	19.4	17.1	10.4	14.4	12.7	3.7	3.3	1.3
	50～59歳	40.9	35.1	14.0	24.0	18.0	15.1	10.0	15.1	5.7	4.6	2.6
	60～64歳	39.6	25.1	19.8	26.9	21.6	16.3	9.3	14.5	7.5	2.2	2.2
	65歳以上	31.1	27.4	22.2	26.4	17.6	12.7	8.6	11.0	6.8	2.2	6.4
地域別	名古屋地域	38.4	29.9	24.4	22.5	16.8	17.9	9.4	14.9	5.2	2.8	2.8
	尾張地域	34.1	30.4	27.2	21.4	18.5	16.1	14.5	11.1	4.9	2.3	2.4
	西三河地域	36.7	31.0	29.9	25.5	14.9	13.3	12.5	8.7	4.9	4.1	2.4
	東三河地域	30.2	35.9	23.4	23.4	17.2	15.6	14.6	13.0	5.7	2.1	3.1
職業別	自営業	33.8	23.7	27.5	26.6	19.3	14.5	10.1	17.9	3.4	1.9	4.8
	勤め人	36.5	32.4	26.6	22.9	17.9	16.4	13.3	11.6	5.3	2.5	1.6
	無職	34.4	31.0	26.4	21.5	15.4	15.7	12.5	10.2	5.4	3.4	3.4

(5) 防犯パトロールの参加意識

「参加の意欲はあるが、仕事や時間の都合で参加できない」が39%

問9 あなたは、地域における防犯パトロール活動等に参加したいと思っていますか。次の中からあてはまるものを選んで番号に をつけてください。( は1つ)

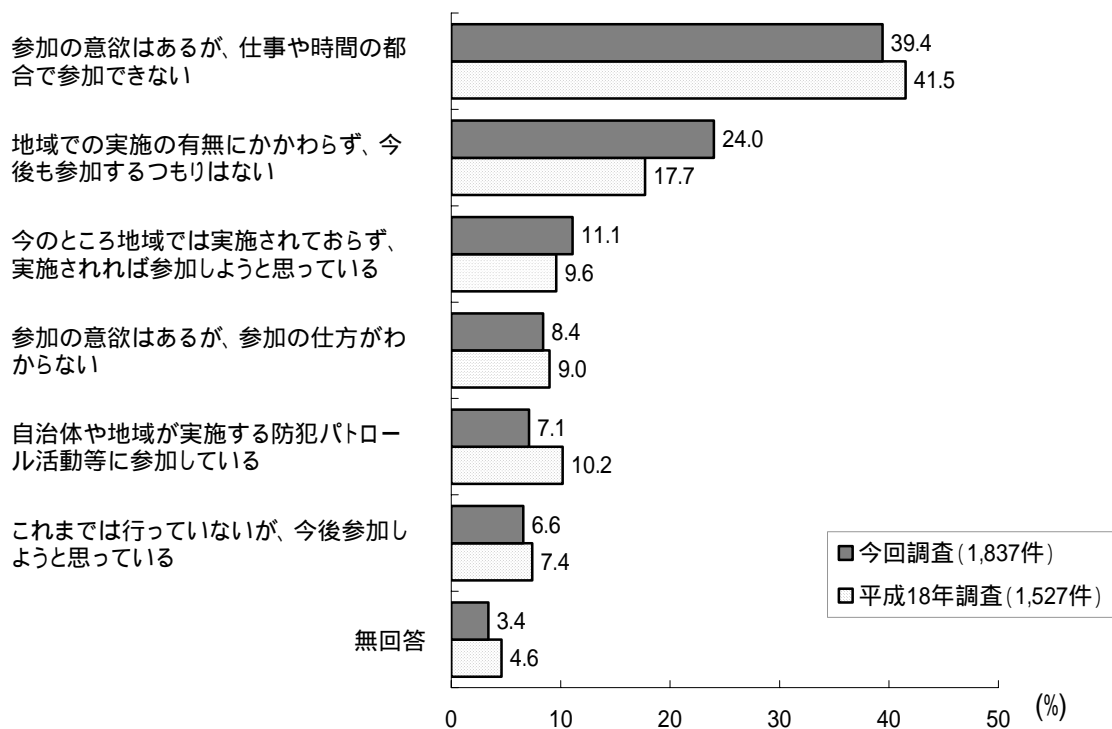


防犯パトロールの参加意識については、「参加の意欲はあるが、仕事や時間の都合で参加できない」と答えた人の割合が39.4%で最も高くなっている。

一方、「地域での実施の有無にかかわらず、今後も参加するつもりはない」と答えた人の割合は24.0%となっている。

平成 18 年の県政世論調査と比較すると、「自治体や地域が実施する防犯パトロール活動等に参加している」と答えた人の割合は、10.2%（平成 18 年調査）から 7.1%（今回調査）と 3.1 ポイント低くなっている。また、「地域での実施の有無にかかわらず、今後も参加するつもりはない」と答えた人の割合は、17.7%（平成 18 年調査）から 24.0%（今回調査）と 6.3 ポイント高くなっている。

### 防犯パトロールの参加意識（時系列比較）



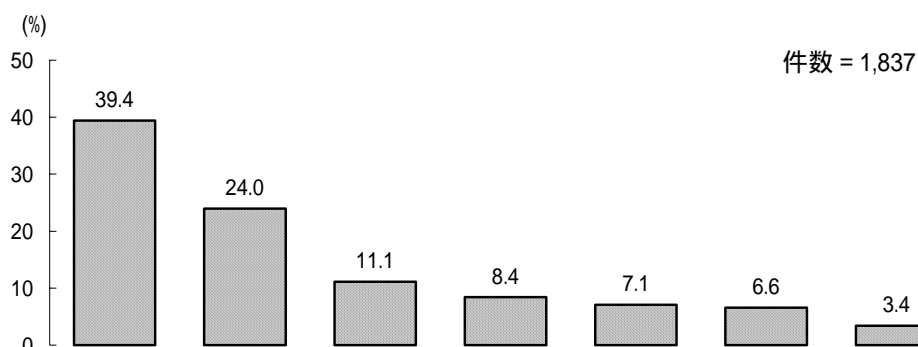
性別でみると、大きな差異はみられない。

年齢別でみると、「参加の意欲はあるが、仕事や時間の都合で参加できない」と答えた人の割合は40歳代（52.5%）で5割を超えている。一方、「地域での実施の有無にかかわらず、今後も参加するつもりはない」と答えた人の割合は20歳代（39.0%）で高くなっている。

居住地域別でみると、大きな差異はみられない。

職業別でみると、「参加の意欲はあるが、仕事や時間の都合で参加できない」と答えた人の割合は勤め人（51.9%）で高く、「地域での実施の有無にかかわらず、今後も参加するつもりはない」と答えた人の割合は無職（30.7%）で高くなっている。

### 防犯パトロールの参加意識（性別、年齢別、居住地域別、職業別）



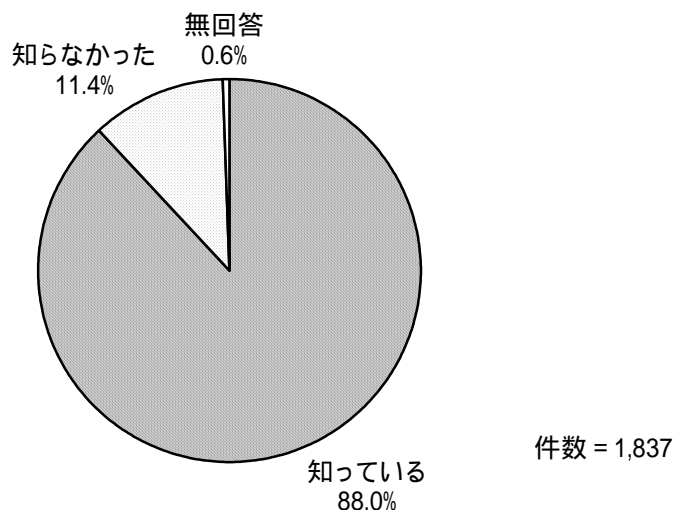
		参加の意欲はあるが、仕事や時間の都合で参加できない	地域での実施の有無にかかわらず、今後も参加するつもりはない	参加の意欲はあるが、地域での実施の有無にかかわらず、今後も参加するつもりはない	参加の意欲はあるが、地域での実施の有無にかかわらず、今後も参加するつもりはない	参加の意欲はあるが、地域での実施の有無にかかわらず、今後も参加するつもりはない	参加の意欲はあるが、地域での実施の有無にかかわらず、今後も参加するつもりはない	無回答
性別	男性	40.6	22.4	10.7	9.7	7.2	7.0	2.4
	女性	38.6	25.6	11.5	7.4	6.9	6.3	3.8
年齢別	20～29歳	37.1	39.0	9.8	8.8	0.5	3.4	1.5
	30～39歳	49.1	22.7	10.2	5.3	7.1	5.0	0.6
	40～49歳	52.5	16.7	9.4	7.0	7.0	4.7	2.7
	50～59歳	47.7	19.7	9.4	8.6	6.0	6.3	2.3
	60～64歳	37.9	18.5	16.7	9.3	7.5	8.4	1.8
	65歳以上	17.6	30.3	12.0	10.8	10.8	10.3	8.3
地域別	名古屋地域	37.6	26.2	9.2	9.8	7.9	5.7	3.5
	尾張地域	39.6	22.7	13.1	7.3	7.5	7.0	2.8
	西三河地域	41.6	23.4	10.9	9.0	5.7	6.8	2.7
	東三河地域	40.1	25.5	9.9	7.8	5.2	7.3	4.2
職業別	自営業	42.0	19.8	11.6	6.8	9.7	5.8	4.3
	勤め人	51.9	20.7	8.9	7.3	5.0	4.9	1.4
	無職	20.8	30.7	14.0	10.3	9.0	9.6	5.6

## 4 住宅用火災警報器の設置状況

### (1) 住宅用火災警報器設置義務化の認知度

「知っている」が88%

問10 あなたは消防法や火災予防条例に基づいて、本年6月1日からすべての住宅に住宅用火災警報器の設置が義務付けられたことはご存知ですか。次の中からあてはまるものを選んで番号に をつけてください。( は1つ)

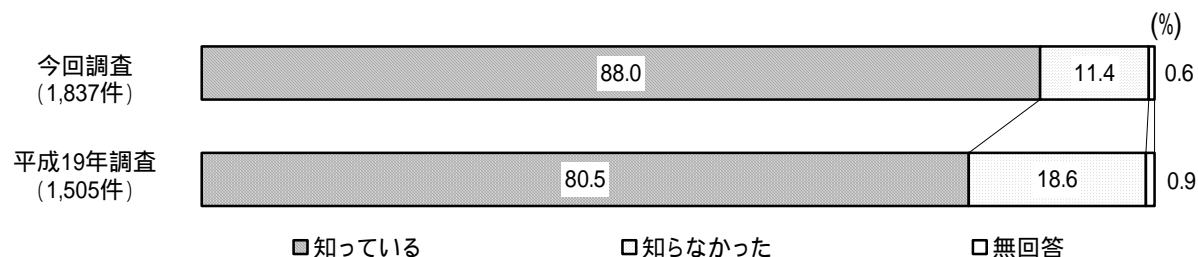


消防法や火災予防条例に基づき、本年6月からすべての住宅に住宅用火災警報器の設置が義務付けられたことを「知っている」と答えた人の割合は88.0%を占め、「知らなかった」と答えた人の割合は11.4%となっている。

義務化前年の平成19年の県政世論調査と比較すると、「知っている」と答えた人の割合は、80.5%（平成19年調査）から88.0%（今回調査）と7.5ポイント高くなっている。

一方、「知らなかった」と答えた人の割合は、18.6%（平成19年調査）から11.4%（今回調査）と7.2ポイント低くなっている。

### 住宅用火災警報器設置義務化の認知度（時系列比較）



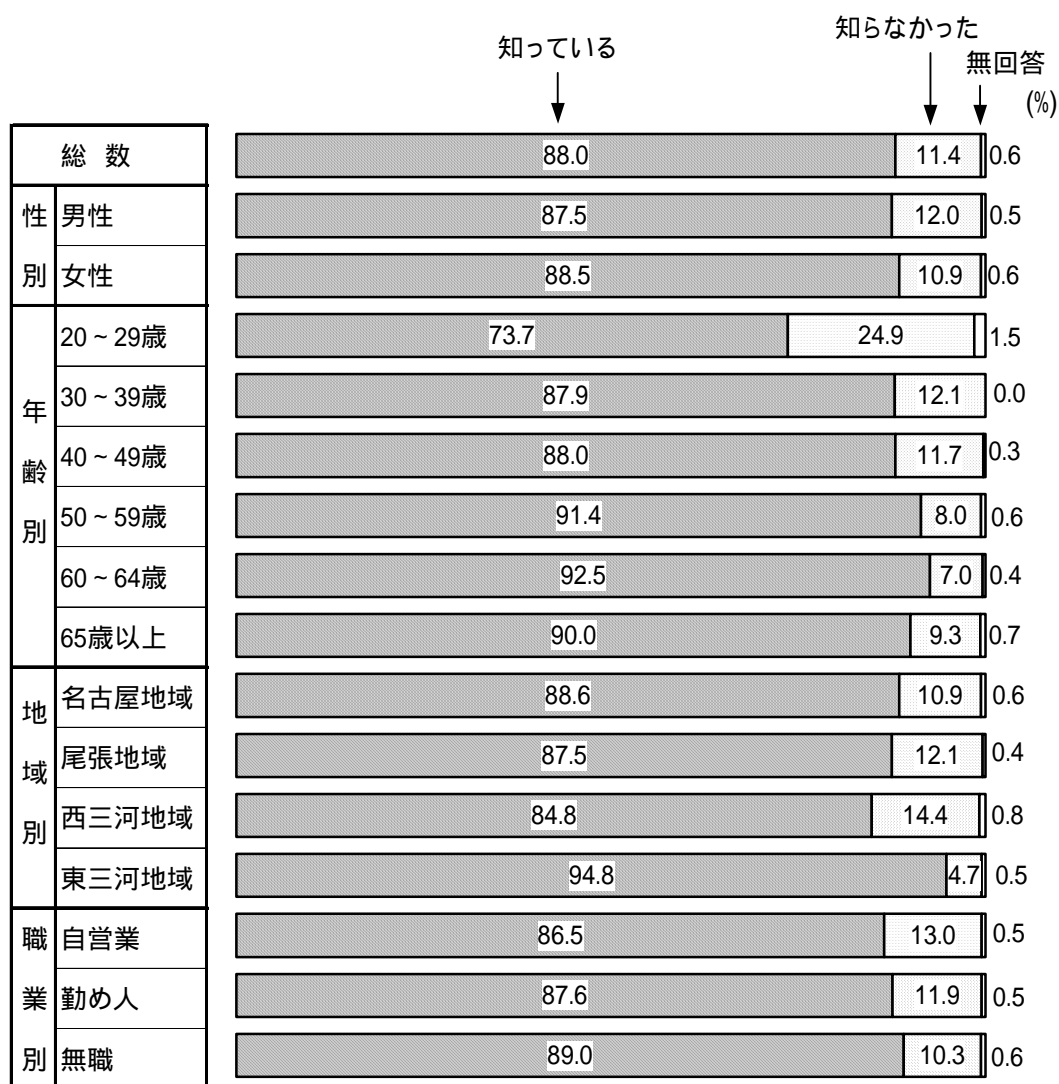
性別でみると、大きな差異はみられない。

年齢別でみると、「知っている」と答えた人の割合は、60～64歳（92.5%）で高く20歳代（73.7%）で低くなっている。

居住地域別でみると、「知っている」と答えた人の割合は、東三河地域（94.8%）で高く、西三河地域（84.8%）で低くなっている。

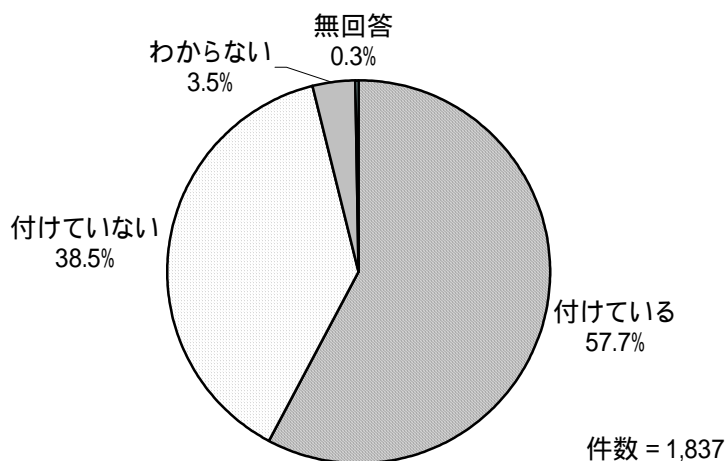
職業別でみると、大きな差異はみられない。

### 住宅用火災警報器設置義務化の認知度（性別、年齢別、居住地域別、職業別）



(2) 設置の有無  
「付けている」が58%

問 11 あなたがお住まいの住宅には、住宅用火災警報器又は火災感知器を付けていますか。  
次の中からあてはまるものを選んで番号に をつけてください。( は1つ)



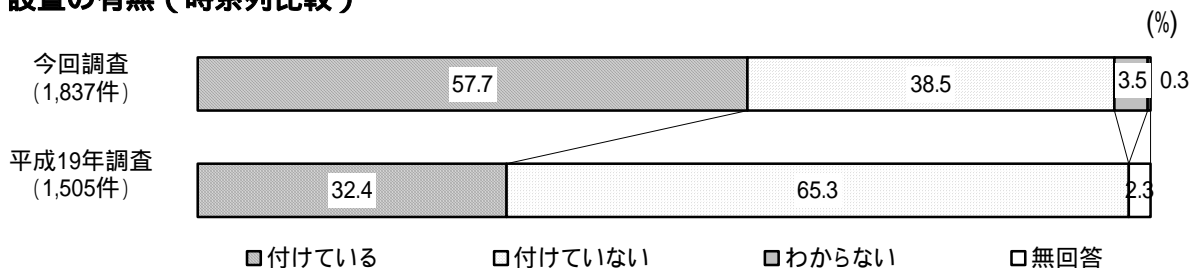
住宅に住宅用火災警報器又は火災感知器を「付けている」と答えた人の割合は 57.7%となっている。

一方で、「付けていない」と答えた人の割合は 38.5%となっている。

平成 19 年の県政世論調査と比較すると、「付けている」と答えた人の割合は、32.4% (平成 19 年調査) から 57.7% (今回調査) と 25.3 ポイント高くなっている。

一方、「付けていない」と答えた人の割合は、65.3% (平成 19 年調査) から 38.5% (今回調査) と 26.8 ポイント低くなっている。

設置の有無 (時系列比較)



(注) 平成19年調査では「わからない」の項目は入っていない。

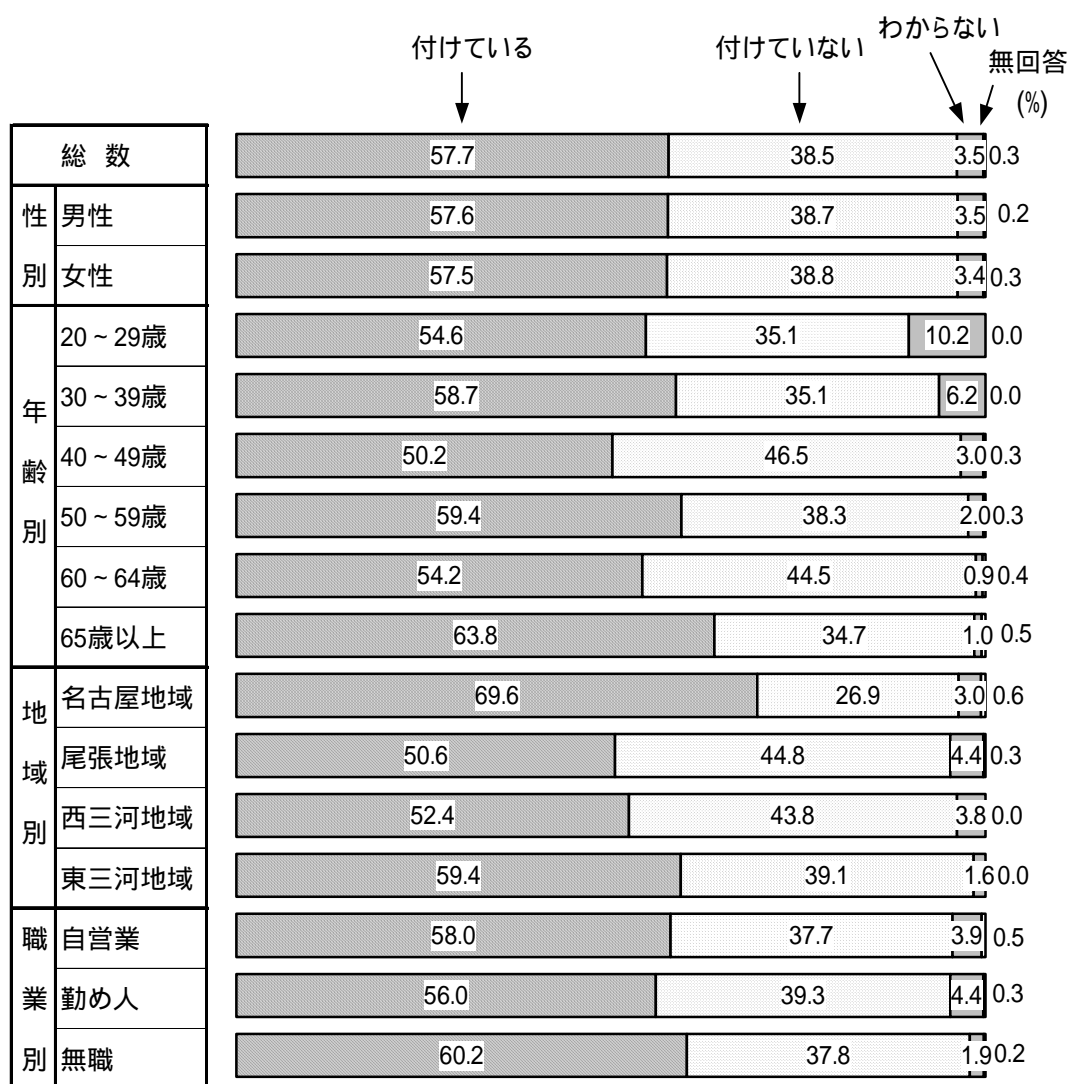
性別でみると、男性、女性ともほぼ同じ割合となっている。

年齢別でみると、「付けている」と答えた人の割合は、65歳以上（63.8%）では6割を超えている。一方、「付けていない」と答えた人の割合は、40歳代（46.5%）で高くなっている。

居住地域別でみると、「付けている」と答えた人の割合は、名古屋地域（69.6%）で高く、「付けていない」と答えた人の割合は、尾張地域（44.8%）で高くなっている。

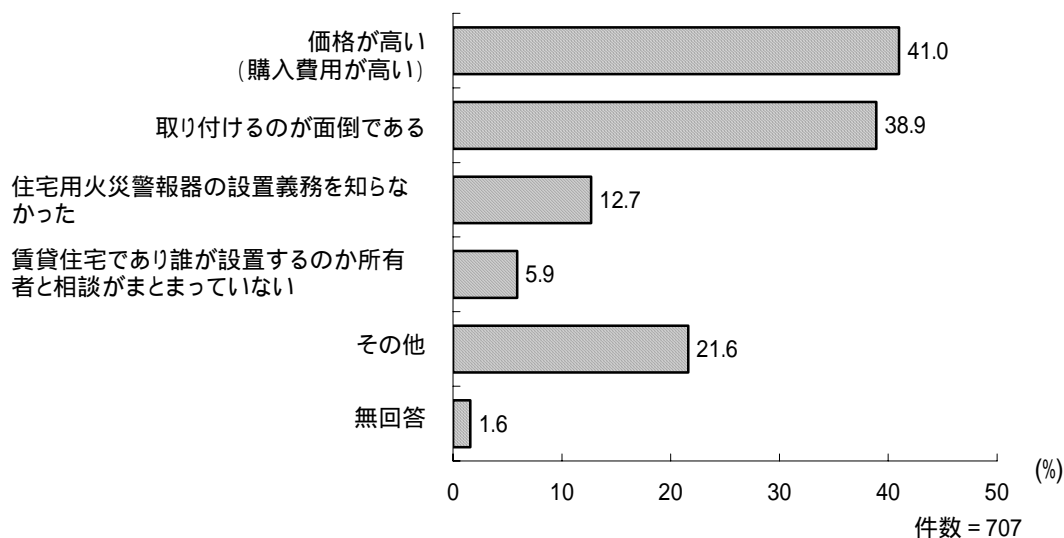
職業別でみると、大きな差異はみられない。

### 設置の有無（性別、年齢別、居住地域別、職業別）



(3) 設置していない理由  
「価格が高い」が41%

問 11 - 2 問 11 で「2 付けていない。」と答えた方は、その理由は何ですか。次の中からあてはまるものを選んで番号に をつけてください。( は2 つまで)

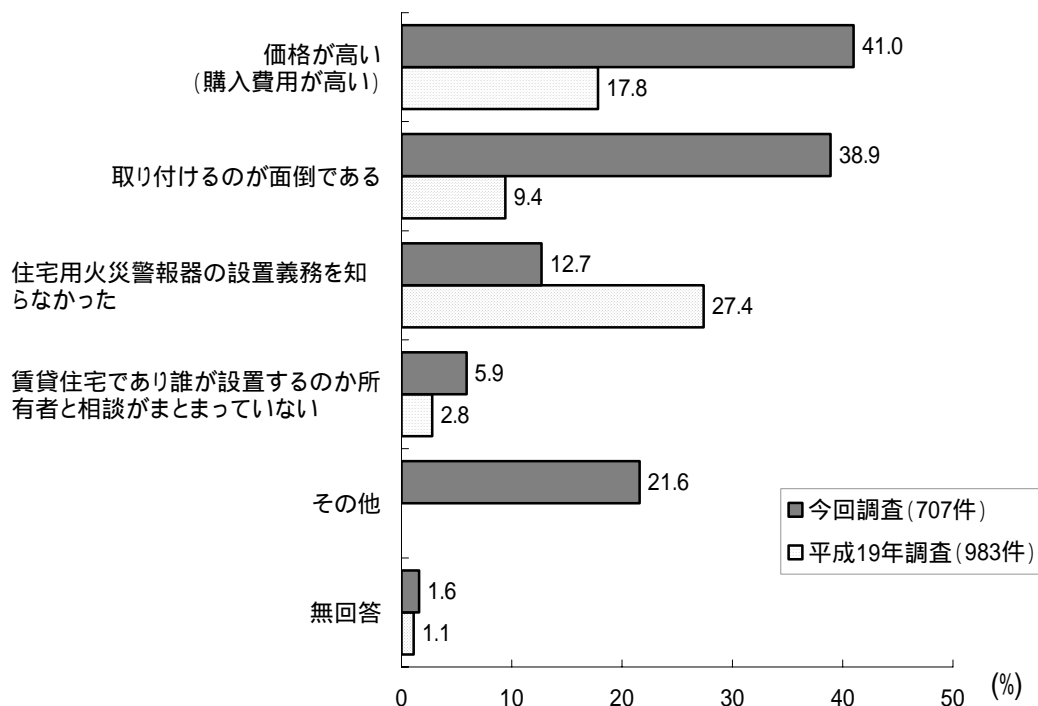


住宅用火災警報器を設置していない理由としては、「価格が高い(購入費用が高い)」と答えた人の割合が41.0%で最も高く、次いで「取り付けるのが面倒である」が38.9%となっている。以下「住宅用火災警報器の設置義務を知らなかった」(12.7%)、「賃貸住宅であり誰が設置するのか所有者と相談がまとまっていない」(5.9%)となっている。

平成 19 年の県政世論調査と比較すると、義務化前年の平成 19 年調査では「平成 20 年 5 月まで期間がある」と答えた人の割合が 61.3%と最も高かった。「取り付けるのが面倒である」と答えた人の割合は、9.4%（平成 19 年調査）から 38.9%（今回調査）と 29.5 ポイント高く、また「価格が高い」と答えた人の割合は、17.8%（平成 19 年調査）から 41.0%（今回調査）と 23.2 ポイント高くなっており前回よりも大幅に上昇した。

一方で、「住宅用火災警報器の設置義務を知らなかった」と答えた人の割合は、27.4%（平成 19 年調査）から 12.7%（今回調査）と 14.7 ポイント低くなっている。

### 設置していない理由（時系列比較）



(注) 平成19年調査では他の項目が入っていた。  
「平成20年5月まで期間がある」61.3%等。

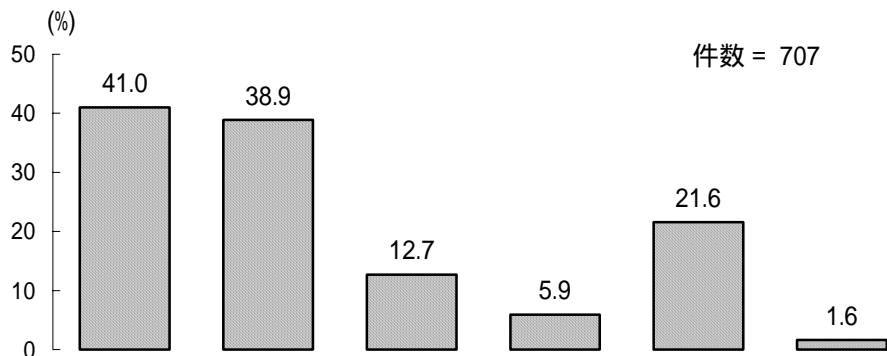
性別でみると、男性は「価格が高い」(44.8%)と答えた人の割合が最も高いのに対し、女性は「取り付けるのが面倒である」(39.1%)と答えた人の割合が最も高くなっている。

年齢別でみると、「住宅用火災警報器の設置義務を知らなかった」と答えた人の割合は、20歳代(29.2%)で高く、30歳代(7.1%)で低くなっている。

居住地域別でみると、「取り付けるのが面倒である」と答えた人の割合は、西三河地域(46.6%)で高く、東三河地域(26.7%)で低くなっている。

職業別でみると、「取り付けるのが面倒である」と答えた人の割合は、勤め人(41.8%)で高く、自営業(29.5%)で低くなっている。

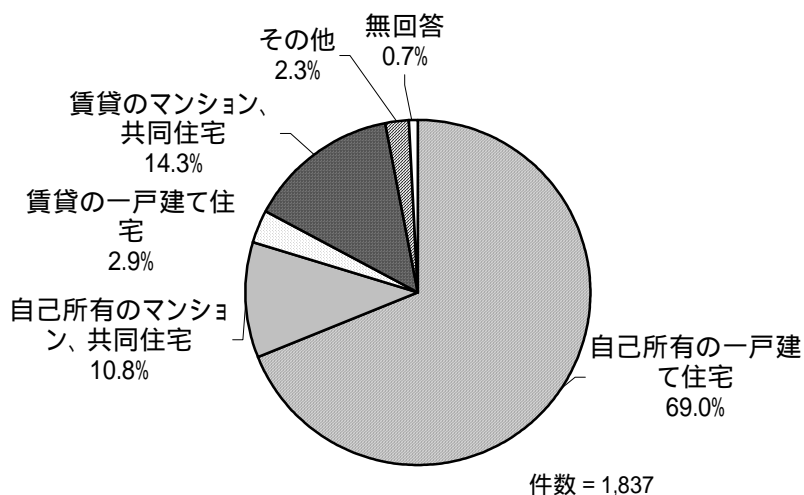
**設置していない理由(性別、年齢別、居住地域別、職業別)**



		価格が高い	取り付けるのが面倒	住宅用火災警報器の設置義務を知らなかった	賃貸者との相談がまとまらず	その他	無回答
性別	男性	44.8	38.9	13.5	6.9	17.6	1.3
	女性	37.8	39.1	12.2	5.2	25.0	1.8
年齢別	20～29歳	29.2	41.7	29.2	5.6	12.5	1.4
	30～39歳	36.3	46.0	7.1	13.3	23.0	0.0
	40～49歳	48.9	38.1	10.8	4.3	23.0	0.0
	50～59歳	39.6	42.5	7.5	4.5	25.4	1.5
	60～64歳	46.5	38.6	11.9	2.0	21.8	1.0
	65歳以上	40.1	30.3	16.9	6.3	19.7	4.9
地域別	名古屋地域	45.2	36.3	11.6	8.9	24.0	2.1
	尾張地域	42.5	39.6	14.8	4.4	21.1	1.3
	西三河地域	36.0	46.6	13.7	5.0	16.1	1.9
	東三河地域	37.3	26.7	5.3	9.3	30.7	0.0
職業別	自営業	43.6	29.5	15.4	6.4	23.1	1.3
	勤め人	42.3	41.8	11.6	5.1	21.3	0.8
	無職	39.2	38.8	13.5	6.9	20.8	2.9

(4) 現在の住宅状況  
**「自己所有の一戸建て住宅」が69%**

問12 あなたのお住まいはどの種類ですか。次の中からあてはまるものを選んで番号をつけてください。( は1つ)



現在の住宅状況は、「自己所有の一戸建て住宅」(69.0%)と答えた人の割合が最も高い。

「自己所有の一戸建て住宅」(69.0%)と「自己所有のマンション、共同住宅」(10.8%)を合わせた“持ち家”と答えた人の割合は79.8%となっている。

一方、「賃貸の一戸建て住宅」(2.9%)と「賃貸のマンション、共同住宅」(14.3%)を合わせた“賃貸住宅”と答えた人の割合は17.2%となっている。

また、「自己所有の一戸建て住宅」(69.0%)と「賃貸の一戸建て住宅」(2.9%)を合わせた“一戸建て”と答えた人の割合は71.9%となっている。

一方、「自己所有のマンション、共同住宅」(10.8%)と「賃貸のマンション、共同住宅」(14.3%)を合わせた“マンション、共同住宅”と答えた人の割合は25.1%となっている。

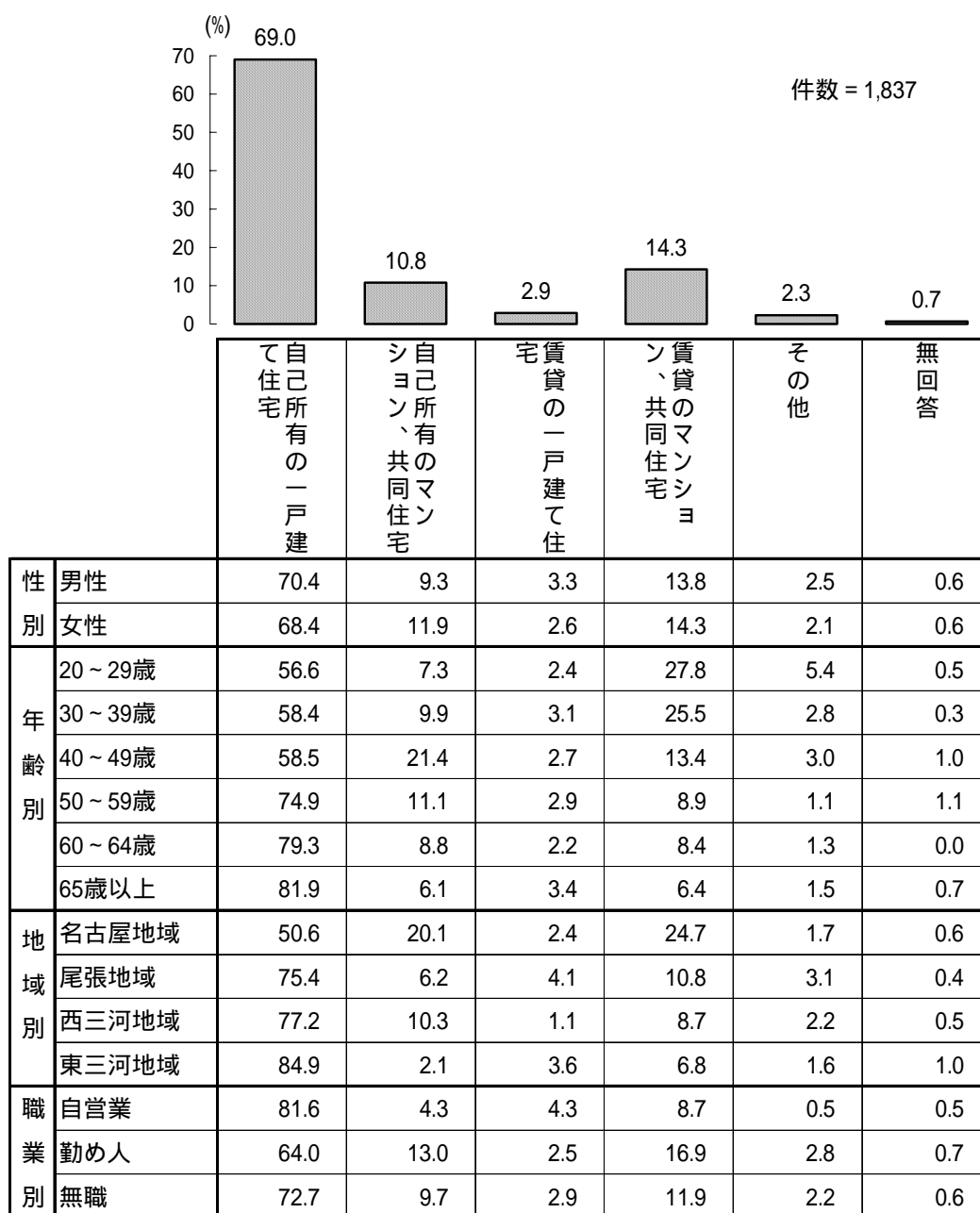
性別でみると、大きな差異はみられない。

年齢別でみると、「自己所有の一戸建て住宅」と答えた人の割合は、年齢が高いほど高くなっている。一方、「賃貸のマンション、共同住宅」と答えた人の割合は、年齢が低いほど高くなっている。また、「自己所有のマンション、共同住宅」と答えた人の割合は40歳代(21.4%)で高く、65歳以上(6.1%)で低くなっている。

居住地域別でみると、東三河地域で「自己所有の一戸建て住宅」(84.9%)と答えた人の割合が高く、「自己所有のマンション、共同住宅」(2.1%)と答えた人の割合が低くなっている。

職業別でみると、「自己所有の一戸建て住宅」と答えた人の割合は自営業(81.6%)で高く、「賃貸のマンション、共同住宅」と答えた人の割合は勤め人(16.9%)で高くなっている。

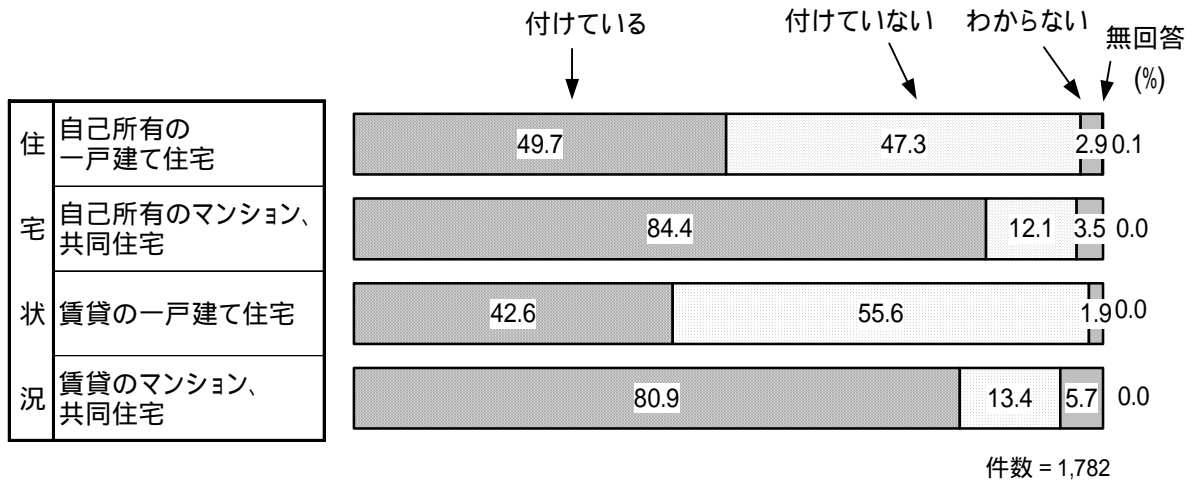
### 現在の住宅状況(性別、年齢別、居住地域別、職業別)



## 住宅別の設置状況

「自己所有のマンション、共同住宅」が84%

### 設置の有無（住宅状況別）



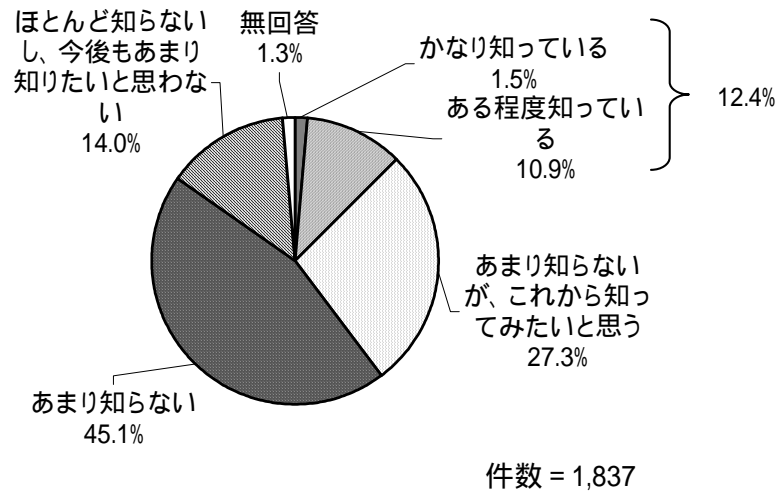
住宅用火災警報器又は火災感知器を「付けている」と答えた人の割合を住宅状況でみると、「自己所有のマンション、共同住宅」(84.4%)と答えた人の割合が最も高く、次いで、「賃貸のマンション、共同住宅」(80.9%)と合わせた“マンション、共同住宅”で高くなっている。

一方、「自己所有の一戸建て住宅」(49.7%)と「賃貸の一戸建て住宅」(42.6%)を合わせた“一戸建て”で低くなっている。

## 5 COP10及び生物多様性について

### (1)「生物多様性」の認知度 “知っている”が12%

問 13 あなたは、「生物多様性」について、どのくらい知っていますか。次の中からあてはまるものを選んで番号に をつけてください。( は1つ)



「生物多様性」をどの程度知っているかたずねたところ、“知っている”(「かなり知っている」1.5% + 「ある程度知っている」10.9%)と答えた人の割合は12.4%となっている。

一方、「あまり知らない」と答えた人の割合は45.1%と最も高く、次いで「あまり知らないが、これから知ってみたいと思う」と答えた人の割合は27.3%、「ほとんど知らないし、今後あまり知りたいと思わない」と答えた人の割合は14.0%となっている。

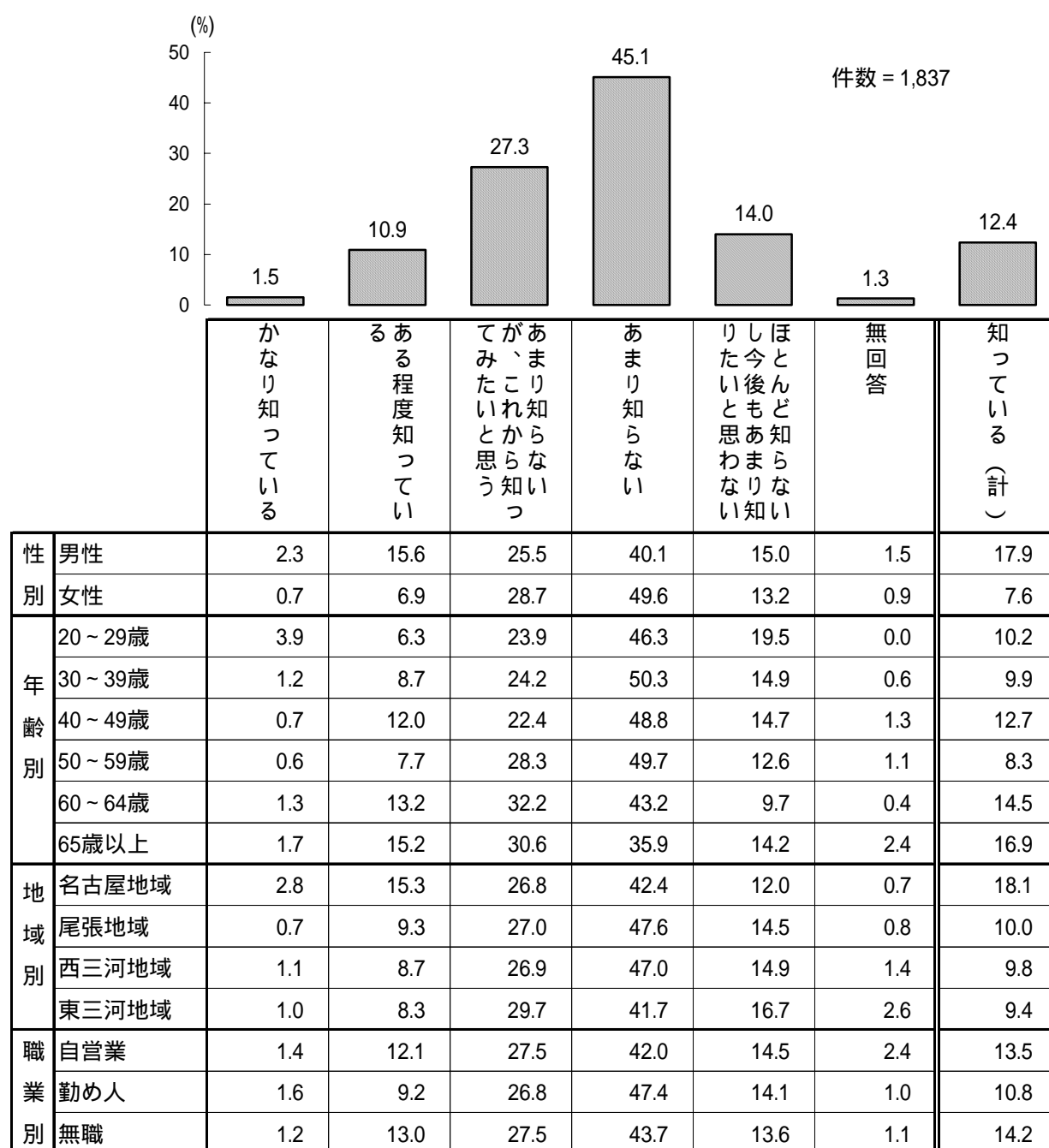
性別でみると、“知っている”と答えた人の割合は、女性（7.6%）より男性（17.9%）で10.3ポイント高くなっている。

年齢別でみると、“知っている”と答えた人の割合は、65歳以上（16.9%）で高く、50歳代（8.3%）で低くなっている。

居住地域別でみると、COP10開催地の名古屋地域では“知っている”と答えた人の割合が18.1%と最も高くなっている。

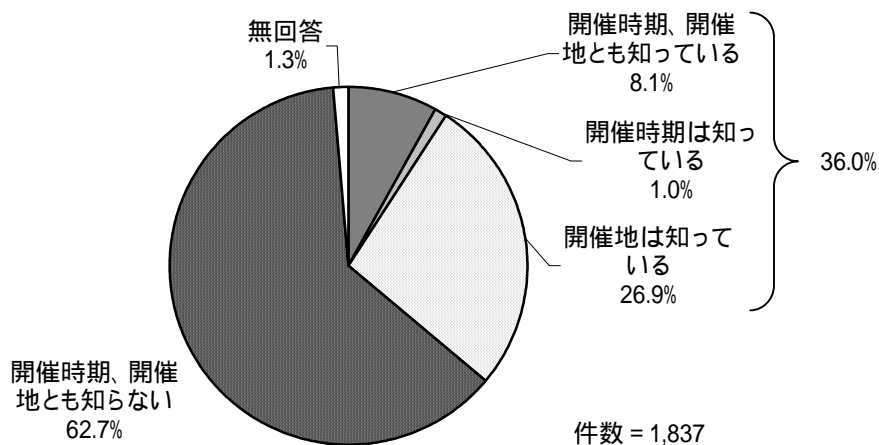
職業別でみると、「あまり知らない」と答えた人の割合は、勤め人（47.4%）で高く、“知っている”と答えた人の割合は、無職（14.2%）で高くなっている。

### 「生物多様性」の認知度（性別、年齢別、居住地域別、職業別）



(2) 開催時期・開催地の認知度  
“知っている”が36%

問 14 あなたは、生物多様性条約第 10 回締約国会議（COP10）の開催地が愛知・名古屋に正式に決定したことをご存知ですか。次の中からあてはまるものを選んで番号をつけてください。（は1つ）



生物多様性条約第 10 回締約国会議（COP10）の開催地、開催時期を知っているかたずねたところ、“知っている”（「開催時期、開催地とも知っている」8.1% + 「開催時期は知っている」1.0% + 「開催地は知っている」26.9%）と答えた人の割合は 36.0%となっている。

一方、「開催時期、開催地とも知らない」と答えた人の割合は 62.7%となっている。

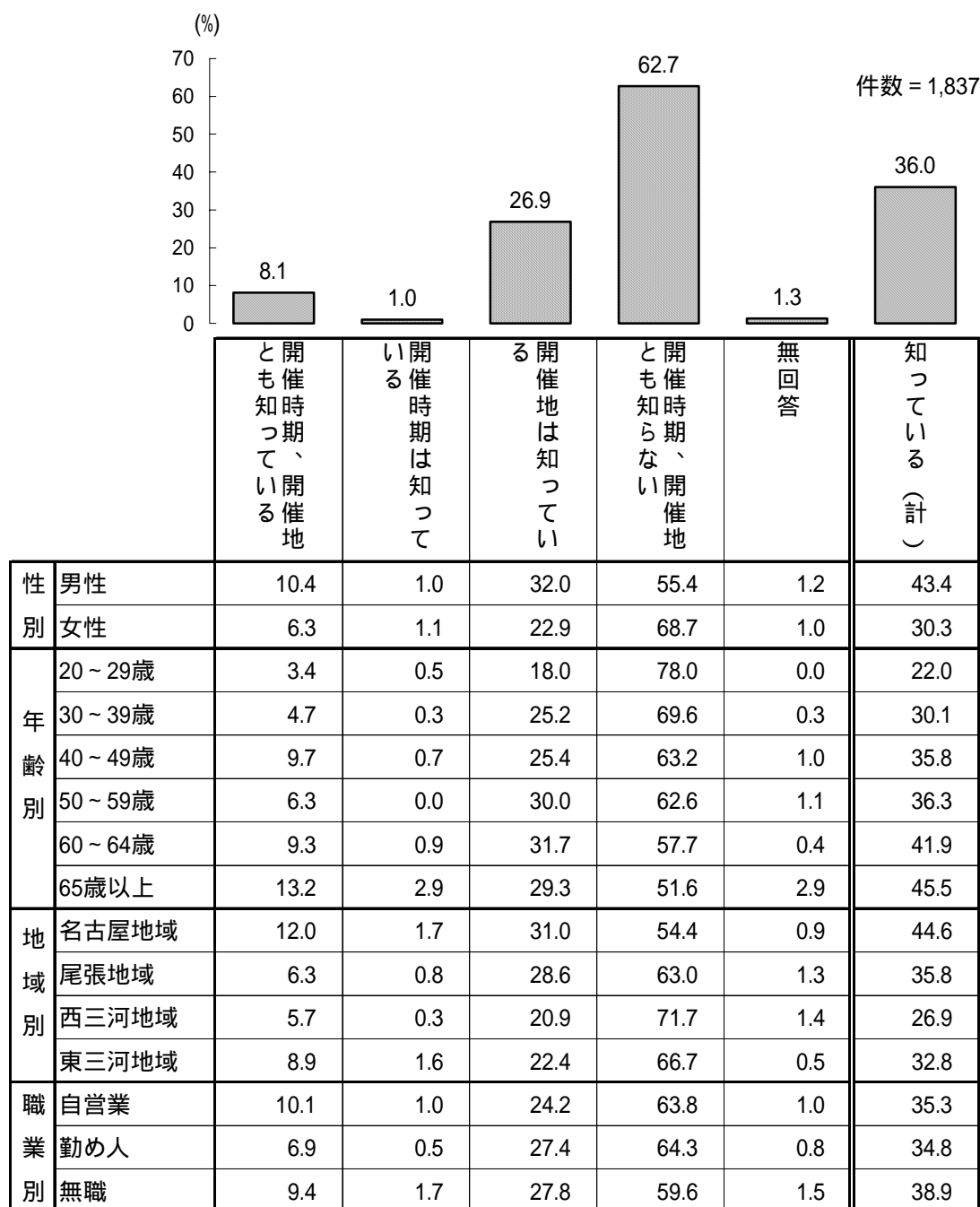
性別でみると、“知っている”と答えた人の割合は、女性（30.3%）より男性（43.4%）で13.1ポイント高くなっている。

年齢別でみると、“知っている”と答えた人の割合は、年齢が高いほど高くなっている。一方、「開催時期、開催地とも知らない」と答えた人の割合は、年齢が低いほど高くなっており、20歳代（78.0%）では8割近くになっている。

居住地域別でみると、“知っている”と答えた人の割合は、名古屋地域（44.6%）で最も高くなっている。一方、「開催時期、開催地とも知らない」と答えた人の割合は、西三河地域（71.7%）で7割を超えている。

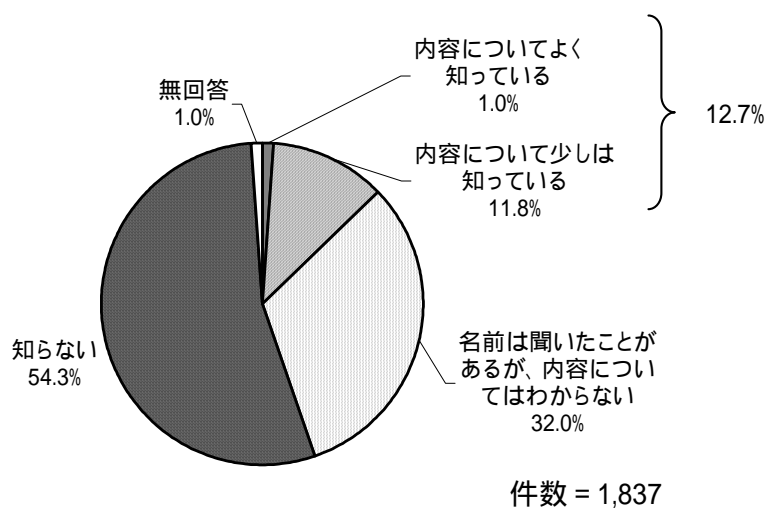
職業別でみると、大きな差異はみられない。

### 開催時期・開催地の認知度（性別、年齢別、居住地域別、職業別）



(3) COP10 会議内容の認知度  
“内容を知っている”は13%

問15 あなたは、生物多様性条約第10回締約国会議(COP10)がどのような会議かご存知ですか。次の中からあてはまるものを選んで番号にをつけてください。(は1つ)



COP10 会議内容について知っているかをたずねたところ、“内容を知っている”(「内容についてよく知っている」1.0% + 「内容について少しは知っている」11.8%)と答えた人の割合は12.7%となっている。また、「名前を聞いたことがあるが、内容についてはわからない」と答えた人の割合は32.0%となっている。

一方、「知らない」と答えた人の割合は54.3%となっている。

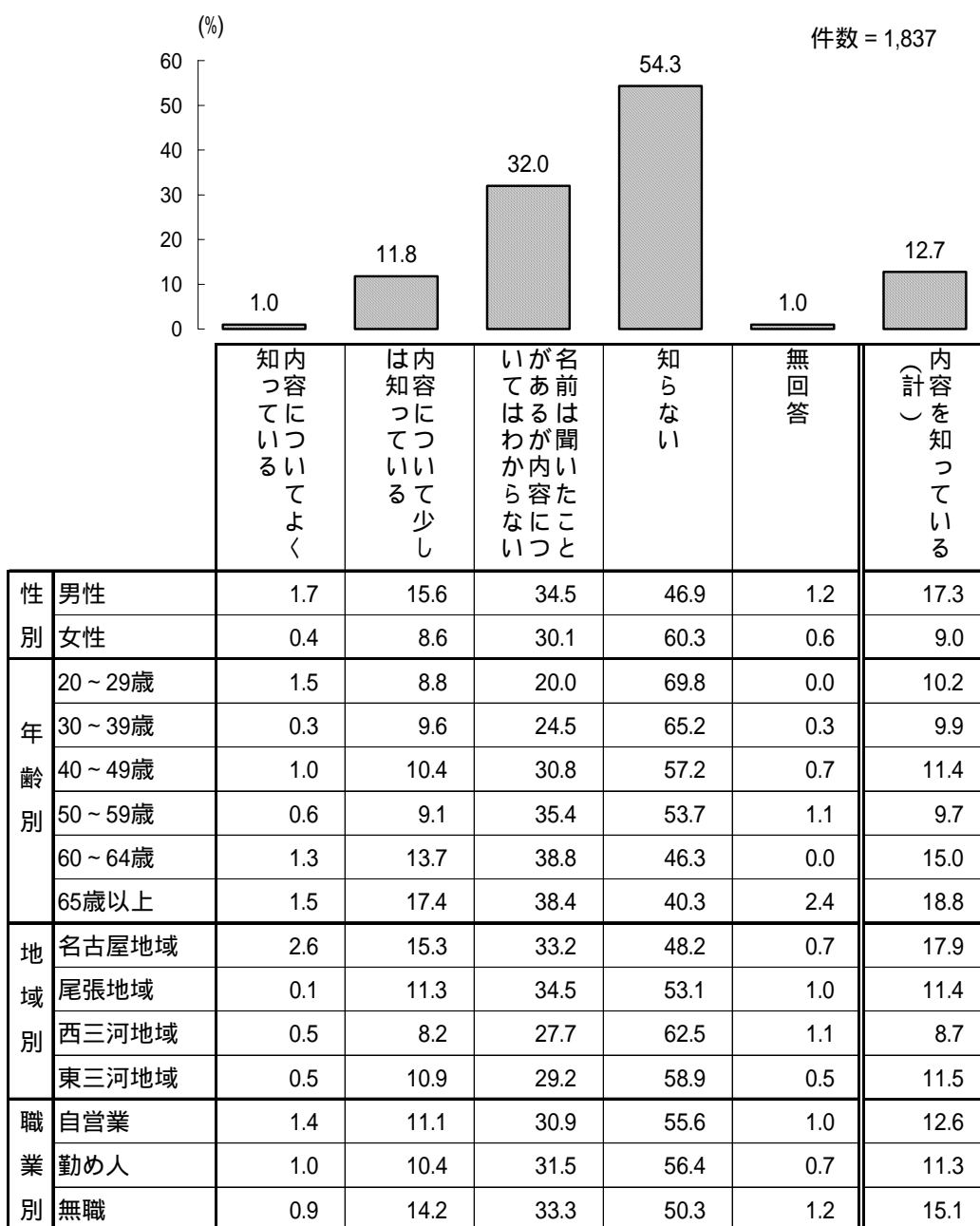
性別でみると、“内容を知っている”と答えた人の割合は、女性(9.0%)より男性(17.3%)で8.3ポイント、「名前は聞いたことがあるが内容についてはわからない」は女性(30.1%)より男性(34.5%)で4.4ポイントそれぞれ高くなっている。

年齢別でみると、“内容を知っている”と答えた人の割合は、65歳以上(18.8%)で高く、50歳代(9.7%)で低くなっている。一方、「知らない」と答えた人の割合は、年齢が低いほど高くなっている。

居住地域別でみると、“内容を知っている”と答えた人の割合は、名古屋地域(17.9%)で高く、「知らない」と答えた人の割合は、西三河地域(62.5%)で高くなっている。

職業別でみると、“内容を知っている”と答えた人の割合は、無職(15.1%)で高く、「知らない」と答えた人の割合は、勤め人(56.4%)で高くなっている。

### COP10 会議内容の認知度(性別、年齢別、居住地域別、職業別)

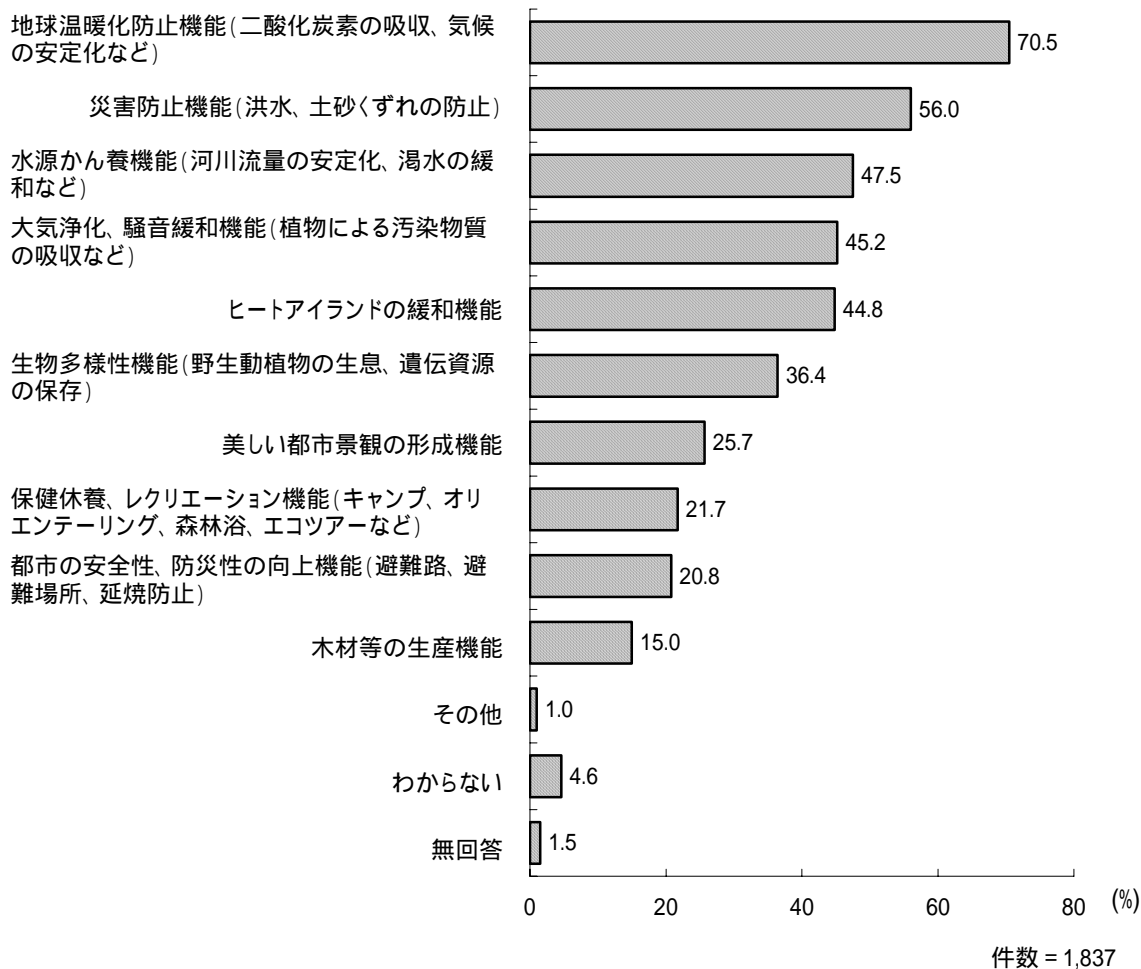


## 6 あいちの森と緑について

### (1) 森や緑の重要な機能

「地球温暖化防止機能」が71%

問16 森や緑は、水源のかん養、土砂の流出防止、地球温暖化防止等の多くの公益的機能を有しています。あなたは、森や緑のどのような機能が重要だと思いますか。次の中からあてはまるものを選んで番号に をつけてください。( はいくつでも)



森や緑の重要な機能としては、「地球温暖化防止機能(二酸化炭素の吸収、気候の安定化など)」と答えた人の割合が70.5%と最も高く、次いで「災害防止機能(洪水、土砂くずれの防止)」(56.0%)、「水源かん養機能(河川流量の安定化、湯水の緩和など)」(47.5%)、「大気浄化、騒音緩和機能(植物による汚染物質の吸収など)」(45.2%)、「ヒートアイランドの緩和機能」(44.8%)、「生物多様性機能(野生動植物の生息、遺伝資源の保存)」(36.4%)の順になっている。

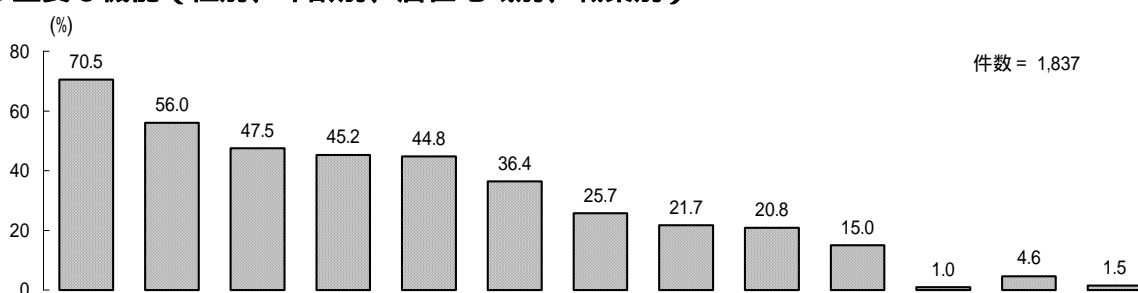
性別で見ると、「水源かん養機能」と答えた人の割合は、女性(42.8%)より男性(52.8%)で10.0ポイント高くなっている。

年齢別で見ると、「地球温暖化防止機能」、「大気浄化、騒音緩和機能」と答えた人の割合は、年齢が若いほど高くなっている。また、40歳代では「ヒートアイランドの緩和機能」(56.2%)、50歳代では「災害防止機能」(62.9%)、65歳以上では「水源かん養機能」(53.3%)と答えた人の割合が他の年代に比べて高くなっている。

居住地域別で見ると、「ヒートアイランドの緩和機能」と答えた人の割合は、名古屋地域(52.8%)で高く、「美しい都市景観の形成機能」と答えた人の割合は、西三河地域(27.2%)で高くなっている。

職業別で見ると、勤め人で「地球温暖化防止機能」(73.7%)、「ヒートアイランドの緩和機能」(48.5%)と答えた人の割合が高くなっている。

### 森や緑の重要な機能（性別、年齢別、居住地域別、職業別）

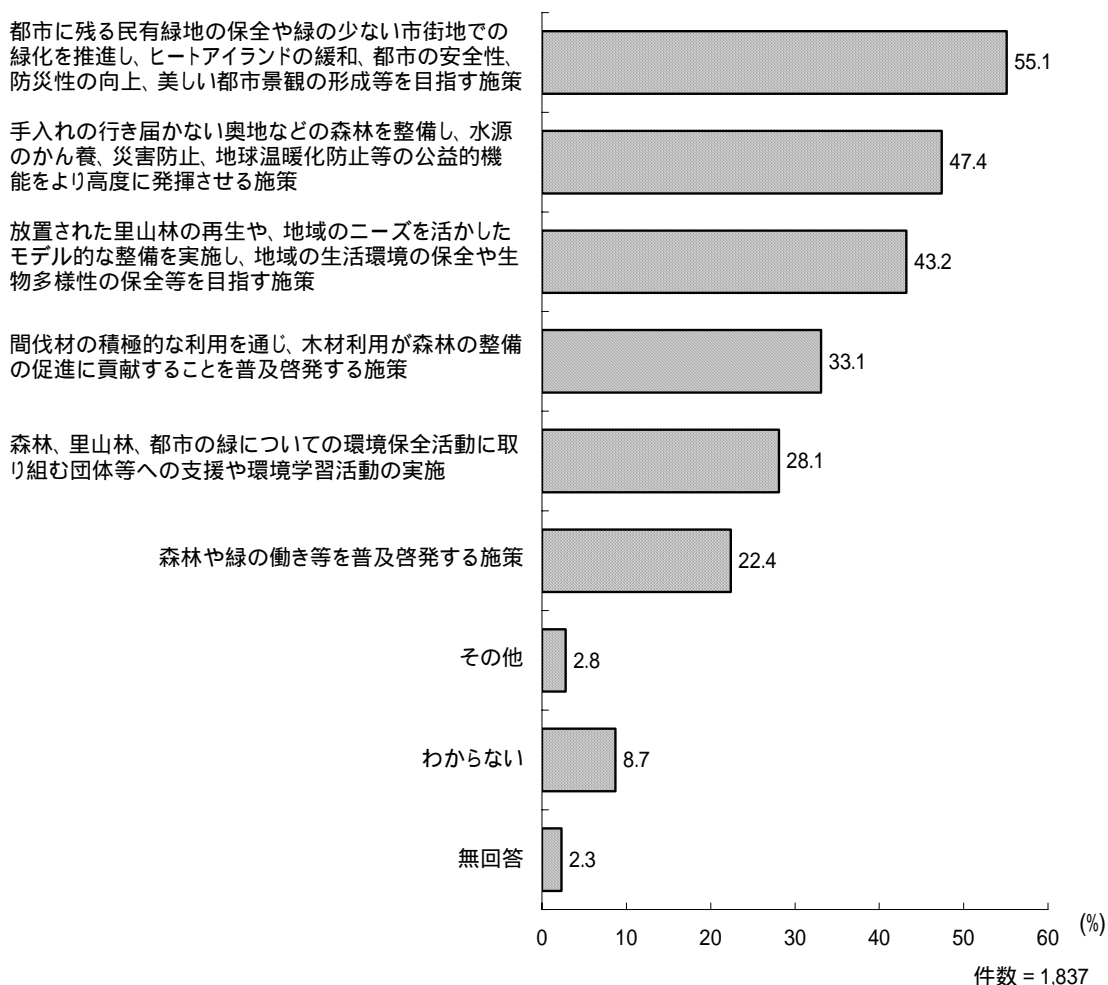


	地球温暖化防止機能(二酸化炭素の吸収)	災害防止機能(洪水、土砂くずれの防止)	水源かん養機能(河川流量の安定)	大気浄化、騒音緩和機能(植物による汚染物質の吸収など)	ヒートアイランドの緩和機能	生物多様性機能(野生動物植物の息、遺伝資源の保存)	美しい都市景観の形成機能	保健休養、レクリエーション機能(キャンプ、森林浴、エコツアーなど)	都市の安全性、防災性の向上機能(避難路、避難場所、延焼防止)	木材等の生産機能	その他	わからない	無回答	
性別	男性	69.3	56.6	52.8	46.3	45.1	39.2	28.4	23.6	20.2	17.6	1.0	4.6	1.1
	女性	71.5	55.5	42.8	44.1	45.1	33.9	23.5	20.2	21.3	12.7	1.1	4.5	1.7
年齢別	20～29歳	78.0	57.6	40.0	49.3	49.3	42.4	28.3	23.4	18.5	11.2	1.0	3.4	0.0
	30～39歳	75.5	57.1	44.7	49.1	53.1	37.0	23.3	24.8	14.3	12.1	1.2	2.5	0.3
	40～49歳	74.2	49.5	44.1	48.5	56.2	33.1	22.7	18.7	14.4	11.0	1.0	5.7	1.3
	50～59歳	72.3	62.9	50.9	47.1	49.4	41.4	25.1	22.6	22.6	17.7	1.1	3.7	1.4
	60～64歳	69.2	57.7	46.7	44.9	40.1	35.2	28.2	21.1	21.6	15.9	1.3	4.8	0.9
	65歳以上	59.7	51.8	53.3	35.9	27.6	31.5	27.4	20.3	30.1	19.1	0.7	6.6	3.7
地域別	名古屋地域	69.0	54.8	45.8	44.8	52.8	38.9	26.4	21.4	22.9	12.7	1.1	4.1	0.9
	尾張地域	70.0	57.2	46.1	44.6	42.0	35.2	26.5	20.3	20.6	14.2	1.0	4.6	1.3
	西三河地域	73.4	54.6	51.9	46.2	42.7	34.0	27.2	24.7	19.6	17.1	1.4	5.2	1.6
	東三河地域	71.9	58.3	49.0	45.8	39.6	38.0	18.8	22.9	18.8	19.8	0.5	4.7	2.1
職業別	自営業	68.6	58.0	48.8	46.4	46.9	33.3	28.0	17.9	23.2	18.4	1.0	4.8	1.0
	勤め人	73.7	56.7	46.6	46.9	48.5	37.1	25.6	23.2	18.2	12.4	1.0	4.0	1.2
	無職	66.8	54.5	48.5	42.3	39.7	36.4	25.5	21.0	23.8	17.3	1.2	5.2	2.2

(2) 緑豊かなあいちの実現のための施策

「都市に残る民有緑地の保全や緑の少ない市街地での緑化を推進」が55%

問17 愛知県では平成21年度から「あいち森と緑づくり税」を導入し、水源のかん養、土砂の流出防止、地球温暖化防止等の多くの公益的機能を有する森林、里山林、都市の緑を整備、保全することにより「山から街まで緑豊かなあいちの実現」を目指しています。それには、今後どのような施策が重要と考えますか。次の中からあてはまるものを選んで番号に をつけてください。( はいいくつでも )



愛知県が「山から街まで緑豊かなあいちの実現」を目指すための重要な施策としては、「都市に残る民有緑地の保全や緑の少ない市街地での緑化を推進し、ヒートアイランドの緩和、都市の安全性、防災性の向上、美しい都市景観の形成等を目指す施策」と答えた人の割合が55.1%で最も高く、次いで「手入れの行き届かない奥地などの森林を整備し、水源のかん養、災害防止、地球温暖化防止等の公益的機能をより高度に発揮させる施策」(47.4%)、「放置された里山林の再生や、地域のニーズを活かしたモデル的な整備を実施し、地域の生活環境の保全や生物多様性の保全等を目指す施策」(43.2%)の順になっている。

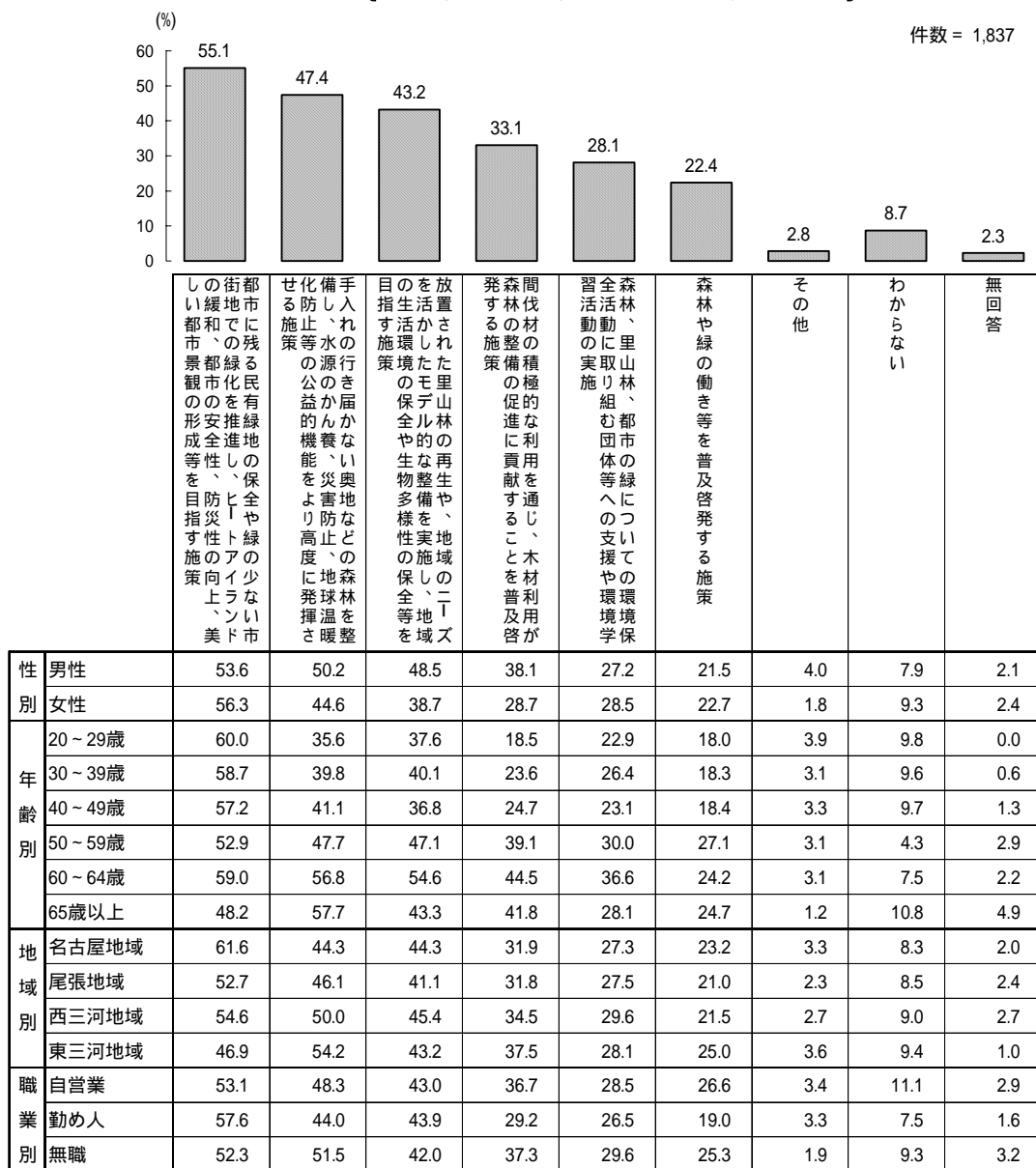
性別でみると、「放置された里山林の再生や、地域のニーズを活かしたモデル的な整備を実施」と答えた人の割合は、女性（38.7%）より男性（48.5%）で 9.8 ポイント高くなっている。

年齢別でみると、「手入れの行き届かない奥地などの森林を整備」と答えた人の割合は、年齢が高いほど高くなっている。また、「間伐材の積極的な利用」と答えた人の割合は、60～64歳（44.5%）で高く、20歳代（18.5%）で低くなっている。

居住地域別でみると、「都市に残る民有緑地の保全や緑の少ない市街地での緑化を推進」と答えた人の割合は、名古屋地域（61.6%）で高く、「手入れの行き届かない奥地などの森林を整備」と答えた人の割合は、東三河地域（54.2%）で高くなっている。

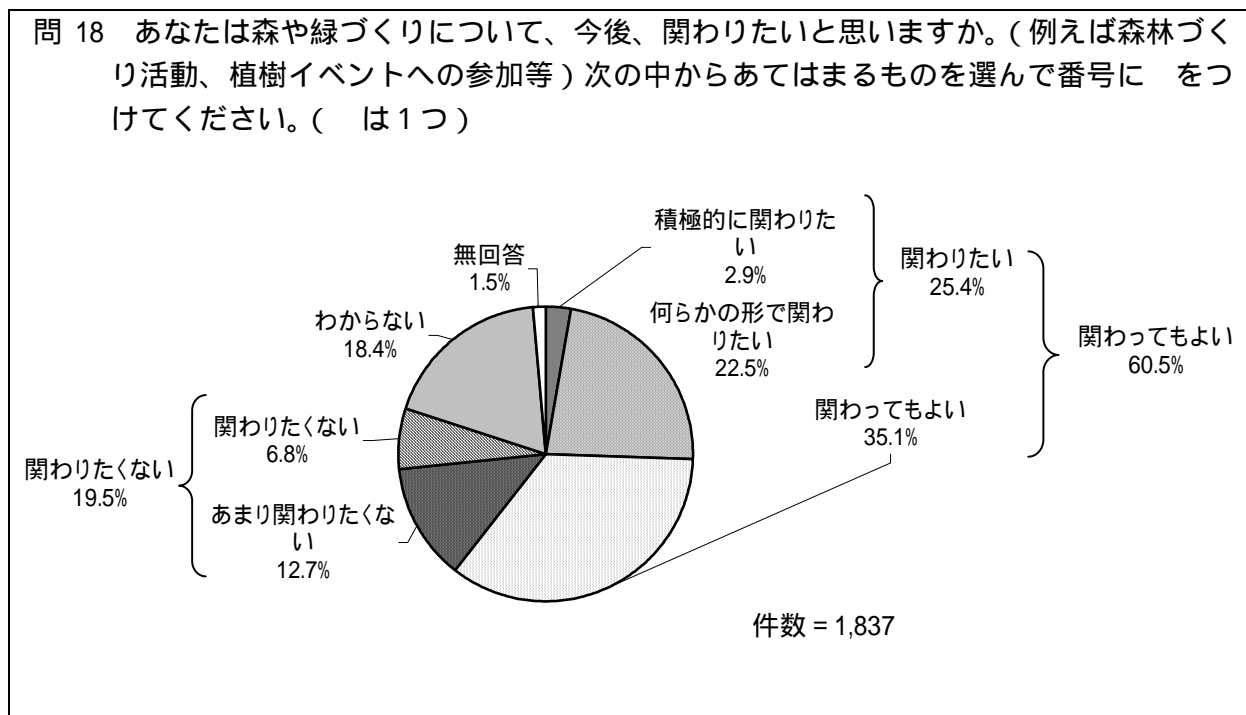
職業別でみると、勤め人で「都市に残る民有緑地の保全や緑の少ない市街地での緑化を推進」（57.6%）と答えた人の割合が高く、「森林や緑の働き等を普及啓発する施策」（19.0%）と答えた人の割合が低くなっている。

### 緑豊かなあいちの実現のための施策（性別、年齢別、居住地域別、職業別）



(3) 森や緑づくりへの関心

“関わりたい”は25%、「関わってもよい」を合わせると61%



森や緑づくりに、「積極的に関わりたい」(2.9%)と「何らかの形で関わりたい」(22.5%)を合わせた“関わりたい”と答えた人の割合は25.4%となっている。「関わってもよい」と答えた人の割合は35.1%で、合わせると60.5%が“関わってもよい”と回答している。

一方、「あまり関わりたくない」(12.7%)と「関わりたくない」(6.8%)を合わせた“関わりたくない”と答えた人の割合は19.5%となっている。

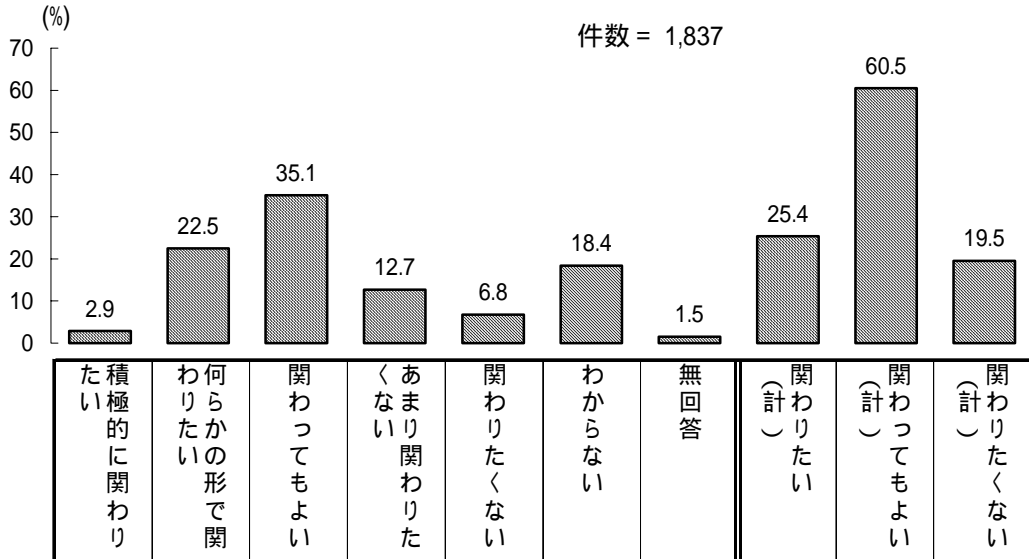
性別でみると、大きな差異はみられない。

年齢別でみると、“関わってもよい”と答えた人の割合は、年齢が若いほど高くなっており、20歳代（70.2%）では7割を超えている。また、“関わりたい”と答えた人の割合は、30歳代（29.5%）で最も高くなっている。

居住地域別でみると、大きな差異はみられない。

職業別でみると、大きな差異はみられない。

### 森や緑づくりへの関心（性別、年齢別、居住地域別、職業別）

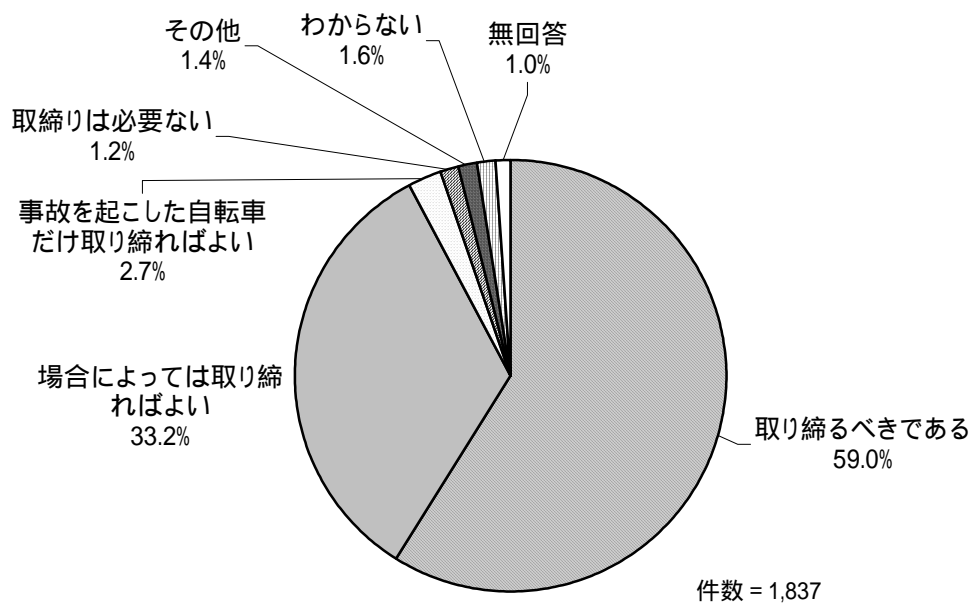


		た積い極的に関わり	わ何りらたかいい形で関	関わってもよい	くあなまり関わりた	関わりたくない	わからない	無回答	(計)関わりたい	(計)関わってもよい	(計)関わりたくない
性別	男性	4.0	23.0	34.7	14.5	6.9	15.6	1.2	27.0	61.7	21.5
	女性	2.0	21.9	35.6	11.5	6.8	20.6	1.6	23.9	59.5	18.3
年齢別	20～29歳	2.9	24.9	42.4	9.3	6.8	13.7	0.0	27.8	70.2	16.1
	30～39歳	3.7	25.8	36.6	11.8	4.3	17.4	0.3	29.5	66.1	16.1
	40～49歳	1.0	21.7	42.5	13.0	5.0	15.7	1.0	22.7	65.2	18.1
	50～59歳	1.7	25.7	32.0	15.1	7.1	17.1	1.1	27.4	59.4	22.3
	60～64歳	6.2	18.9	33.5	14.1	5.7	19.8	1.8	25.1	58.6	19.8
	65歳以上	2.9	17.8	28.6	12.7	10.5	23.7	3.7	20.8	49.4	23.2
地域別	名古屋地域	4.6	21.4	34.3	12.5	7.9	17.7	1.5	26.0	60.3	20.5
	尾張地域	1.8	22.5	36.3	13.1	6.1	18.7	1.4	24.4	60.7	19.2
	西三河地域	2.2	23.9	34.8	13.9	5.2	18.5	1.6	26.1	60.9	19.0
	東三河地域	3.6	22.4	33.9	11.5	9.4	18.2	1.0	26.0	59.9	20.8
職業別	自営業	4.3	22.7	25.6	13.5	8.7	22.7	2.4	27.1	52.7	22.2
	勤め人	2.5	24.1	39.5	12.9	5.3	14.7	1.0	26.7	66.1	18.2
	無職	2.8	20.2	31.9	12.7	8.6	21.8	2.0	23.0	54.9	21.3

## 7 改正道路交通法施行後の県民意識

### (1) 自転車の交通違反に対する取締り 「取り締まるべきである」が59%

問 19 自転車の交通違反が原因による交通事故が多発していることから、悪質・危険な自転車の違反に対して交通取締りを実施しています。あなたは、悪質・危険な自転車の違反に対する取締りをどう思いますか。次の中からあてはまるものを選んで番号をつけてください。( は1つ)



悪質・危険な自転車の違反に対する取締りについては、「取り締まるべきである」と答えた人の割合が59.0%と最も高く、次いで「場合によっては取り締ればよい」(33.2%)となっている。

一方、「取締りは必要ない」と答えた人の割合は1.2%となっている。

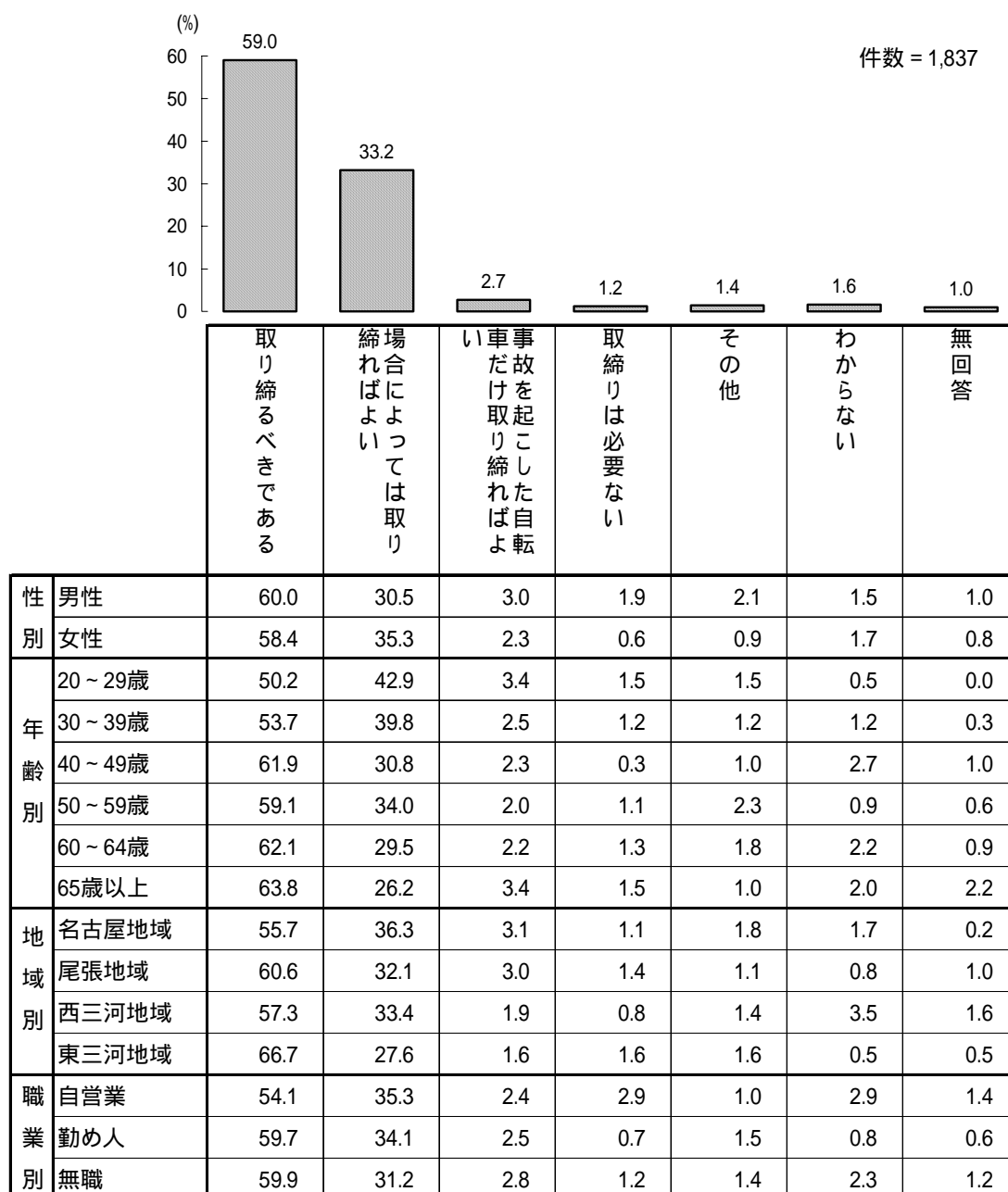
性別でみると、「取り締るべきである」と答えた人の割合は女性(58.4%)より男性(60.0%)で1.6ポイント高くなっているのに対し、「場合によっては取り締ればよい」と答えた人の割合は、男性(30.5%)より女性(35.3%)で4.8ポイント高くなっている。

年齢別でみると、「取り締るべきである」と答えた人の割合は高年齢層で高くなっているのに対し、「場合によっては取り締ればよい」と答えた人の割合は若年齢層で高くなっている。

居住地域別でみると、「取り締るべきである」と答えた人の割合は、東三河地域(66.7%)で高く、「場合によっては取り締ればよい」と答えた人の割合は、名古屋地域(36.3%)で高くなっている。

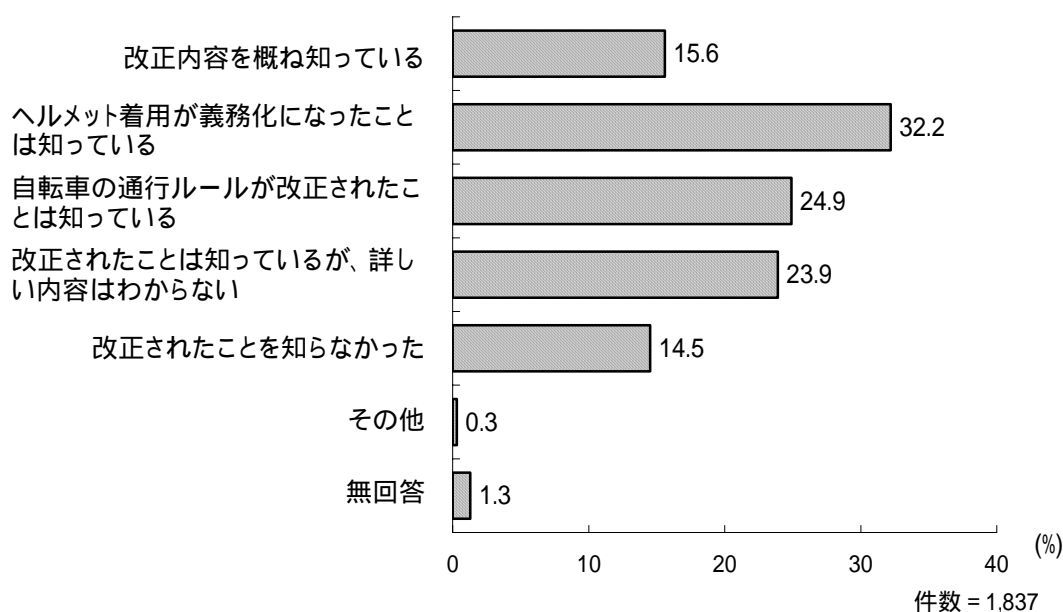
職業別でみると、「取り締るべきである」と答えた人の割合は、無職(59.9%)で高く、自営業(54.1%)で低くなっている。

### 自転車の交通違反に対する取締り（性別、年齢別、居住地域別、職業別）



(2) 改正道路交通法(自転車に関する規定)の認知度  
 「ヘルメット着用が義務化になったことは知っている」が32%

問20 あなたは、幼児・児童の自転車の乗車用ヘルメット着用義務及び歩道の通行ルール等に関する改正道路交通法が施行されたことを知っていますか。次の中からあてはまるものを選んで番号に をつけてください。( は2つまで)



改正道路交通法(自転車に関する規定)の認知度については、「ヘルメット着用が義務化になったことは知っている」と答えた人の割合が32.2%で最も高く、次いで「自転車の通行ルールが改正されたことは知っている」(24.9%)、「改正されたことは知っているが、詳しい内容はわからない」(23.9%)、「改正内容を概ね知っている」(15.6%)の順になっている。一方で、「改正されたことを知らなかった」と答えた人の割合は14.5%となっている。

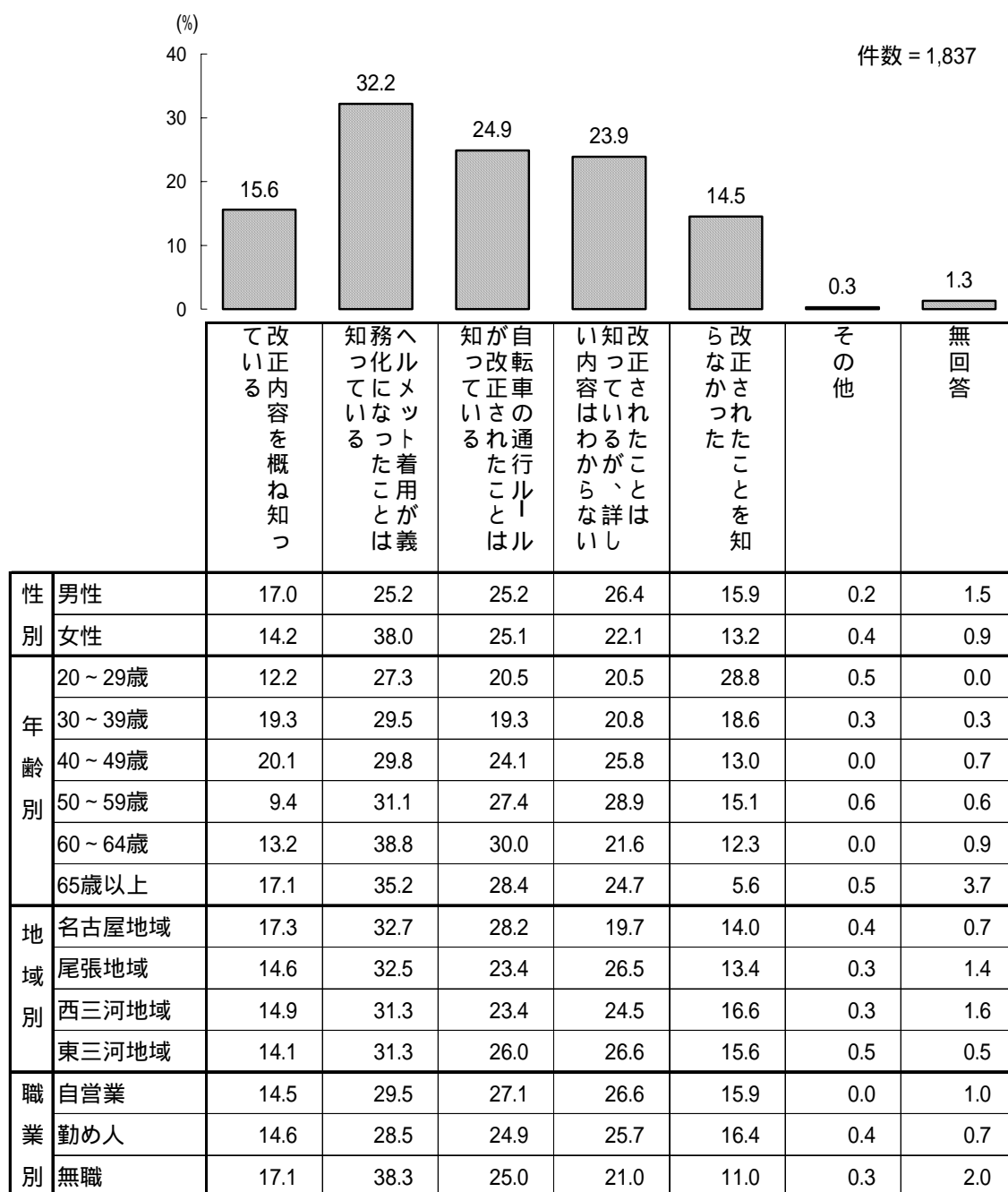
性別でみると、「ヘルメット着用が義務化になったことは知っている」と答えた人の割合は、男性（25.2%）より女性（38.0%）で12.8ポイント高くなっている。

年齢別でみると、「改正内容を概ね知っている」と答えた人の割合は40歳代（20.1%）で高く、50歳代で（9.4%）で低くなっている。一方、「改正されたことを知らなかった」と答えた人の割合は、20歳代（28.8%）で高く、65歳以上（5.6%）で低くなっている。

居住地域別でみると、「改正されたことは知っているが、詳しい内容はわからない」と答えた人の割合は、東三河地域（26.6%）で高く、名古屋地域（19.7%）で低くなっている。

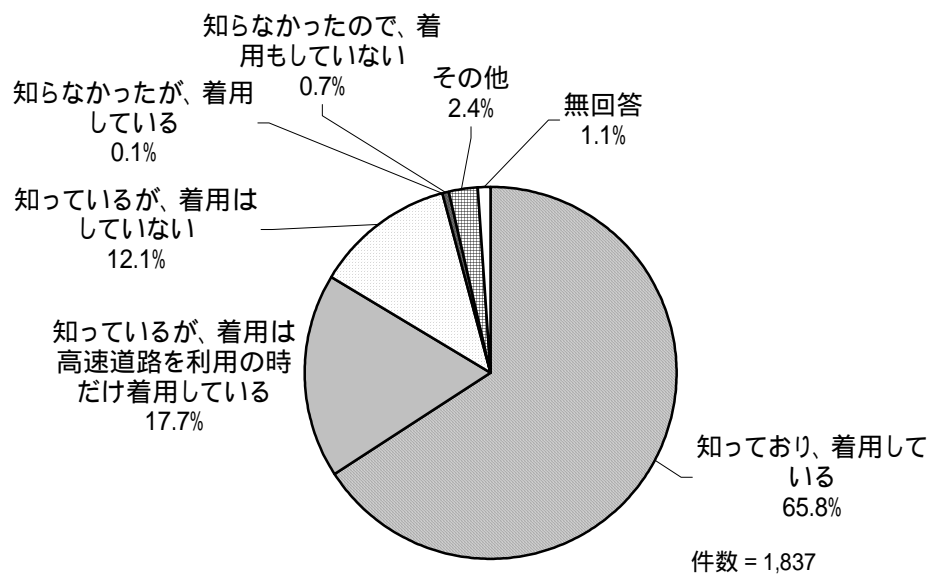
職業別でみると、「ヘルメット着用が義務化になったことは知っている」と答えた人の割合は、無職（38.3%）で高く、勤め人（28.5%）で低くなっている。

### 改正道路交通法（自転車に関する規定）の認知度（性別、年齢別、居住地域別、職業別）



(3) 全席シートベルト着用義務化の認知度  
「知っており、着用している」が66%

問 21 あなたは、後部座席に乗車する際、シートベルト着用が義務化される改正道路交通法が施行されたことを知っていますか。また、着用をしていますか。次の中からあてはまるものを選んで番号に をつけてください。( は1つ)



後部座席でもシートベルト着用が義務化されたことについては、「知っており、着用している」と回答した人の割合が 65.8%と最も高くなっている。「知っているが、着用は高速道路を利用の時だけ着用している」(17.7%)と「知っているが、着用はしていない」(12.1%)はそれぞれ1割台となっている。

性別で見ると、「知っており、着用している」と答えた人の割合は、男性（62.8%）より女性（68.2%）で5.4ポイント高くなっている。

年齢別で見ると、「知っており、着用している」と答えた人の割合は、高年齢層が高く、65歳以上では77.0%となっている。一方、「知っているが、着用はしていない」と答えた人の割合は若年齢層ほど高くなっている。

居住地域別で見ると、大きな差異はみられない。

職業別で見ると、「知っており、着用している」と答えた人の割合は無職（72.7%）で高くなっている。

### 全席シートベルト着用義務化の認知度（性別、年齢別、居住地域別、職業別）

